

# Novell exteNd Composer™ 3270 Connect

4.2

ユーザガイド

[www.novell.com](http://www.novell.com)



**Novell®**

## 保証と著作権

Copyright ©1999, 2000, 2001, 2002, 2003 SilverStream Software, LLC. All rights reserved.

SilverStream ソフトウェア製品は、SilverStream Software LLC により著作権とすべての権利が保留されています。

SilverStream は SilverStream Software, LLC の登録商標です。Novell は、Novell, Inc. の登録商標です。

ソフトウェアとマニュアルの所有権、および特許、著作権、およびそれに関連するその他のすべての財産権は常に、単独で排他的に SilverStream とそのライセンサーに保留され、当該所有権と矛盾するいかなる行為も行わないものとします。本ソフトウェアは、著作権法と国際条約規定で保護されています。ソフトウェアならびにそのマニュアルからすべての著作権に関する通知とその他の所有権に関する通知を削除してはならず、ソフトウェアとそのマニュアルのすべてのコピーまたは抜粋に当該通知を複製しなければなりません。本ソフトウェアのいかなる所有権も取得するものではありません。

Jakarta-Regexp Copyright ©1999 The Apache Software Foundation. All rights reserved. Ant Copyright ©1999 The Apache Software Foundation. All rights reserved. Xalan Copyright ©1999 The Apache Software Foundation. All rights reserved. Xerces Copyright ©1999-2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. Jakarta-Regexp, Ant, Xalan, Crimson、および Xerces ソフトウェアは、The Apache Software Foundation によりライセンスを付与され、Jakarta-Regexp, Ant, Xalan, Crimson、および Xerces のソースおよびバイナリ形式での再配布および使用は、変更のあるなしにかかわらず、以下の条件が満たされることを前提として許可されます。1. ソースコードの再配布に上記の著作権に関する通知、条件のリスト、および以下の権利放棄に関する通知が記載されていること。2. バイナリ形式の再配布では上記の著作権に関する通知、条件のリスト、および以下の権利放棄に関する通知がマニュアルまたは配布の際に提供されるその他の資料、あるいはその両方に記載されていること。3. エンドユーザの資料には、適宜、以下の通知を再配布の際に含めてください。「この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています」代わりに、この謝辞をソフトウェア自体に表示し、当該サードパーティに対する謝辞が通常表示される場所に表示することもできます。4. 「The Jakarta Project」、「Jakarta-Regexp」、「Xerces」、「Xalan」、「Ant」、および「Apache Software Foundation」は、書面による事前の許可なく、このソフトウェアから派生する製品を推薦したり、販売促進したりするのに使用してはなりません。書面による許可については、[apache@apache.org](mailto:apache@apache.org) <<mailto:apache@apache.org>> にお問い合わせください。5. 本ソフトウェアから派生する製品は「Apache」と呼ばれてはならず、「Apache」は The Apache Software Foundation の事前の書面による許可なくその名前に使用することはできません。本ソフトウェアは「現状のまま」提供され、いかなる明示的、暗黙の保証も行われるものではありません。販売可能性や特定の目的に対する適合性に対する暗黙の保証も行われません。いかなる場合でも、Apache Software Foundation またはその関係者はいかなる直接的、間接的、偶発的、特別な、免除的、または結果的な損害（代替品やサービスの調達、使用機会、データ、または利益の喪失、または業務の中断などを含む）についても、理論上責任がある場合でも、契約上の責任がある場合でも、厳密な責任、または瑕疵（怠慢などを含む）があった場合でも、ソフトウェアの使用の過程で生じ、当該損害の可能性を助言した場合であっても、責任を持ちません。

Copyright ©2000 Brett McLaughlin & Jason Hunter. All rights reserved. ソースおよびバイナリ形式での再配布および使用は、変更のあるなしにかかわらず、以下の条件が満たされることを前提として許可されます。1. ソースコードの再配布に上記の著作権に関する通知、条件のリスト、および以下の権利放棄に関する通知が記載されていること。2. バイナリ形式の再配布では上記の著作権に関する通知、条件のリスト、および以下の権利放棄に関する通知がマニュアルまたは配布の際に提供されるその他の資料、あるいはその両方に記載されていること。3. 「JDOM」という名前は、書面による事前の許可なく、このソフトウェアから派生する製品を推薦したり、販売促進したりするのに使用してはなりません。書面による許可については、[license@jdom.org](mailto:license@jdom.org) <<mailto:license@jdom.org>> にお問い合わせください。4. 本ソフトウェアから派生する製品は「JDOM」と呼ばれてはならず、「JDOM」は JDOM Project Management ([pm@jdom.org](mailto:pm@jdom.org) <<mailto:pm@jdom.org>>) の事前の書面による許可なくその名前に使用することはできません。本ソフトウェアは「現状のまま」提供され、いかなる明示的、暗黙の保証も行われるものではありません。販売可能性や特定の目的に対する適合性に対する暗黙の保証も行われません。いかなる場合でも、Apache Software Foundation またはその関係者はいかなる直接的、間接的、偶発的、特別な、免除的、または結果的な損害 ( 代替品やサービスの調達、使用機会、データ、または利益の喪失、または業務の中断などを含む ) についても、理論上責任がある場合でも、契約上の責任がある場合でも、厳密な責任、または瑕疵 ( 怠慢などを含む ) があつた場合でも、ソフトウェアの使用の過程で生じ、当該損害の可能性を助言した場合であっても、責任を持ちません。

Sun Microsystems, Inc. Sun, Sun Microsystems, Sun Logo Sun、Sun のロゴ、Sun Microsystems、JavaBeans、Enterprise JavaBeans、JavaServer Pages、Java Naming and Directory Interface、JDK、JDBC、Java、HotJava、HotJava Views、Visual Java、Solaris、NEO、Joe、Netra、NFS、ONC、ONC+、OpenWindows、PC-NFS、SNM、SunNet Manager、Solaris sunburst design、Solstice、SunCore、SolarNet、SunWeb、Sun Workstation、The Network Is The Computer、ToolTalk、Ultra、Ultracomputing、Ultraserver、Where The Network Is Going、SunWorkShop、XView、Java WorkShop、Java Coffee Cup のロゴ、Visual Java、および NetBeans は、米国およびその他の国の Sun Microsystems, Inc. の商標ならびに登録商標です。

Copyright ©2001 Extreme! Lab, Indiana University License. <http://www.extreme.indiana.edu>. 同社により許可が無料で、Indiana University ソフトウェアと関連する Indiana University のドキュメントファイル ( 「IU Software」 ) のコピーを取得したすべての人に、制限なく IU Software を取り扱うために付与されます。その際に、IU Software の使用、コピー、変更、マージ、公開、配布、サブライセンス、または販売、あるいはそれらのすべてに関する権利に制限はなく、IU Software が指定した人に以下の条件に基づき権利を付与します。上記の著作権に関する通知とその許可に関する通知は、IU Software のすべてのコピーおよび主要部分に含まれる必要があります。本 IU ソフトウェアは「現状のまま」提供され、いかなる明示的、暗黙の保証も行われるものではありません。販売可能性、特定の目的に対する適合性や権利侵害がないことに対する暗黙の保証も行われません。いかなる場合でも、作成者または著作権所有者は、契約上の責任がある場合でも、厳密な責任、または瑕疵 ( 怠慢などを含む ) があつた場合でも、UI Software に関連して、または UI Software の使用やその他の取引の過程で生じた場合であっても、クレーム、損害、その他の責任について責任を持ちません。

本ソフトウェアは、著作権をもつ SSLavaTM Toolkit の一部です。Copyright ©1996-1998 by Phaos Technology Corporation. All rights reserved.

Copyright © 1994-2002 W3C® (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de Recherche Informatique et en Automatique, Keio University), all Rights Reserved. <http://www.w3.org/consortium/legal>. この W3C の成果物 ( ソフトウェア、ドキュメント、またはその他の関連品目を含む ) は、以下のライセンスの下で著作権所有者により提供されています。この成果物の取得、使用、またはコピー、あるいはそれらのすべてにより、ライセンシーは以下の条件を読み、理解し、遵守することに合意するものとします。本ソフトウェアとそのドキュメントの使用、コピー、変更、および配布は、変更のあるなしにかかわらず、いかなる目的でも無料または本契約で許可された使用料をもって許可されます。ただし、変更箇所を含む本ソフトウェアとドキュメントのすべてまたはその一部に以下のとおり記述することを前提とします。1. この通知の全文は、再配布物または派生物のユーザが見やすい場所に掲示しなければなりません。2. すべての前もって存在する知的所有権の放棄、通知、または条件。存在しない場合は、以下の形式の短い通知 ( ハイパーテキストが望ましい、テキストでも良い ) を再配布または派生コードの本文内で使用しなければなりません。「Copyright © [ \$date-of-software ] World Wide Web Consortium, (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de Recherche en Informatique et en Automatique, Keio University). All Rights Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>」3. W3C のファイルに変更または修正を加えた場合はその日付を含む通知。( コードが派生する場所への URI を示すことをお勧めします。 ) 本ソフトウェアは「現状のまま」提供され、いかなる明示的、暗黙の保証も行われるものではありません。販売可能性、特定の目的に対する適合性やサードパーティの特許、著作権、商標またはその他の権利を侵害しないことに対する暗黙の保証も行われません。著作権の所有者は本ソフトウェアまたはマニュアルの使用の結果生じる、直接的、間接的、特殊な、または結果的な損害に対していかなる責任も負いません。著作権所有者の名前および商標は、特別な書面による事前の承諾なしにソフトウェアに関する広告や広報に使用してはなりません。本ソフトウェアおよび関連する資料の著作権の所有権は常に、著作権所有者に帰属するものとします。

米国 Novell, Inc.  
1800 South Novell Place  
Provo, UT 85606

[www.novell.com](http://www.novell.com)

3270 Connect ユーザガイド  
2003 年 1 月  
000-000000-000

**オンラインマニュアル**：この製品およびその他の Novell 製品のオンラインマニュアルや更新情報については、[www.novell.com/documentation](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

## **Novell の商標**

Novell および jBroker は Novell, Inc. の登録商標です。また Novell exteNd は Novell, Inc. の商標です。

## **サードパーティ商標**

Sun Microsystems, Inc. Sun, Sun Microsystems, Sun Logo Sun、Sun のロゴ、Sun Microsystems、JavaBeans、Enterprise JavaBeans、JavaServer Pages、Java Naming and Directory Interface、JDK、JDBC、Java、HotJava、HotJava Views、Visual Java、Solaris、NEO、Joe、Netra、NFS、ONC、ONC+、OpenWindows、PC-NFS、SNM、SunNet Manager、Solaris sunburst design、Solstice、SunCore、SolarNet、SunWeb、Sun Workstation、The Network Is The Computer、ToolTalk、Ultra、Ultracomputing、Ultraserver、Where The Network Is Going、SunWorkShop、XView、Java WorkShop、Java Coffee Cup のロゴ、Visual Java、および NetBeans は、米国およびその他の国の Sun Microsystems, Inc. の商標ならびに登録商標です。

# 目次

このガイドについて	9
<b>1 exteNd Composer および 3270 User Interface へようこそ</b>	<b>11</b>
はじめに	11
exteNd Compose コネクタについて	12
3270 (TDS) Connect とは	13
exteNd Composer の 3270 コンポーネントについて	14
3270 User Interface コンポーネントエディタを使用して作成できるアプリケーション	16
さらに詳しいヘルプの参照先	16
<b>2 3270 コンポーネントエディタの使用</b>	<b>17</b>
サンプルトランザクション	17
3270 接続リソースの作成	18
システムメッセージの処理	25
スタイルシートリソースの作成	28
コンポーネントに対する XML テンプレートの作成	31
<b>3 3270 コンポーネントの作成</b>	<b>33</b>
3270 コンポーネントを作成する前に	33
3270 コンポーネントエディタウィンドウについて	36
3270 固有のメニューバー項目について	41
<b>4 3270 アクションの実行</b>	<b>45</b>
アクションについて	45
3270 専用アクションについて	46
3270 セッションの記録	48
3270 Multi Row ウィザードについて	62
アニメーションツールの使用	83
Component with Connection アクション	88
ネイティブ環境ペインでのスタイルシートの使用	92
3270 コンポーネントエディタでの他のアクションの使用	93
エラーおよびメッセージの処理	95
<b>5 ログオンコンポーネント、接続、および接続プール</b>	<b>99</b>
3270 端末セッションパフォーマンスについて	99
接続プールアーキテクチャ	100
3270 ログオン接続について	102
3270 ログオンコンポーネントについて	104
接続プールの作成	110
接続の作成	110
ログオンコンポーネントの作成	111
プール接続を使用したログオン接続の作成	113
セッション接続を使用したログオン接続の作成	118
3270 端末コンポーネントの作成	120
プールの管理	121

	接続プール管理および配備済みのサービス .....	123
<b>A</b>	<b>テスト</b> .....	<b>127</b>
	アニメーションテストと配備テストの環境的相違 .....	127
<b>B</b>	<b>Java コードページ</b> .....	<b>129</b>
	文字エンコーディングについて .....	129
<b>C</b>	<b>3270 用語集</b> .....	<b>131</b>
<b>D</b>	<b>予約語</b> .....	<b>133</b>

# このガイドについて

## 目的

このガイドでは、3270 コンポーネントエディタと呼ばれる exteNd Composer 3270 Connect の使用方法について説明します。3270 コンポーネントエディタは、exteNd Composer で個別にインストールされるコンポーネントエディタです。

## 対象読者

このガイドの対象読者は、exteNd Composer を使用して、3270 アプリケーションを統合するサービスやコンポーネントを作成する開発者およびシステムインテグレータです。

## 前提条件

このガイドでは、読者が exteNd Composer の開発環境および配備オプションに精通しており、これらを使用したことがあるという前提で説明していきます。また、3270 環境を理解しておく必要もあります。

## 追加のドキュメント

Novell exteNd Composer の完全なマニュアルのセットは、Novell マニュアルの Web サイト (<http://www.novell.com/documentation-index/index.jsp>) を参照してください。

## 構成

このガイドは、次のように編成されています。

第 1 章「exteNd Composer および 3270 へようこそ」では、3270 コンポーネントエディタの定義および概要について説明します。

第 2 章「3270 コンポーネントエディタをお使いになる前に」では、3270 コンポーネントを作成するために必要な準備について説明します。

第3章「3270 コンポーネントの作成」では、コンポーネントエディタの異なる部分について説明します。

第4章「3270 アクションの実行」では、基本的な 3270 アクションの使用方法、および 3270 Multi Row Wizard について説明します。

第5章「ログオンコンポーネント、接続、および接続プール」では、ログオンコンポーネント、接続、および接続プールについて説明します。

付録 A 「テスト」では、アニメーションテスト時と配備テスト時における環境的相違点について説明します。

付録 B 「Java コードページ」では、文字エンコーディング変換機能に関する参照情報について説明します。

付録 C は、用語集です。

付録 D では、3270 でのみ使用される「予約語」について説明します。

## このガイドで使用する表記規則

このガイドで使用する表記規則は、次のとおりです。

手順での「太字」のフォントは、次のアクション項目を示します。

- ◆ メニューの選択
- ◆ フォームの選択
- ◆ ダイアログボックス項目

太字の **Sans Serif** フォントは、次の項目に使用します。

- ◆ Uniform Resource Identifier
- ◆ ファイル名
- ◆ ディレクトリおよび部分的なパス名

「斜体」のフォントは、次の項目を示します。

- ◆ 入力する変数情報
- ◆ 新出の技術用語
- ◆ 他の Novell 出版物のタイトル

「モノスペース」のフォントは、次の項目を示します。

- ◆ メソッド名
- ◆ コードの例
- ◆ システム入力
- ◆ オペレーティングシステムオブジェクト

# 1

## exteNd Composer および 3270 User Interface へようこそ

### はじめに

『3270 Connect ガイド』へようこそ。このガイドは、Composer の全機能 (Connect コンポーネントエディタを除く ) の使用方法が詳しく説明されている『exteNd Composer ユーザガイド』に付属しています。ユーザガイドをご覧になっていない場合は、このガイドを使用する前に読んで内容を確認してください。

exteNd Composer には、3270 など、コネクタごとに異なるコンポーネントエディタが用意されています。各コンポーネントエディタの特殊な機能は、これと同じような別のガイドで説明されています。

exteNd Composer を使用しており、コアコンポーネントエディタである XML Map コンポーネントエディタに精通している場合は、このガイドに従って 3270 コンポーネントエディタを簡単に使用することができます。

作業を始める前に、まず 3270 Connect を既存の exteNd Composer にインストールしておく必要があります。また、このコネクタで作成されたサービスを exteNd Composer Enterprise Server 環境で実行するには、このコネクタ用のサーバ側ソフトウェアが exteNd Composer Enterprise Server にインストールされている必要があります。

**注記：** このコンポーネントエディタを正しく使用するには、IBM 3270 環境と、XML に対応させるアプリケーションに慣れ親しんでおく必要があります。

## exteNd Compose コネクタについて

exteNd Composer は、単純なハブ & スポークアーキテクチャに基づいて構築されています。ハブは、XML ドキュメントを使用して要求を受け付け、XML に対応したアプリケーション上でこのようなドキュメントやインタフェースで変換プロセスを実行し、XML 応答ドキュメントを返す強力な XML 変換エンジンです。スポーク (つまりコネクタ) は、XML 対応でないデータのソースを「XML に対応させる」プラグインモジュールで、データをハブに送信して XML として処理します。これらのデータソースには、レガシー COBOL/ アプリケーションから、HTML ページに対するメッセージキューまで何でも使用できます。

exteNd Compose コネクタは、情報ソースを XML に対応させるために各製品で使用されている統合方法に従って分類できます。統合方法は、インターネットベースのコンピュータアーキテクチャに対する現在のシステム設計において使用される主要な区分を反映したものです。exteNd Composer では、B2B のニーズとレガシーアプリケーションのアーキテクチャに応じて、ユーザインタフェースレベル、プログラム論理レベル、またはデータレベルでビジネスシステムを統合できます。

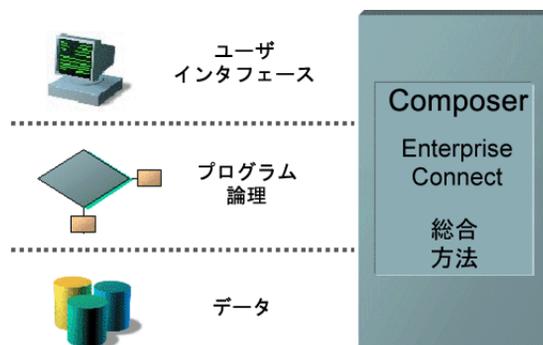


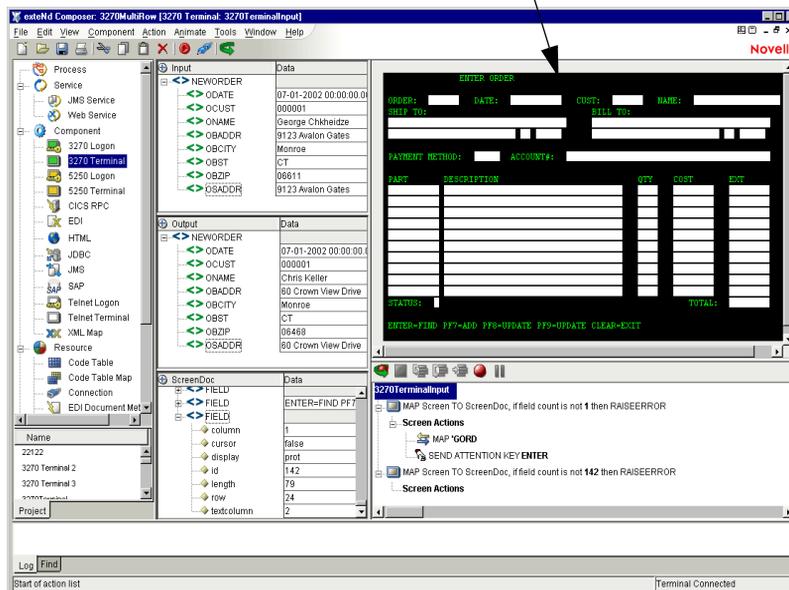
図 1-1

## 3270 (TDS) Connect とは

TDS ( 端末データストリーム ) にフッキングすることによって User Interface 統合方法を使用する、3270 Connect XML に対応した IBM 互換メインフレームレガシーシステムデータです。3270 という用語は、IBM メインフレームシステムへの接続に使用される一般的な「ダム端末」タイプを参照するために通常は使用されます。IBM メインフレームに接続する際、3270 TDS では、IBM の EBCDIC 文字エンコードスキームを使用します。1960 年代に開発された 3270 TDS は、生成の標準として登場し、今日でも根強く生き残っています。3270 TDS は、適切なアクションを実行するためにメインフレームで実行されているアプリケーションによって解釈されるアテンションキー ( 例 : <Enter> キーや PF キー ) を使用して、レガシーアプリケーションを操作できるようにします。ダム端末を通じて行われるこの操作は、すべてのデータがメインフレームコンピュータからの処理済みの情報であることを意味します。3270 端末エミュレーションソフトウェアは、メインフレームとの通信中にマイクロコンピュータまたは PC を 3270 タイプの端末であるかのように動作させるために使用できます。

3270 Connect を使用すると、レガシーアプリケーションやそれらのビジネス論理をインターネットプロセス、エクストラネットプロセス、またはイントラネットプロセスに対して利用可能にすることができます。端末セッションの場合と同様にアプリケーションを移動したり、キー入力する代わりに XML 要求ドキュメントを使用して問い合わせや更新を画面に送り込んだり、アプリケーション画面から返されたメッセージを使用して端末の場合と同様に同じ決断を下したり、リクエストに返すことのできる XML ドキュメントにデータや応答を移動するか処理を続行することができます。3270 画面は、3270 コンポーネントエディタのネイティブ環境画面に表示されます。

ネイティブ環境ペインに 3270 画面が表示される



## exteNd Composer の 3270 コンポーネントについて

XML Map コンポーネントと同様に、3270 コンポーネントは、2つの異なる XML テンプレート (つまり、要求 XML ドキュメントと応答 XML ドキュメント) 間でデータをマップ、変換、および転送するために設計されています。ただし、メインフレームアプリケーションに (TN3270 または EPI を通じて) 接続し、DOM の要素を使用してデータを処理し、結果を出力 DOM にマップすることを専門としています。その後、統合アプリケーションに適切な方法で、出力 DOM に基づいて処置を取ることができます。本質的には、レガシーシステム自体を変更せずに、レガシーシステムからデータをキャプチャしたり、レガシーシステムにデータをプッシュすることが可能です。

3270 コンポーネントでは、単純なデータ操作 (XML ドキュメントからメインフレームトランザクションへのデータのマップや転送など) を実行したり、3270 トランザクションの「スクリーンスクレーピング」を実行したりして、XML ドキュメントにデータを配置することができます。また、複数行や複数画面のトランザクションのマップおよび操作などの高度な操作も実行できます。3270 コンポーネントには XML Map コンポーネントの全機能が備わっており、XSL の処理、メールの送信、および HTTP プロトコルを使用した XML ドキュメントのポストと受信を実行できます。

メインフレームのデータを操作するために 3270 コンポーネントで TN3270 または EPI 接続が使用される方法は、次の図のとおりです。

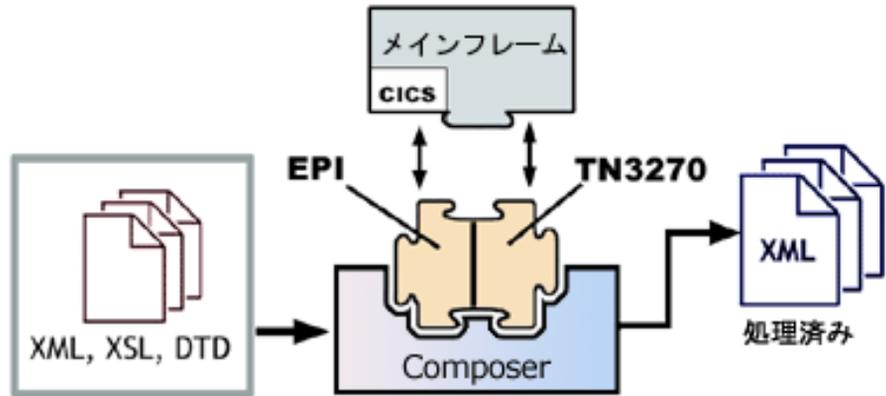


図 1-2

## 3270 User Interface コンポーネントエディタを使用して作成できるアプリケーション

3270 User Interface コンポーネントエディタを使用すると、作成している XML 統合を拡張して、3270 ベースの端末操作をサポートするビジネスアプリケーションをどれでも含めることができます ( 詳細については、『exteNd Composer ユーザガイド』を参照してください)。たとえば、定期的に更新されるデータベースから製品の説明、画像、価格、および在庫情報を取得して Web ブラウザに表示するアプリケーションがあるとします。3270 コンポーネントエディタを使用すると、動作中のシステムから最新の製品情報を取得したり、データベースから静的情報 ( 画像など ) を取得し、個別の情報ソースの情報をマージしてから、ユーザに対して表示できます。これにより、内部ユーザと外部ユーザの両方に同じ最新情報が提供されます。

### さらに詳しいヘルプの参照先

多くの場合、Composer の 3270 Connect を理解するための最適な方法は、実際に動作している状態で確認することです。テスト環境でレガシーランザクションにアクセスできるようにする 3270 Connect 用のチュートリアルを使用する場合は、Novell テクニカルサポートから接続情報、チュートリアル手順、および他のサポート資料を入手できます。

また、これらの情報は、Novell の Web サイト ([www.Novell.com](http://www.Novell.com)) にも掲載されています。

# 2

## 3270 コンポーネントエディタの使用

### サンプルトランザクション

このドキュメントでは、PART、GORD、および MENU という 3 種類のトランザクションのサンプルを例として使用します。これらのトランザクションは、オペレータが使用するトランザクションの典型です。PART トランザクションは、オペレータが SKU 番号を使用してデータベースへの問い合わせを行うシナリオです。GORD トランザクションは、1 つまたは複数のアイテムへの注文が発行されるシナリオです。MENU トランザクションは、オペレータがメニュー駆動型のアプリケーションを移動して特定の画面にアクセスするシナリオです。PART、GORD、MENU の各トランザクションは、実際のシナリオと同様の操作を行う Composer サービスを作成する方法を示すために使用します。

### 3270 コンポーネントの作成に使用される一般的な手順

3270 コンポーネントを作成する方法はいくつもありますが、単純な 3270 コンポーネントの作成に使用される一般的な手順は次のとおりです。

- 1 トランザクションの XML テンプレートを作成します。
- 2 接続リソースを作成します。
- 3 コンポーネントを開きます。
- 4 記録モードを入力し、トランザクションへ移動します。
- 5 入力ドキュメントを画面にドラッグアンドドロップします。
- 6 キーボード操作でトランザクションを処理します。
- 7 画面の結果を出力ドキュメントにドラッグアンドドロップします。
- 8 記録を停止します。

## 3270 接続リソースの作成

3270 コンポーネントを作成する前に、メインフレームトランザクションにアクセスするための接続リソースを作成する必要があります。

### 接続リソースについて

3270 コンポーネントの接続リソースを作成する場合、TN3270 接続または EPI 3270 接続のうちいずれかを選択できます。TN3270 接続は、使用しているアプリケーションまたはトランザクション処理モニタに関わらず、IBM メインフレーム環境を作成する場合に使用できます。EPI 3270 接続は、EPI (External Presentation Interface) の API をサポートする CICS アプリケーションの領域に直接接続する場合に使用できます。この接続では、TCP/IP を使用して CICS ホストの EPI ゲートウェイにアクセスします。

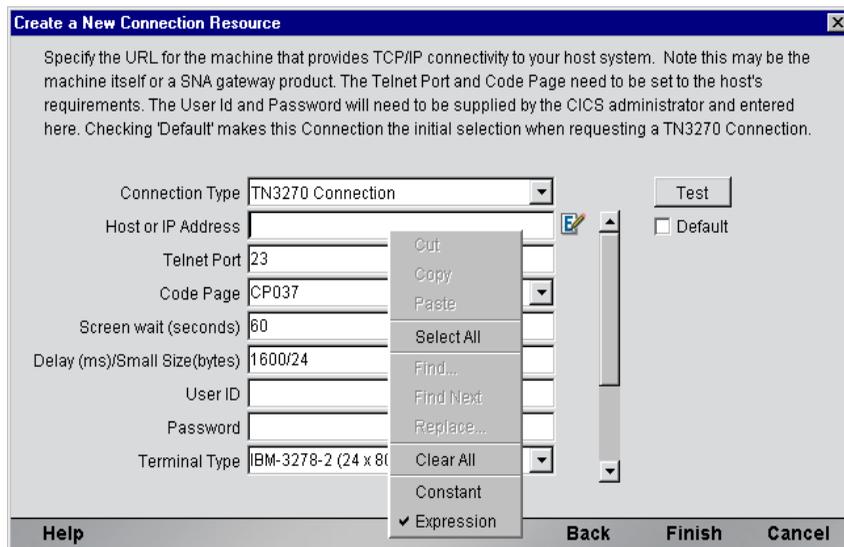
### 定数駆動型および式駆動型の接続について

接続パラメータの値は、定数または式としての方法のうちいずれかを使用して指定できます。定数ベースのパラメータでは、接続が使用されるたびに [Connection] ダイアログボックスで入力した値を使用します。式ベースのパラメータでは、ランタイム時に接続が使用されるたびに異なる値となり得る、プログラマ的な式を使用して値を設定できます。この場合、接続の動作は柔軟になり、接続の使用ごとにランタイム時の条件に対応できるようになります。

たとえば、EPI 3270 接続における式駆動型のパラメータの非常に単純な使用の 1 つは、ユーザ ID とパスワードを PROJECT 変数 (例: PROJECT.XPATH("USERCONFIG/MyDeployUser")) として定義することです。このようにすると、プロジェクトを配備する際に、Deployment Wizard で PROJECT 変数を最終配備環境に適切な値に更新できます。それとは逆に、アプリケーションサーバで Java ビジネスオブジェクトを照会するカスタムスクリプトを使って、使用するユーザ ID とパスワードを決定することもできます。

#### ➤ 定数駆動型から式駆動型にパラメータを切り替える

- 1 変更するパラメータフィールドでマウスを右クリックします。
- 2 コンテキストメニューから [Expression] を選択すると、エディタボタンが表示されるか、または有効になります。
- 3 ボタンをクリックし、ランタイム時に有効なパラメータ値を返す式を作成します。

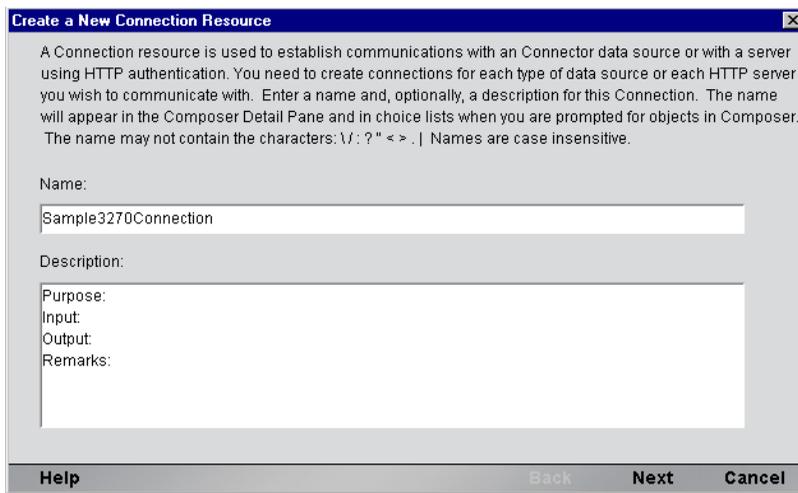


## ➤ 3270 接続リソースを作成する

- 1 Composer の **[File]** メニューから、**[New xObject]**、**[Resource]**、**[Connection]** の順に選択します。

**注記：** または、Composer ウィンドウのカテゴリペインで **[Connection]** を選択し、マウスを右クリックした後で **[New]** を選択することもできます。

「Create a New Connection Resource」ウィザードが表示されます。



- 2 **[Name]** に、接続オブジェクトの名前を入力します。

- 3 オプションとして、[Description] に説明のテキストを入力します。
- 4 [Next] をクリックします。

➤ **TN3270 接続または EPI 3270 接続を選択する**

- 1 [Connection Type] プルダウンメニューから使用する接続を選択します。

**注記：** CICS Java ゲートウェイから CICS アプリケーションに接続する場合は、[EPI 3270 Connection] タイプを使用します。CICS 以外のアプリケーションを使用する場合は、[TN3270 Connection] タイプを使用します。

**Create a New Connection Resource**

Specify the URL for the machine where the IBM Java Gateway is running. The Server Name comes from the cicsccli.ini file located in the bin directory of Java Gateway and points the Gateway to the CICS region that you are attaching to. The User Id and Password will need to be supplied by the CICS administrator and entered here. Checking 'Default' makes this Connection the initial selection when requesting an EPI 3270 Connection.

Connection Type: **EPI 3270 Connection**

Gateway URL: tcp://{host name here};2006

Server (cicsccli.ini): {server name}

Screen wait (seconds): 60

User ID:

Password:

Test  Default

Advanced...

Help Back Finish Cancel

- 2 [TN3270 Connection] を選択した場合は、手順 8 に進みます。[EPI 3270 Connection] を選択した場合は、[Gateway URI] フィールドに接続先のコンピュータの物理アドレスを入力します。この例では、[tcp://localhost.2006] は物理コンピュータの別名です。この場合、tcp:// はプロトコル、localhost はコンピュータの名前、2006 は CICS へのデフォルトのゲートウェイです。  
**注記：** [Gateway URI] フィールドは大文字と小文字を区別します。
- 3 [Server] フィールドに、領域の別名またはサーバ名を入力します。この名前はシステム管理者に問い合わせてください。これは、各クライアントの初期設定ファイルに定義されています。
- 4 [Screen wait (seconds)] フィールドには、3270 端末コンポーネントが [Map Screen Action] ペインで次の画面を待つ時間が秒単位で表示されます。
- 5 [UserID] にユーザ ID を、[Password] にパスワードを入力します。ユーザ ID とパスワードはここで指定します (パスワードは暗号化されます)。ユーザは、ECMAScript からユーザ ID とパスワードにアクセスし、それらを変数として画面にマップできるようになります。このため、パスワードが誰かに表示されることはありません。

- 6 入力した設定を後続の TN3270 接続のデフォルト設定にする場合は、[Default] チェックボックスをオンにします。手順 13 に進みます。
- 7 [Advanced] ボタンをクリックして、システムを処理するダイアログボックスを表示します。この章の画面処理に関する節を参照してください。
- 8 [TN3270 Connection] タイプを選択している場合、次のような画面が表示されます。

- 9 [Host or IP Address] フィールドに、接続先コンピュータの物理アドレスまたは別名を入力します。この情報はシステム管理者に問い合わせてください。これは、各ホストファイルに定義されています。
- 10 [Telnet Port] フィールドに、ポートの番号を入力します。デフォルトのポート番号は 23 です。
- 11 [Code Page] フィールドで、コードページを指定します (24 ページの「コードページサポートについて」を参照 )。
- 12 [Screen wait (seconds)] フィールドには、3270 端末コンポーネントが [Map Screen Action] ペインで次の画面を待つ時間が秒単位で表示されます。
- 13 [Delay (ms)/Small Size (bytes)] フィールドに、適切な設定を入力します。この設定により、受信したパケットが指定したサイズ (バイト) より小さい場合に、完全なパケットを受信するまでの時間 (ミリ秒) を待機することによって、ネットワークパフォーマンスの問題を解決できます。この例では、受信したパケットが 24 バイトより小さい場合、ネットワークは完全なパケットを受信するまで、さらに 1600 ミリ秒待機するように設定されています。

- 14** [UserID] にユーザ ID を、[Password] にパスワードを入力します。これらは、接続の確立中にホストに対して実際には送信されず、単にここで定義されます (パスワードは暗号化されます)。ユーザは、ECMAScript からユーザ ID とパスワードにアクセスし、それらを変数として画面にマップできるようになります。このため、パスワードが誰かに表示されることはありません。
- 15** [Terminal Type] フィールドには、異なる画面サイズ (たとえば、24x80 および 27x32) を含む、3270 コンポーネントでサポートされる端末のタイプが表示されます。ドロップダウンリストボックスから、使用する端末のタイプを選択します。
- 16** [Terminal Type] ドロップダウンリストから端末タイプを選択します。

Specify the URL for the machine that provides TCP/IP connectivity to your host system. Note this may be the machine itself or a SNA gateway product. The Telnet Port and Code Page need to be set to the host's requirements. The User Id and Password will need to be supplied by the CICS administrator and entered here. Checking 'Default' makes this Connection the initial selection when requesting a TN3270 Connection.

Connection Type: TN3270 Connection

Code Page: CP037

Screen wait (seconds): 60

Delay (ms)/Small Size (bytes): 1600/24

User ID: \_\_\_\_\_

Password: \_\_\_\_\_

Terminal Type: IBM-3278-2 (24 x 80)

Version 2.7 Compatibility:

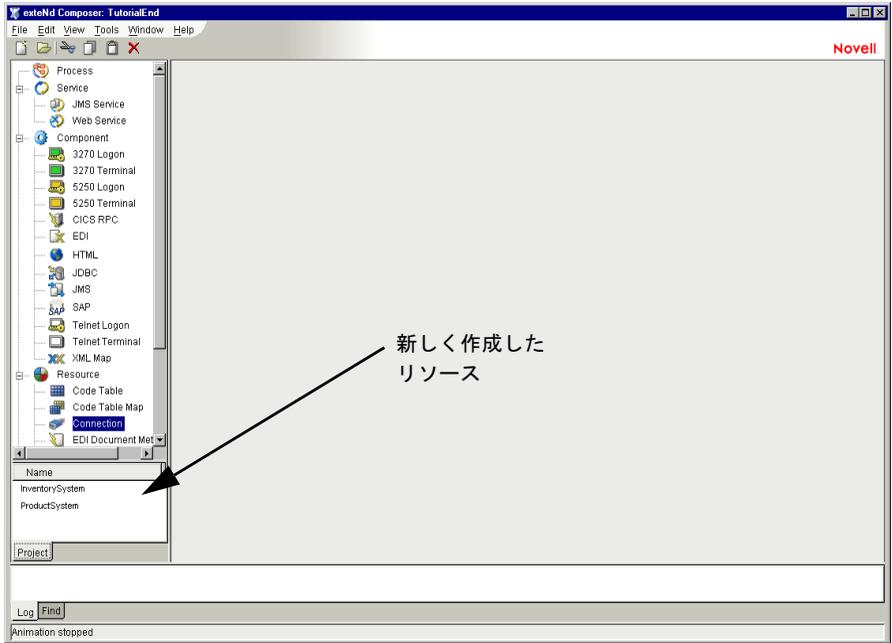
Advanced...

Test

Default

Help Back Finish Cancel

- 17** [Version 2.7 Compatibility] チェックボックスをオンにして、バージョン 2.7 の互換性を有効にします。
- 18** [Advanced] ボタンをクリックして、システムを処理するダイアログボックスを表示します。詳細については、この章の画面処理に関する節を参照してください。
- 19** 入力した設定を後続の TN3270 接続のデフォルト設定にする場合は、[Default] チェックボックスをオンにします。
- 20** [Test] ボタンをクリックして、接続が確立されたかどうかを確認します。
- 21** [Finish] をクリックします。新しく作成されたリソース接続オブジェクトが、Composer 接続リソースの詳細ペインに表示されます。



## コードページサポートについて

exteNd Composer 接続リソースのコードページサポートでは、exteNd Composer とその他のホストシステム間で送信された文字を変換する際に使用する文字エンコードスキームを指定できます。exteNd Composer のデータでは、Unicode 文字エンコード (Java および XML 標準) が使用されます。既存のレガシーホストシステムとその他のホストシステムでは、言語または使用に特定のさまざまな文字エンコードスキーム (つまり、コードページ) を使用します。これらのシステム間で互いに通信する場合は、それぞれの文字エンコードを変換するためのメカニズムが必要となります。exteNd Composer では、そのシステムへのアクセスに使用する接続リソースのホストシステムで使用されるコードページを指定することによってこれを処理します。文字エンコードの詳細については、付録 B 「Java コードページ」を参照してください。

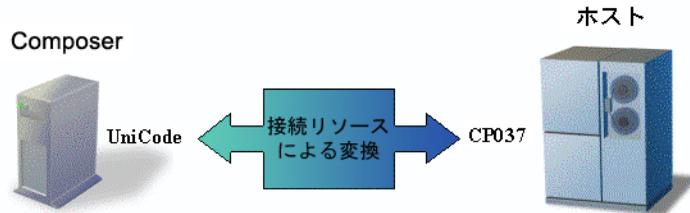


図 2-1

## システムメッセージの処理

3270 接続には、3270 コンポーネントの実行で問題となり得る、端末セッションで受信した予期しないメッセージ画面を処理するための特別な機能があります。このタイプのメッセージ画面の例としては、システム管理者が端末にシステムのシャットダウンまたはその他のイベントについて警告するための通知を送信した場合の画面があります。システムトランザクションと通信している 3270 コンポーネントの通常の実行では、この画面の表示は予期されず、また不要です。通常これらのシステムメッセージは、読んだ後にユーザが AID キーを押すと消えます。

3270 接続の両方のタイプ (TN3270 および EPI 3270) では、コンポーネントの処理から除外したい画面に応答するための特別な画面ハンドラを指定することができます。単一の接続で複数の画面ハンドラを指定することもできます。接続リソースで画面ハンドラを指定することにより、ハンドラを一度指定すると、同じ接続を使用して複数のコンポーネントでそのハンドラを利用できるようになります。

**注記：** 接続の画面ハンドラはシステム管理者からのメッセージのみに限定されません。画面ハンドラを指定すると、端末のデータストリームで受信するどの画面に対しても応答することができます。

### ➤ 画面ハンドラを作成するための一般的な手順

- 1 3270 接続リソースを使用する、作業用 3270 コンポーネントを作成します。
- 2 処理する画面を ScreenDoc DOM で再現し、キャプチャします。
- 3 画面でフィールドとデータの組み合わせを選択し、この画面を画面ハンドラとして一意に特定します。
- 4 画面を識別する式と画面を閉じるための AID キーを指定して、画面ハンドラを接続リソースに追加します。

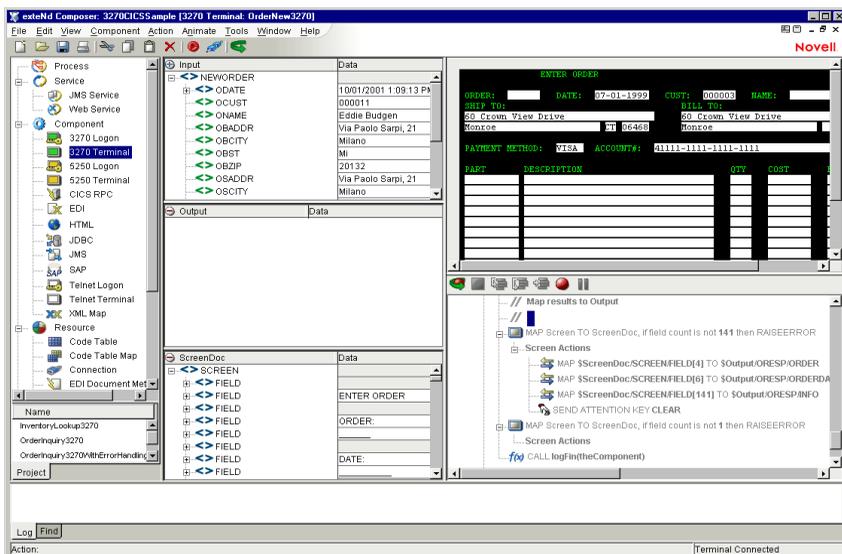
### ➤ 画面ハンドラを作成するための詳細な手順

- 1 通常の方法で 3270 コンポーネントを作成します (つまり、接続とその他のリソースを必要に応じて作成し、次にコンポーネントを作成します)。
- 2 ScreenDoc DOM が表示されていない場合、メニューバーから [View]、[Window Layout] の順に選択し、次に [XML Layout] をクリックします。[ScreenDoc] を [Visible] リストに移動し、[OK] をクリックします。
- 3 コンポーネントを保存し、開いたままにします。次の手順に従って、処理する特定の画面をキャプチャします。

**注記：** この作業には、システムオペレータ / 管理者、または処理したいメッセージ画面の生成に携わる人の協力が必要です。

- a. Log in アクションを含む Map Screen の後にくる最初の Map Screen のアクションに、ブレイクポイントを設定します (これがログオンコンポーネントである場合、KeepAlive または Logon セクションの最初のアクションにブレイクポイントを設定します)。

- b. <F5> キーを押して、コンポーネントをアニメーション表示します。
- c. <F9> キーを押して、ブレークポイントを実行します。
- d. <F6> キーを押して、アニメーション表示を一時停止します。
- e. システムメッセージを開始します。
- f. <Enter> キーを押すと、ネイティブ環境ペインには、システムメッセージが表示され、Screen Doc ペインには、メッセージを XML で表したものが表示されます。



- 4 この画面を処理する画面として特定するためのデータを持つテストフィールドを選択します。たとえば、「Display Messages」というデータを持つ画面タイトルフィールドを選択します。
- 5 ScreenDoc で、テストフィールドの XML 表記にマウスのポインタを合わせ、XPath の場所の完全パス (例: ScreenDoc/SCREEN/FIELD[5]) を確認します。
- 6 <Shift>+<F5> キーを押してアニメーション表示を停止し、ホストシステムをサインオフします。次に、保存せずにコンポーネントを閉じます。
- 7 Composer ウィンドウで、コンポーネントの接続リソースを選択し、開きます。
- 8 [Connection Info] タブで、[Advanced] ボタンをクリックし、システム画面を処理するダイアログボックスを表示します。
- 9 [Enable TN3270E] チェックボックスをオンにして、TN3270E プロトコルのサポートを有効にします。このチェックボックスがオフの場合、[Resource Name] テキストフィールドを無効にし、クリアします。

- 10** [Resource Name] に、TN3270 接続で使用しているリソース名を入力します。サーバで名前を指定されている場合は、このフィールドを空白にします。
- 11** [Add] ボタンをクリックし、画面ハンドラを指定する行を追加します。
- 12** 式フィールドで、テストデータをテストフィールドの XPath と比較する式（例：ScreenDoc.XPath("string(SCREEN/FIELD[5])"= "Display Messages")）を入力します。
- 注記：** 比較が適切に実行されるかどうかを確認するには、XPath 文字列関数を適用します。
- 13** [AID/DispatchKey] フィールドで、画面への応答に送信するキーを選択します。

System Screen Identification	Dispatch Key
ScreenDocXPath("string(SCREEN/FIELD[5])")= "DisplayMessages"	PA3

- 14** [OK] をクリックしてハンドラを保存し、次に [OK] をクリックして接続を保存します。
- 15** Logon Map Screen アクションを通過したコンポーネントをアニメーション表示する、ブレイクポイントを設定する、システムメッセージを開始する、アニメーションに Enter Send Key アクションを通過させる、などの操作を行い、システム画面ハンドラをテストします。

## スタイルシートリソースの作成

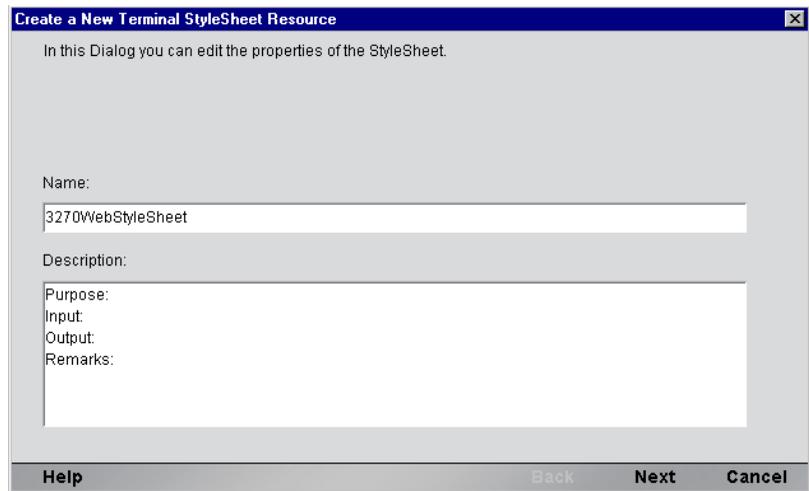
3270 コネクタに関連付けられる追加のリソースとして、スタイルシートリソースがあります。これにより、ネイティブ環境ペインにエミュレーション画面を表示するためのスタイルシートを作成できます。

### ➤ スタイルシートリソースを作成する

- 1 Composer の [File] メニューから [New xObject] を選択し、次に [Resource]、[Terminal Style Sheet] の順に選択します。

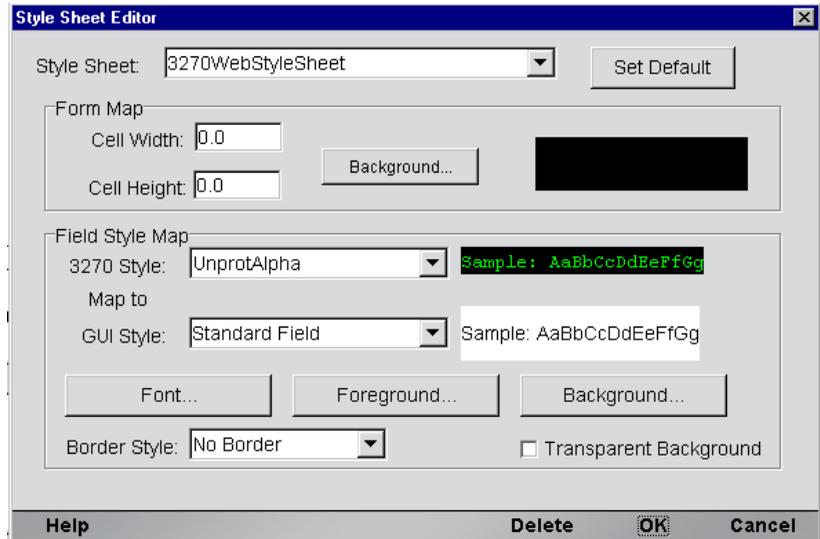
**注記：** また、Composer のカテゴリペインの [Resource] セクションから、[Terminal Style Sheet] を選択し、次に、マウスの右ボタンをクリックしてから [New] を選択します。

Create a New Terminal Style Sheet ウィザードが表示されます。



- 2 [Name] に、新しいスタイルシートの名前を入力します。オプションで、[Description] に説明テキストを入力することができます。

- 3 [Next] ボタンをクリックします。[Style Sheet Editor] ウィンドウが表示されます。



- 4 次に説明に従って、[Style Sheet Editor] ウィンドウでスタイルシートを設定します。
- ◆ [Style Sheet] - このドロップダウンリストから、ネイティブ環境ペインのエミュレーション画面を変更するスタイルシートを選択します。最初このフィールドには、Terminal Style Sheet ウィザードの最初のページで指定した名前が表示されます。新しいスタイルシートを作成するには、リストの名前の1つに新しい名前を上書きします。
  - ◆ [Set Default] - このボタンを選択すると、現在選択されているスタイルシートがコンポーネントのデフォルトになります。
  - ◆ [Form Map]  
[Cell Width/Height] - これらの設定で、フォントタイプの変更によって切り捨てられる可能性のある文字を修正します。  
[Background] - このボタンを選択して、スタイルシートの背景色のオプションを表示します。

◆ **[Field Style Map]**

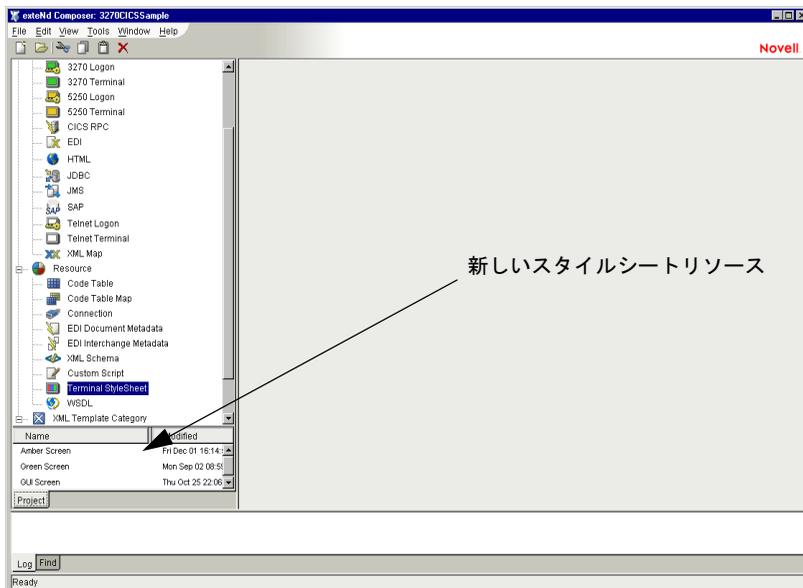
**[3270 Style]** - このコントロールでは、TDS で使用できるスタイルがリストで表示されます。これらの値を編集することはできません。新しく作成するスタイルにマップするスタイルを選択します。

**[GUI Style]** - このコントロールでは、作成した使用可能なスタイルが表示されます。新しいスタイルを作成するには、既存のスタイルに新しいスタイルを上書きし、該当するボタンを使用して、「**フォント**」、「**前景**」、および「**バックグラウンド**」を指定します。

**[Border Style]** - あらかじめ定義された 3 種類の境界のうち 1 つを、ドロップダウンリストから選択します。このコントロールを編集することはできません。

**[Transparent Background]** - GUI に透明のバックグラウンドを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。

- 5 **[OK]** をクリックします。Composer の詳細ペインに、新しく作成したスタイルシートリソースが表示されます。



## コンポーネントに対する XML テンプレートの作成

接続リソースの他に、3270 コンポーネントでは、コンポーネントを設計するためのサンプルドキュメントを持つように、XML テンプレートをすでに作成していることが必要です ( 詳細については、『exteNd Composer ユーザガイド』の第 5 章「XML テンプレートの作成」を参照してください)。

多くの場合、入力ドキュメントは、端末オペレータがトランザクションにインタラクティブに入力する可能性のあるデータを含むように設計されます。同様に、出力ドキュメントは、オペレータの入力の結果として画面に返されるデータを受信するように設計されます。たとえば、ビジネスシナリオでは、端末オペレータは、アイテムの価格や購入が可能であるかどうかについて興味のある顧客から電話による問い合わせを受けます。顧客は、システムに入力する SKU 番号をオペレータに伝えます。これは、入力ドキュメントの SKU 番号に相当します。同様に、オペレータの端末が SKU に基づいたメインフレームからの情報を受信すると、オペレータは顧客にこの情報を伝えます。これは出力ドキュメントに相当します。

また、コンポーネント設計によって別の xObject リソース ( カスタムスクリプトやコードテーブルマップなど ) が要求される場合は、3270 コンポーネントを作成する前にこれらのリソースを作成することが推奨されます。詳細については、『exteNd Composer ユーザガイド』を参照してください。



# 3

## 3270 コンポーネントの作成

### 3270 コンポーネントを作成する前に

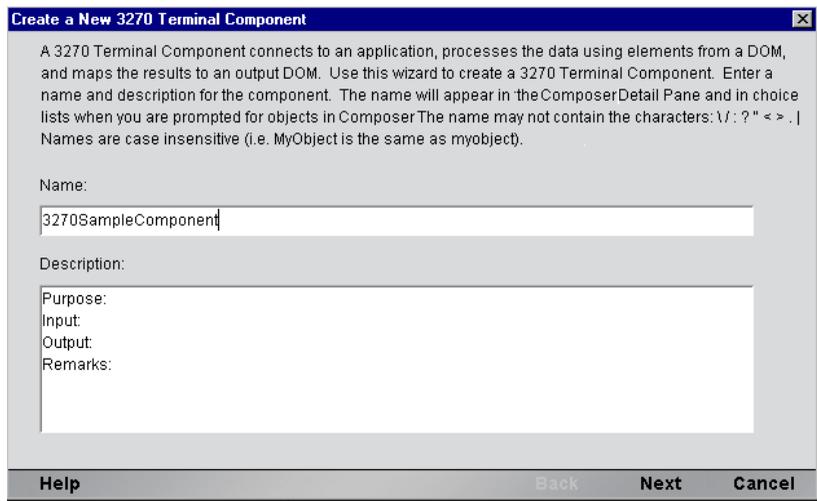
3270 コンポーネントを作成する最初の手順は、すべての exteNd Composer コンポーネントと同様に、必要な XML テンプレートを指定することです。詳細については、『Composer ユーザガイド』の「新しい XML テンプレートの作成」を参照してください。

XML テンプレートを指定すると、コンポーネントによって処理される入力および出力を表すテンプレートのサンプルドキュメントを使用して、コンポーネントを作成できます。

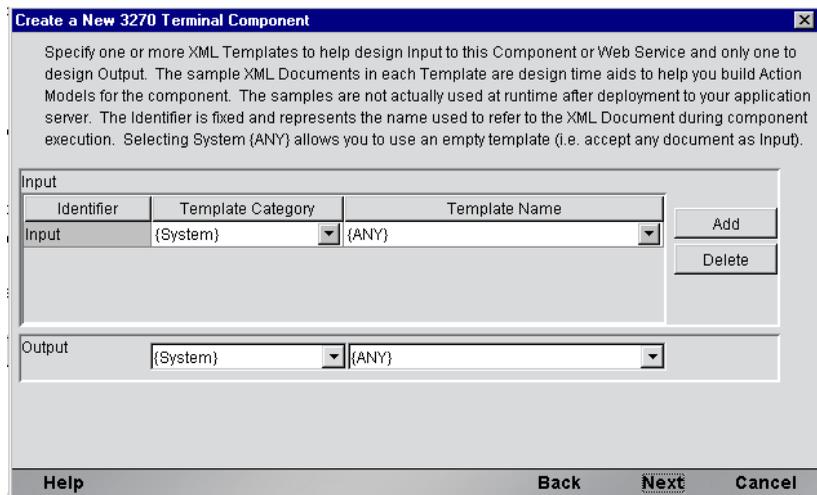
また、3270 コンポーネントの作成プロセスの一部として、3270 接続を選択する必要があります。また、新しい接続を作成することもできます。18 ページの「3270 接続リソースの作成」を参照してください。

#### ➤ 新しい 3270 コンポーネントを作成する

- 1 [File] > [New xObject] > [Component] > [3270 Terminal] の順に選択します。[Create a New 3270 Component] ウィザードが表示されます。



- 2 [Name] に、新しい 3270 コンポーネントの「名前」を入力します。
- 3 オプションとして、[Description] に説明テキストを入力します。
- 4 [Next] をクリックします。Create a New 3270 Component ウィザードの XML プロパティ情報パネルが表示されます。



- 5 入力テンプレートおよび出力テンプレートを次のように指定します。
  - ◆ デフォルトのカテゴリと異なる場合は、[Template Category] からカテゴリを選択します。

- ◆ 選択した「テンプレートのカテゴリ」に対するテンプレート名を [Template Name] XML テンプレートリストから選択します。
  - ◆ 他の入力 XML テンプレートを追加するには、[Add] をクリックして、[Template Category] からテンプレートカテゴリを、[Template Name] からテンプレート名をそれぞれ選択します。
  - ◆ 入力 XML テンプレートを削除するには、エントリを選択して [Delete] をクリックします。
- 6 出力として使用する XML テンプレートを選択します (出力 DOM の名前は「Output」です)。
- 注記:** 出力テンプレートとして {System}{ANY} を選択すると、構造が含まれない入力または出力の XML テンプレートを指定できます。詳細については、『Composer ユーザガイド』で「テンプレートを使用しない出力 DOM の作成」を参照してください。
- 7 [Next] をクリックします。Create a New 3270 Component ウィザードの接続情報パネルが表示されます。

Create a New 3270 Terminal Component

Specify which Connection you wish to use for this Component or Service. To change any connection parameters, you must change them in the Connection Resource object or create a new Connection Resource of the same type with different parameters.

Connection: EPI\_POOL Test

Connect Via: LOGON\_EPI

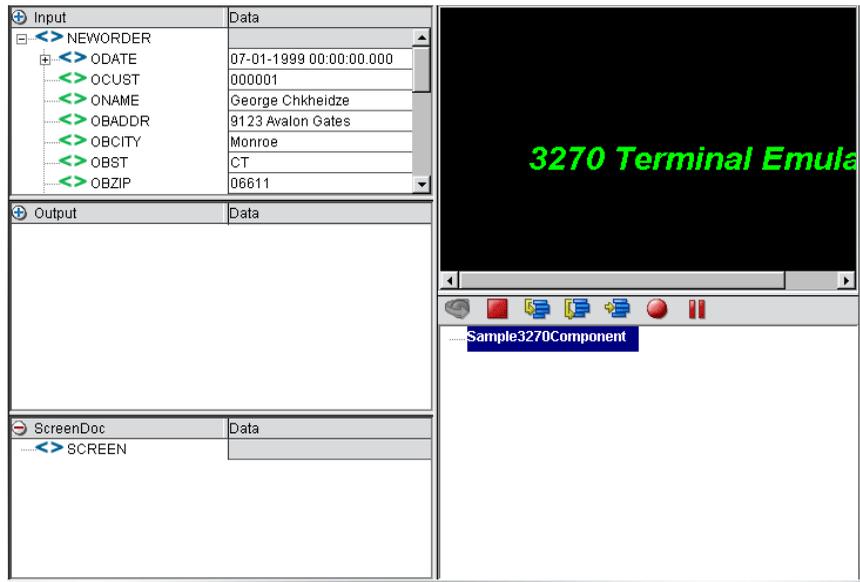
Screen wait (seconds): 60

Pool Connections  Pool Info...

Session Connections  Session Info...

Help Back Finish Cancel

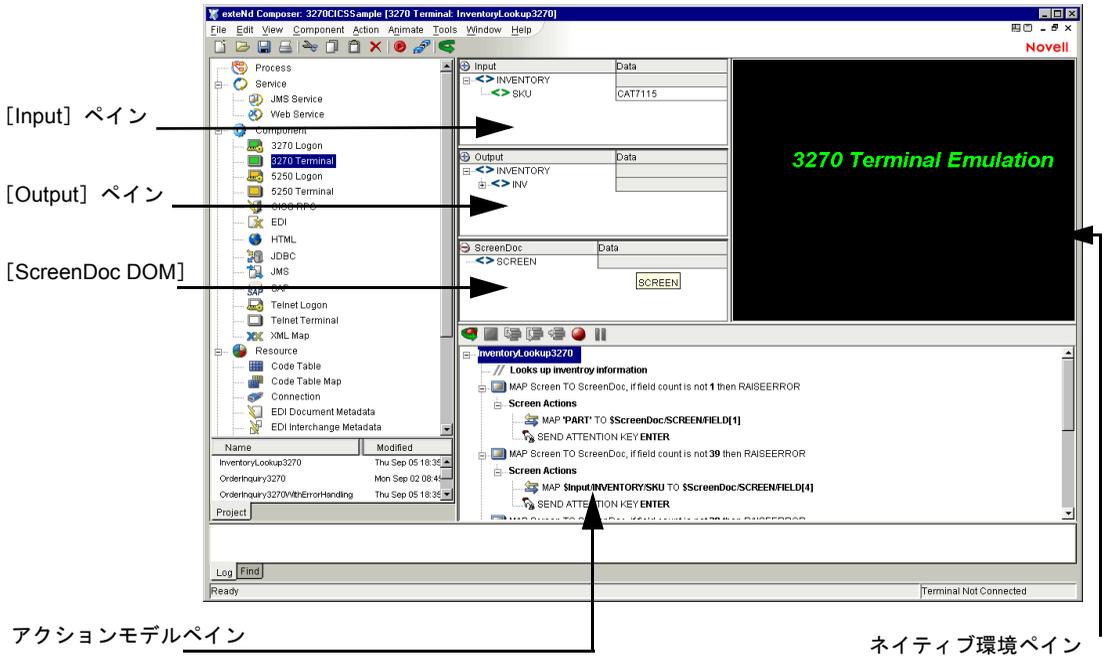
- 8 プルダウンリストで「接続」の名前を選択します。3270 接続の詳細については、このガイドの第 2 章「接続リソースの作成」を参照してください。
- 9 [Finish] をクリックします。コンポーネントが作成され、3270 コンポーネントエディタが表示されます。



## 3270 コンポーネントエディタウィンドウについて

3270 コンポーネントエディタには、XML Map コンポーネントエディタの機能がすべて含まれています。また、入力 XML ドキュメントと出力 XML ドキュメントのマッピングペインや、アクションペインも含まれています。

ただし、大きな違いが 2 つあります。1 つめは、3270 コンポーネントエディタにはすべての接続に共通なネイティブ環境ペインも含まれているという点です。このペインには、3270 またはエミュレータが搭載されています。また、[Record]、または 3270 コンポーネントエディタウィンドウの接続ボタンを選択するまで、このペインは空白で表示されます。[Record] ボタンを押すと、3270 コンポーネントで使用する接続で指定したホストとの 3270 エミュレーションセッションが、ネイティブ環境ペイン内で確立されます。2 つめは、ScreenDoc という名前の XML DOM だけを含むパネルがコンポーネントエディタウィンドウに追加されているという点です。この DOM は、ホストから受け取った各画面の XML ドキュメント表現を表します。また、この DOM は、コンポーネント内の参照やマッピングアクションの作成に使用したり、ユーザが画面フィールドを簡単に参照できるように、式ビルダで使用できます。3270 画面のクイック HTML 参照を作成する場合、ScreenDoc DOM の出力を使用したり、スタイルシートを適用して、画面の HTML 表現を作成できます。



## 3270 ネイティブ環境ペインについて

3270 ネイティブ環境ペインでは、メインフレーム環境の 3270 エミュレーションが装備されています。このペインからは、次のことを実行できます。

- ◆ 入力 XML ドキュメント(または他の使用可能な DOM)からのデータをマップして、3270 画面フィールドに対する入力として使用します。たとえば、SKU 番号を入力 DOM から 3270 画面のパーツフィールドにドラッグして、メインフレームを照会し、そのパーツ番号に関連付けられているデータ(説明や価格など)を返すことができます。
- ◆ 返された 3270 画面からデータをマップして、出力 XML ドキュメント(または、Temp、MyDom などの他の使用可能な DOM)に配置します。
- ◆ 特別な Multi-Row アクションを使用して、XML ドキュメントからネイティブ環境ペインのトランザクションにヘッダおよび詳細情報をマップします。
- ◆ ネイティブ環境ペインのトランザクションから XML ドキュメントにヘッダおよび詳細情報(カスタマ名やトランザクション履歴など)をマップします。

ネイティブ環境ペインのトランザクション機能は、3270 端末や端末エミュレータのトランザクション機能と同じです。

## 3270 キーボードサポートについて

3270 ネイティブ環境ペインは、Enter、Clear、PA1-3、および PF1-24 など、いくつかのアテンション識別子または AID キーの使用をサポートしています。各アテンションキーの機能は、ホストアプリケーションにより異なります。これらのキーは、PC キーボードにマップされます(次を参照)。

表 3-1

3270 キー	PC キー
Enter	Enter
Clear	ESC
PF1 ~ PF12	F1 ~ F12
PF13 ~ PF24	Shift + F1 ~ Shift + F12
PA1 ~ PA3	Ctrl + F1 ~ Ctrl + F3

3270 コンポーネントを作成して、キーボードからキーを直接使用するか、[View] メニューから使用できるキーボードツールバーを使用できます。

## ScreenDoc DOM について

ScreenDoc DOM は、ネイティブ環境ペインの端末データストリームを介して受け取った現在の画面の XML ドキュメント表現です。この画面に対するすべてのマップアクション (ドラッグアンドドロップなど) は、実際、ScreenDoc DOM の要素を参照します。任意のアプリケーション画面を XML ドキュメントとして扱うと同時に、表示および参照できます。

### 機能

3270 コンポーネントは、非同期でブロックモードの端末データストリームを介してホスト環境との通信を行います。データのブロックは、画面を表します。ホストは、ドキュメントに表示される画面ブロックを送ります。この画面が、ユーザ (最終的にはユーザの作成するコンポーネント) により編集されます。編集された画面は、AID キーを押した後の処理のためにホストに返されます。

### 動作

記録モード中、データの画面ブロックがコンポーネントにより受信されるたびに、次の 4 つのことが同時に起こります。

- ◆ 新しい画面がネイティブ環境ペインに表示される。
- ◆ **Map Screen** アクションがアクションモデルペインに表示される。**Map Screen** アクションでは、この特定の画面のアクションを追加、変更、および削除します。新しい画面ブロックが、コンポーネントの作成時に受信されるたびに、新しい **Map Screen** アクションが作成されます。
- ◆ **Map Screen** アクションが、[TDS] フィールドがこの特定の画面に対して何回受信されたかを計算および記録する。この情報は、次にコンポーネントを実行するときに、検証目的で使用されます。
- ◆ **ScreenDoc DOM** が、受信画面を反映する新しい **DOM** で更新される。ブロックモード端末は、データをフィールドのストリームとして送信します。これらのフィールドは、ホスト環境 (CICS の BMS など) で画面作成ユーティリティを使用して定義されます。

フィールドは、**ScreenDoc DOM** で表示されます。表示は、画面の左上隅から始まり、右に向かいます。行末に達すると、1 行下がり、左端からまた続きます。これは、全体の 80x24 画面領域に達するまで続きます。フィールドは、オリジナルの画面レイアウトの定義により異なります。いくつかのフィールドは、画面のテキストラベルで、表示属性は **protected(prot)** および **bright(brt)** です。また、データエントリ用のフィールドもあります。これらのフィールドの属性は、**unprotected(unprot)** です。さらに、データを含むが表示されないフィールドもあります。属性は **dark(drk)** です。画面のタブ機能を実装する特殊なフィールドもあります。このフィールドは、データを入力できず、属性が **bypass** のためバイパスフィールドと呼ばれます。

すべての [TDS] フィールドをリストすると、ScreenDoc DOM が非常に大きくなります。すべてのフィールドのリストは、主に、非表示フィールドの検出、属性によるフィールドおよびその位置の確認、および便利な場合、Composer のドラッグアンドドロップ機能を使用した ScreenDoc DOM から出力 DOM へのマップに使用されます。

**注記：** 通常、ScreenDoc DOM にマップするよりも、ドラッグアンドドロップを使用するネイティブ環境ペインに対して直接マップした方が、より簡単で効率的です。

TDS の各フィールドは、FIELD という名前の要素として ScreenDoc DOM に表示されます。ScreenDoc DOM には、TDS のフィールドと同じだけの FIELD 要素が含まれます。FIELD 要素は、フィールドに定義されているデータを表示します。画面フィールドは、フィールドラベルおよびデータエントリフィールドの両方で使用されます。

## ScreenDoc DOM について

Map Screen アクションが実行されると、新しい画面がネイティブ環境ペイン (NEP) に表示されます。画面が NEP に表示されるたびに、画面の XML 表現が ScreenDoc DOM に作成されます (この DOM を表示するには、メニューバーから [View] を選択し、[Window Layout] の [XML Layout] タブを選び、[ScreenDoc] を [Visible] リストに移して、[OK] をクリックします)。画面カーソル位置をプログラムで認識できるように、TDS により返される各 [ScreenDoc] フィールドには、「cursor」という名前の属性があります。カーソルの属性値は、値が「true」以外のすべてのフィールドに対して「false」になります。カーソルを持つフィールドを判別するには、cursor 属性をチェックし、フィールドの ID 属性を返す式を作成します (次の図を参照)。

ScreenDoc	Data
SCREEN	
FIELD	
column	1
cursor	false
display	prot-brt-drk
id	1
length	80
row	1
textcolumn	1
FIELD	
column	1
cursor	false
display	prot
id	2
length	6
row	2
ORDER:	
	1

上の図の [ScreenDoc] フィールドのサンプルリストでは、XPath location `ScreenDoc.XPath ("SCREEN/FIELD[@cursor='true']/@id")` は数値「4」を返します。これは、フィールド 4 が現在のカーソル位置であることを示します。

また、各要素により、フィールドの次の属性が表示されます。

表 3-2

属性	意味
Column	画面列 (1 ~ 80)。フィールドは左から始まります。
Cursor	「true」にする必要のあるフィールド以外に対して、「false」を設定できる属性値。
Display	TDS のフィールドに定義される表示属性 (prot = protected、brt = bright、unprot= unprotected、dark = dark、bypass = bypass)。
Id	TDS でのフィールド位置を表す絶対シーケンス番号。
Length	フィールドの固定長 (1 ~ 80)。
Row	画面行 (1 ~ 80)。フィールドは上から始まります。

## 3270 固有のメニューバー項目について

### [View] メニュー

[**Keypad Tool Bar**] - 3270 端末キーのキーボードツールバーを表示します。ネイティブ環境ペインの上部にドッキングされます。キーボードツールバーをこの位置からドラッグして、フローティングウィンドウとして使用することもできます。フローティングウィンドウを閉じると、キーボードツールバーは、ネイティブ環境ペインに戻ります。キーボードを非表示にする場合、メニューバーから [**View**]、[**Keypad Tool bar**] の順に選択します。

### [Component] メニュー

[**Style Sheet**] - スタイルシートのエディタダイアログボックスを表示します。メイン Composer ウィンドウのリソースとして表示される定義済みのスタイルシートがいくつかあります。

[**Start/Stop Recording**] - 画面トランザクションと通信するときにアクションが自動作成されるかどうかを管理します。[**Start**] は、画面を操作するときにアクションを作成し、[**Stop**] は、アクション作成を終了します。

[**Connect/Disconnect**] - ホストへの接続を制御できます。記録またはアニメーション表示を行う場合、接続は自動的に確立されるので、このボタンを使用する必要はありません。しかし、このボタンは、記録またはアニメーション表示を行わずに、3270環境を介してナビゲートするだけの接続を確立する場合に役に立ちます。

## 3270 固有のコンテキストメニュー項目について

3270Connect には、この Connector 固有のコンテキストメニュー項目も含まれます。コンテキストメニューを表示するには、ネイティブ環境ペインにカーソルを合わせ、マウスを右クリックします。コンテキストメニューが表示されます (次を参照)。

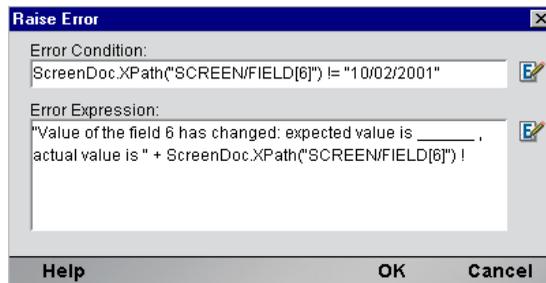


コンテキストメニュー項目の機能は、次のとおりです。

**[Map]** - Map アクションを作成できます。作成するには、入力 DOM でソースを選び、ネイティブ環境ペインでソースを選択します。Map アクションが作成されます。また、ネイティブ環境ペインでマウスを右クリックし、[Map] を選択しても、アクションを作成できます。

**[Style Sheet]** - 別のスタイルシートを適用して、ネイティブ環境ペインの外観を変更できます。

**[Field Test]** - 選択フィールドの Raise Error アクションを作成できます。マウスを右クリックして、[Raise Error] を選択します。式が自動的に入力され、アクションが作成されます。この例については、次の画面を参照してください。



## 3270 固有のボタンについて

3270 Connect には、コンポーネントエディタツールに、[Record] ボタンおよび [Connect/Disconnect] ボタンという 2 つのツールが追加されています。[Record] ボタンを使用すると、画面トランザクションを操作するときに、アクションがアクションモデルに自動的に作成されます。[Connect/Disconnect] ボタンを使用すると、メインフレームとの接続を制御できます。これらのボタンは、次のとおりです。

オフ



オン



接続



切断



[Record]

[Connect/Disconnect]



# 4

## 3270 アクションの実行

### アクションについて

「アクション」は、プログラミングステートメントに類似しており、パラメータの形式で入力を受け付け、特定のタスクを実行します。『Composer ユーザガイド』のアクションに関する章を参照してください。

3270 コンポーネントエディタ内では、XML ドキュメントを処理したり、非 XML データソースと通信したりするための命令のセットが、「アクションモデル」の一部として作成されます。アクションモデルは、メインフレームと XML ドキュメント間でのすべてのデータマッピング、データ変換、データ転送、およびコンポーネントとサービス内でのデータ転送を実行します。

アクションモデルは、アクションのリストから構成されています。アクションモデル内のすべてのアクションは相互に機能します。たとえば、あるアクションモデルでは、請求書のデータをディスクから読み取り、データをメインフレームのインベントリデータベースから取得し、一時 XML ドキュメントに結果をマップして変換し、変換されたデータを出力 XML ドキュメントにマップします。

このアクションモデルの例は、いくつかのアクションから構成されています。そのアクションは次のとおりです。

- ◆ 請求書のドキュメントを開き、3270 コマンドを実行してメインフレームのデータベースから請求書のデータを取得する
- ◆ 結果を一時 XML ドキュメントにマップする
- ◆ コードテーブルを使用して数値コードを変換し、結果を出力 XML ドキュメントにマップする

## 3270 専用アクションについて

The 3270 コネクタには、3270 専用のアクションがいくつか含まれています。これらのアクションは Composer には含まれていません。

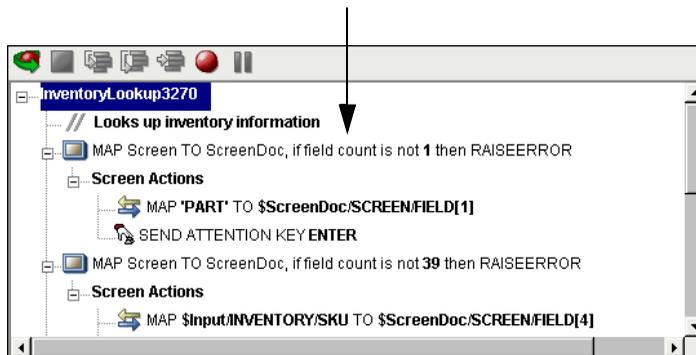
表 4-1

3270 アクション	説明
Map Screen	特定のトランザクション画面に関連したアクションを配置する、アクションモデル内の場所を示します。
Multi Row	このアクションでは、DOM と 3270 画面の間で、複数対複数のデータ関係のマップを指定することができます。
Send Attention Key	このアクションは、Aid キーを押すと、自動的に作成されます。このアクションを編集して、ホストに返信するキーを変更できます。

### Map Screen

Map Screen アクションは、特定のトランザクション画面が表示されるアクションモデル内の場所を示すだけでなく、エラーのチェックに使用することもできます。画面が最初に記録されると、Composer により、画面のフィールド数が保存されます。この数は後で、記録されたアクションが適切な情報を返すかどうかを確認するためのエラーチェックの実行中に比較されます。アクションモデルに Map Screen アクションが表示されます ( 次の図を参照 )。

Map Screen アクション

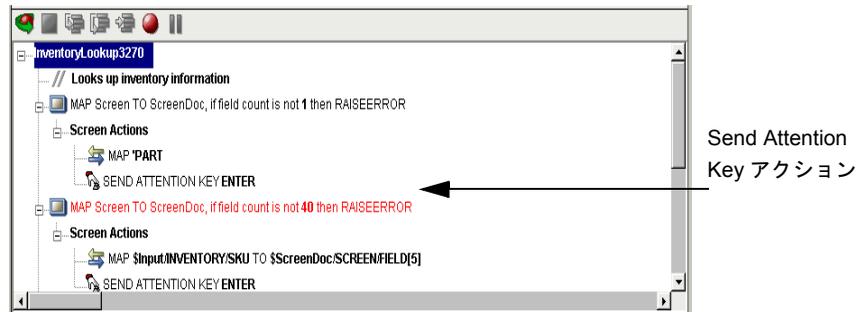


## Multi Row

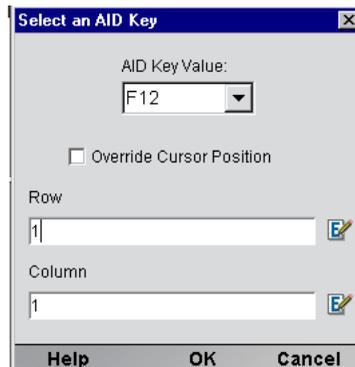
Multi Row アクションは、XML ドキュメントのデータを 3270 画面に入力したり、3270 画面のデータを XML ドキュメントに出力したりするために使用できます。基本的にこのアクションは、アクションモデル内に繰り返しループを作成します。これにより、データの複数の行が、あるドキュメントまたは画面から別のドキュメントまたは画面に自動的にマップされます。Multi Row アクションの詳細については、62 ページの「3270 Multi Row ウィザードについて」で説明されています。

## Send Attention Key

ネイティブ環境ペインのツールバーに表示される AID キーの 1 つまたはそれに対応するキーボードキー、またはキー (38 ページの「3270 キーボードサポートについて」を参照) を選択すると、アクションモデルに Send Attention Key アクションがマップされます。



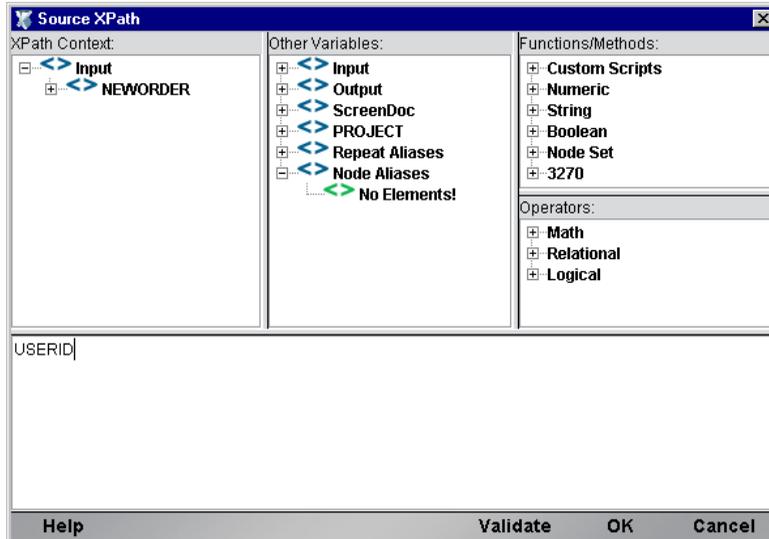
アクションモデルで Send Attention Key アクションをダブルクリックすると、キーを編集できるダイアログボックスが表示されます。ドロップダウンリストボックスから、値キーを選択します。カーソル位置を上書きするためのチェックボックスをオンにします。必要に応じて行と列を編集するか、Expression Builder のアイコンをクリックして、計算を追加します。



## 3270 専用の Expression Builder 拡張

TN3270 接続リソースには、アクションの Expression Builder のダイアログボックスからアクセスできる、「ユーザ ID」と「パスワード」という 2 種類のアイテムがあります。これらは、接続が確立されたときに Composer 画面に最初に表示される、[UserID] と [Password] というフィールドで使用されます。これらの変数を画面にマップすると、画面にマップするための Map アクションに変数を入力する必要がなくなります。

ソースが \$3270/LOGIN/PASSWORD、ターゲットが \$\$SCREENDOC/FIELD(5) と指定されている Map アクションを作成できます。



## 3270 セッションの記録

3270 コンポーネントは、アクションモデルの主な部分が自動的に作成されるため、他のコンポーネントとは異なります。これは、ネイティブ環境ペインでホストからのライブセッションと通信し、Composer がアクティビティをアクションのセットとしてアクションモデルに記録するためです。他のコンポーネントでは、ユーザは、マップ、変換、およびタスクの転送を実行するためのアクションを、アクションモデルで手動で作成する必要があります。3270 コンポーネントの作成では、基本的にユーザは、メインフレームとの要求と応答の通信を記録します。通信はアクションモデルペインにアクションとして入力されます。たとえば、3270 のネイティブ環境ペインで [Enter] ボタンを選択すると、次の図に表示されるように、アクションモデルにアクションが記録されます。また、他のコンポーネントと同様に、アクションモデルにアクションを追加することもできます。



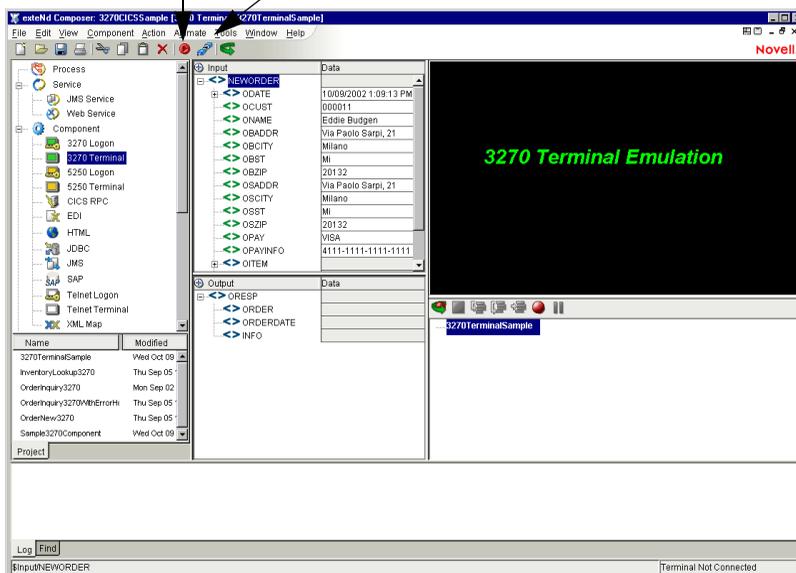
**注記：** 3270 コンポーネントを適切に作成するには、3270 のコマンドと、XML 統合プロジェクトで使用するアプリケーションについて精通している必要があります。

## ➤ 3270 セッションを記録する

- 1 33 ページの「3270 コンポーネントを作成する前に」の指示に従って、3270 コンポーネントを作成します。新しく作成した 3270 コンポーネントは、3270 コンポーネントエディタウィンドウに表示されます。

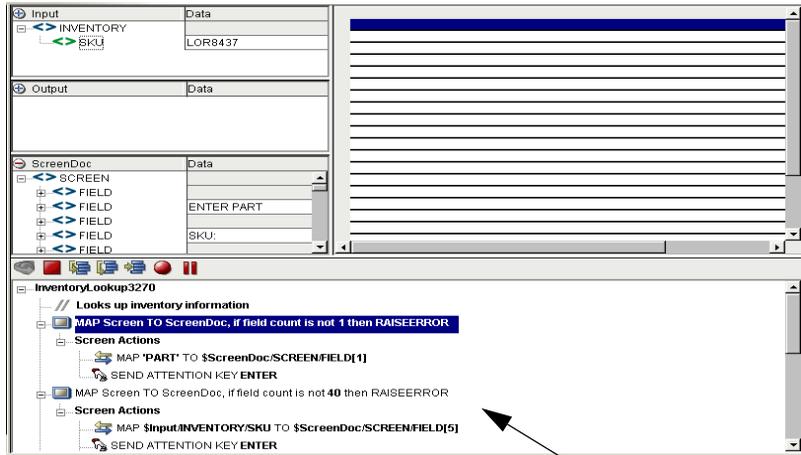
[Record] ボタン

[Connect/Disconnect] ボタン



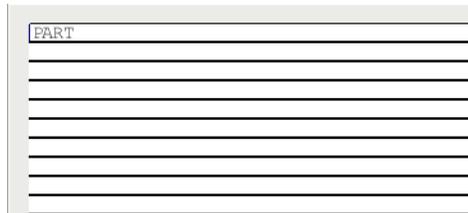
**注記：** 3270 コンポーネントエディタには、XML Map コンポーネントエディタのツールバーに表示されるボタンの他に、[Record] ボタンと [Connect/Disconnect] ボタンがあります (図を参照)。

- 2 [Record] ボタンをクリックします。ネイティブ環境ペインに入力画面が表示され、アクションモデルペインに、「Map Screen」アクションが記録されます。



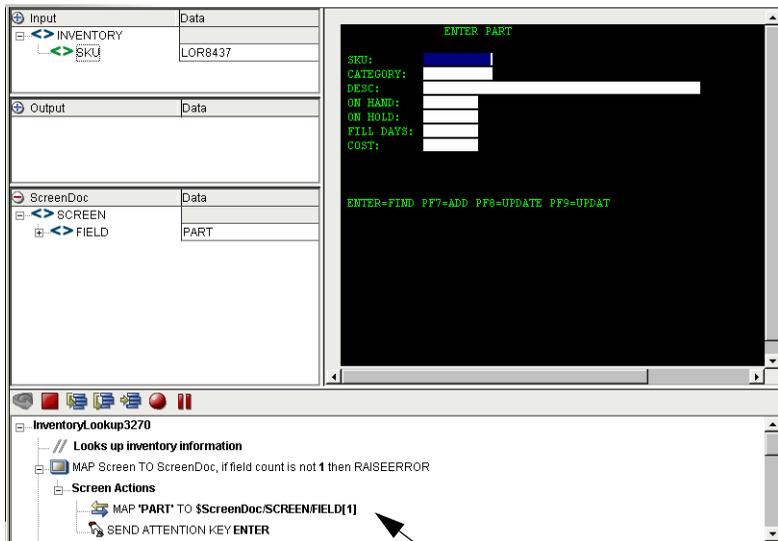
記録された  
アクション

- 3 3270 環境ペインの入力画面に、次の図のように「PART」と入力します。



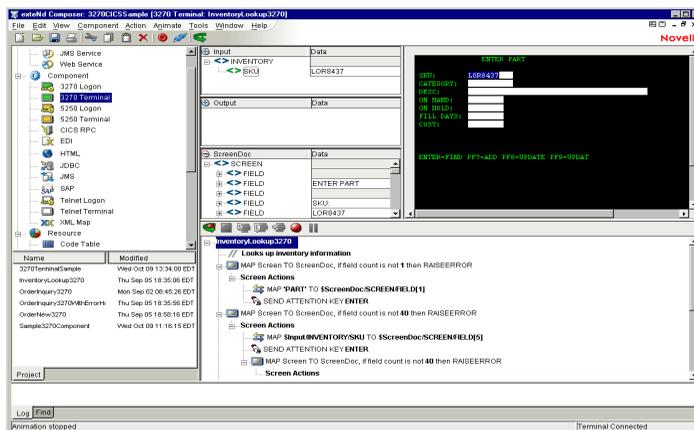
**注記：** 3270 のコマンドでは、大文字と小文字が区別されます。コマンドはすべて大文字で入力する必要があります。

- 4 3270 のペインで [Enter] ボタンをクリックします。3270 のペインに、[ENTER PART] 画面が表示され、アクションモデルペインの [Screen Actions] の下層にアクションが記録されます。



「PART」と入力し、[Enter] をクリックすると、Screen アクションとして記録されます。

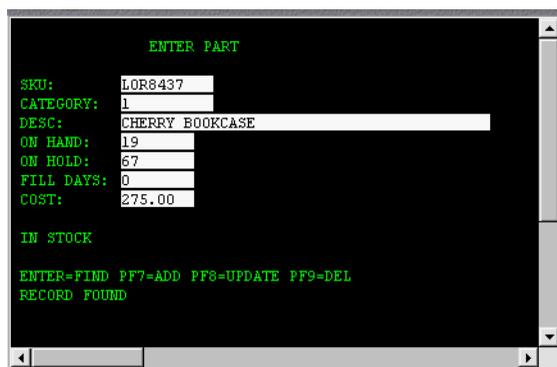
- 5 入力 DOM から 3270 の [ENTER PART] 画面の [SKU] フィールドに、SKU データをドラッグします。アクションは、アクションモデルペインに記録され、ステータスバーに表示されます。



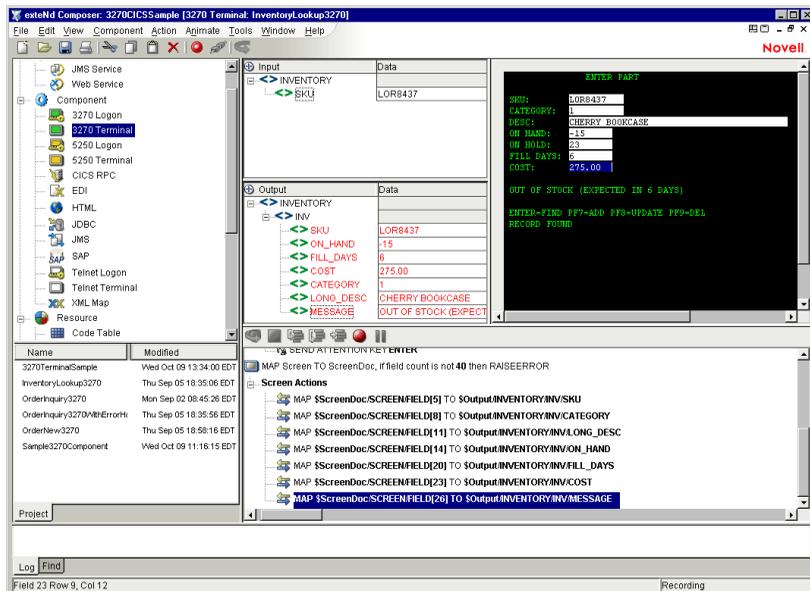
ドラッグアンドドロップ  
アクションの結果を反映  
したアクションモデルと  
ステータスバー

**注記：** Map アクションを使用して、入力 SKU を [ENTER PART] 画面の [SKU] フィールドにマップすることもできますが、ドラッグアンドドロップの方がはるかに迅速に操作を行うことができます。Map アクションの詳細については、『exteNd Composer ユーザガイド』を参照してください。

- 3270 のペインで [Enter] ボタンをクリックします。3270 の [ENTER PART] 画面には、SKU に関連付けられたデータが表示されます。



- [ENTER PART]画面から出力 DOM に、要素（たとえば、SKU 番号）をドラッグアンドドロップします。ドラッグアンドドロップしたデータは出力 DOM に赤で表示されます。



- 8 データ要素を [ENTER PART] 画面から出力 DOM の該当するフィールドにドラッグアンドドロップする操作を必要に応じて繰り返します。要素を [ENTER PART] 画面から出力 DOM にドラッグするたびに、アクションモデルペインにアクションが記録されます。
- 9 [Save] ボタンをクリックします。

## 以前に記録したアクションモデルの編集

以前に記録したアクションモデルの編集が必要となる場合が必ずあります。他のコンポーネントの編集とは異なり、3270 コンポーネントの編集には、さらに注意が必要です。3270 コンポーネントを実行すると、コンポーネントが適切に動作するために、特定の画面およびデータが表示されるようなアクションのシーケンスが繰り返されます。そのため、コンポーネントを編集する際には、アクションモデルのシーケンスが以前に記録したメインフレームトランザクションの実行シーケンスと矛盾しないように注意する必要があります。

一般的に、正常に編集を行うには、次の推奨事項が適用されます。

- ◆ 「Map Screen」アクションのブロックを切り取ってコピーしたり、アクションモデル内の別の場所に貼り付けたりしないでください。
- ◆ アクションモデル内で、画面と通信する個々の Map アクションをコピーしたり貼り付けたりした後は、各アクションのチェックと編集を慎重に行ってください。

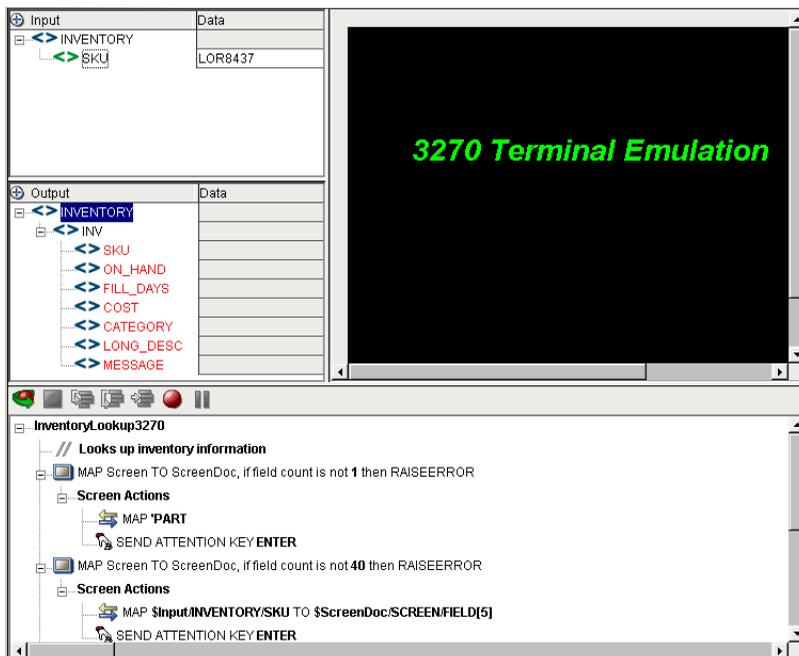
- ◆ Composer のドラッグアンドドロップ機能を使用して、画面と通信する新しい Map アクションを追加します。アクションモデルで、所定の行までアニメーション表示した後、一時停止し、記録モードに戻ります。これにより、アクションモデルが適切な ScreenDoc DOM または特定の ScreenDoc DOM 内のフィールド、あるいはその両方と同期が取れなくなることを防ぐことができます。
- ◆ アニメーション表示中は、アクションモデル内の Multi-Row に関する行 (またはアクション) を削除しないでください。それらを削除すると、コンポーネントが適切に動作しなくなる場合があります。

## 既存のアクションの変更

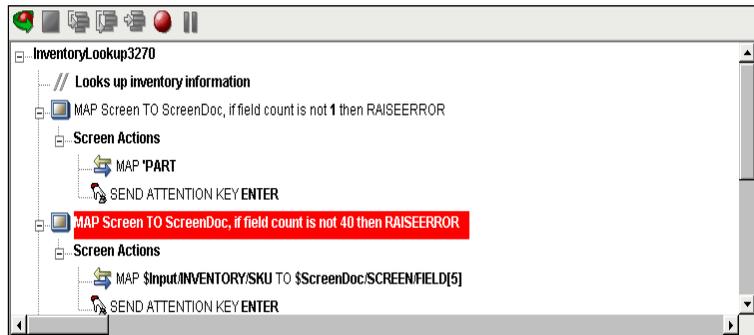
次の手順では、以前に記録したセッションで既存のアクションを変更する方法を説明します。

### ➤ 以前に記録されたアクションモデルで、既存のアクションを変更する

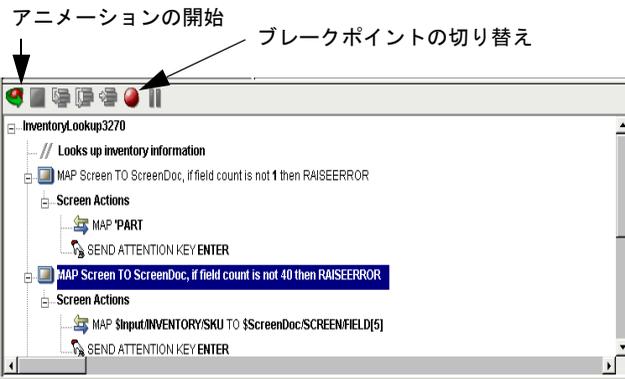
- 1 編集する対象となる、以前に記録されたアクションモデルを含むコンポーネントを開きます。3270 コンポーネントエディタウィンドウにコンポーネントが表示されます。



- 2 アクションモデルで、編集を行うアクションに移動し、選択します。



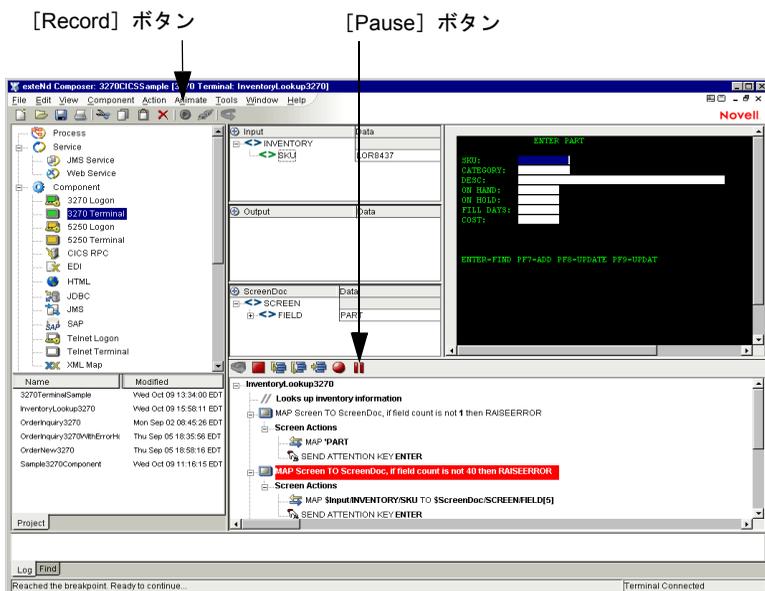
- 3 [Toggle Breakpoint] ボタンをクリックします。選択したアクションが赤色になります。



- 4 [Start Animation] ボタンをクリックします。アニメーションツールが有効になります。



- 5 [Step to Breakpoint/End] ボタンをクリックします。アクションモデルは、最初から手順 3 で設定したブレーポイントまでのすべてのアクションを実行します (次の図を参照)。



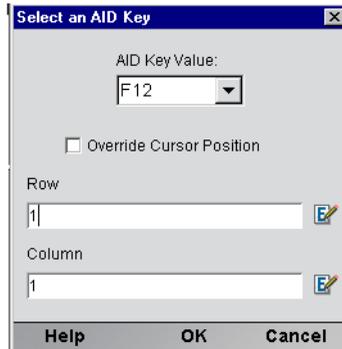
- 6 アニメーションツールバーで、[Pause] ボタンをクリックします。
- 7 コンポーネントエディタのツールバーで、[Record] ボタンをクリックします。
- 8 アクションモデルに追加するアクションを実行します。
- 9 [File]、[Save] の順に選択するか、コンポーネントエディタのツールバーで [Save] ボタンをクリックします。
- 10 「アニメーションツールの使用」の指示に従って、コンポーネントをテストします。

## アテンションキーの編集

セッションの記録中に、キーボードで <Enter> キーを押すか、3270 のネイティブ環境ペインで多数のアテンションキーのうちの一つをクリックすると、アクションモデルにアクションが記録されます。例は次のとおりです。



これらのアクションは、他のアクションと同様、削除、移動、またはコピーすることができます。Attention Key アクションをダブルクリックし、表示されるダイアログボックスで編集することもできます。

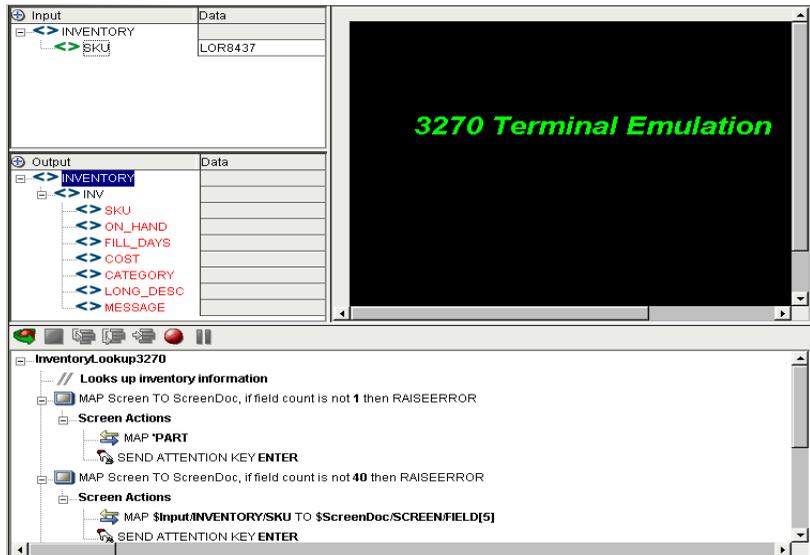


## 新しいアクションの追加

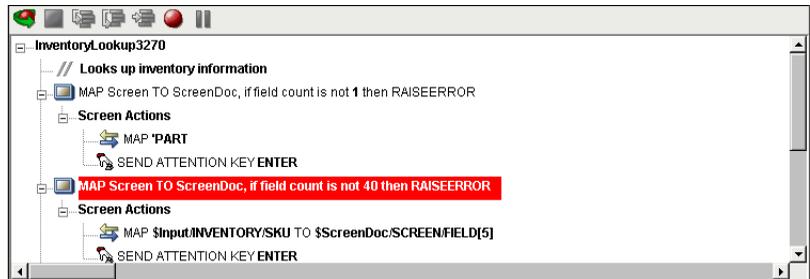
次の手順では、以前に記録したセッションで新しいアクションを追加する方法を説明します。

### ➤ 新しいアクションを以前に記録したアクションモデルに追加する

- 1 アクションを追加する対象となる、以前に記録したアクションモデルを含むコンポーネントを開きます。すると、3270 コンポーネントエディタウィンドウにコンポーネントが表示されます。

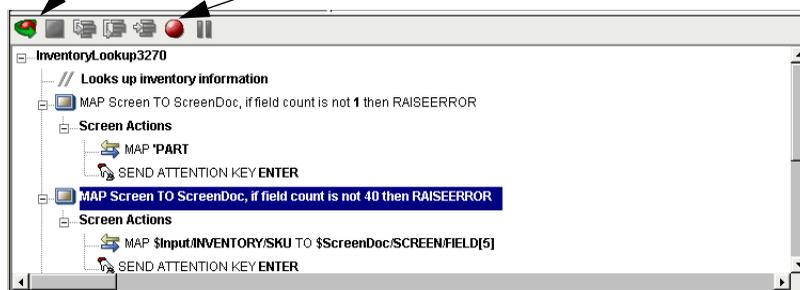


- 2 アクションモデルで、追加するアクションに移動し、選択します。



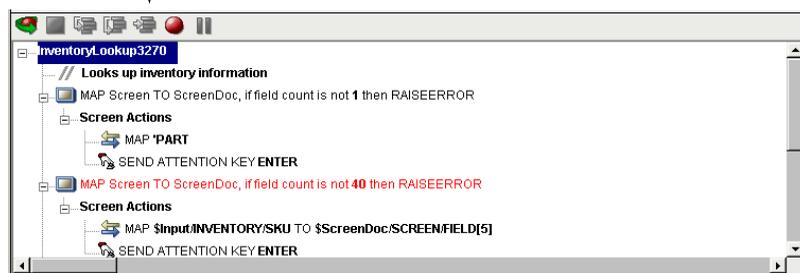
- 3 [Toggle Breakpoint] ボタンをクリックします。選択したアクションが赤色になります。

アニメーションの開始      ブレークポイントの切り替え



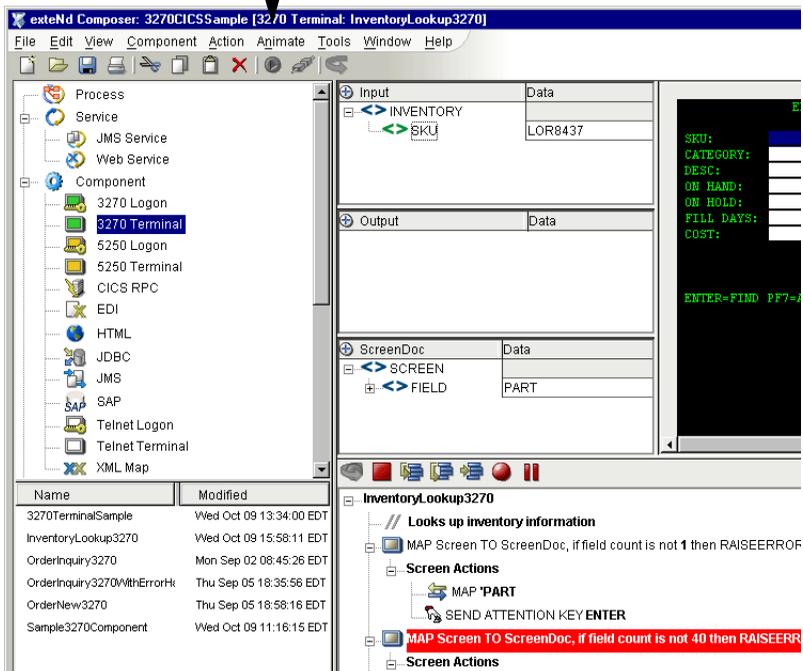
- 4 [Start Animation] ボタンをクリックします。アニメーションツールが有効になります。

[Run to Breakpoint/End]



- 5 [Run to Breakpoint/End] ボタンをクリックします。アクションモデルは、最初から手順 3 で設定したブレークポイントまでのすべてのアクションを実行します (次の図を参照)。

[Record] ボタン



- 6 アニメーションツールバーで、[Pause] ボタンをクリックします。
- 7 コンポーネントエディタのツールバーで、[Record] ボタンをクリックします。
- 8 Composer のドラッグアンドドロップ機能を使用して、画面と通信する新しい Map アクションを追加します。選択した行のすぐ下に新しいアクションが追加されます。
- 9 [File]、[Save] の順に選択するか、コンポーネントエディタのツールバーで [Save] ボタンをクリックします。
- 10 「アニメーションツールの使用」の指示に従って、コンポーネントをテストします。

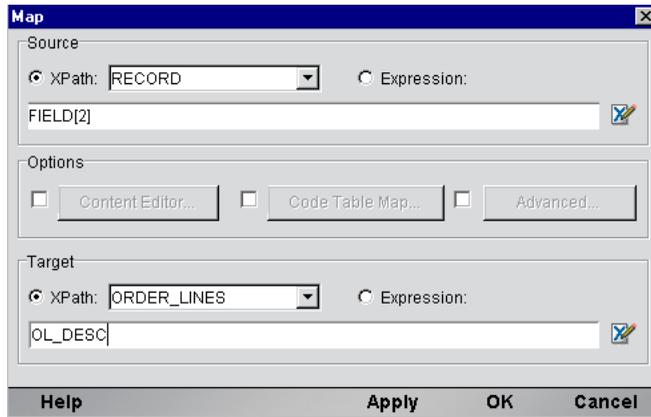
## Alias アクションの追加について

別名であるループに Map アクションを追加する場合、次の操作を実行します。

### ➤ Alias アクションを以前に記録したアクションモデルに追加する

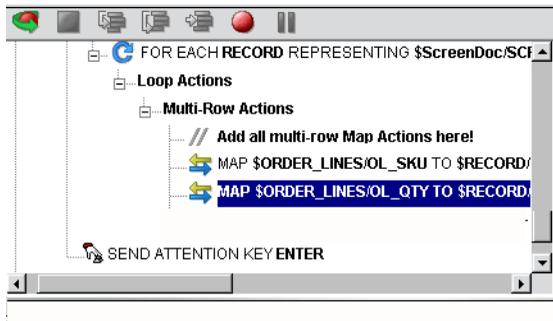
- 1 コンポーネントを開きます。

[Action] メニューから、[New Action/Advanced]、[Map] の順に選択します。[Map] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [Source] のドロップダウンリストから Xpath を選択します。ドロップダウンリストから [Order\_Lines] が選択されます。
- 3 情報を入力するか、[Expression Builder] ボタンをクリックして新しい式を作成します。
- 4 別名によって表される Xpath を作成します。ドロップダウンリストから別名をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。

選択した行の下に新しいアクションが挿入されます ( 次の図では、挿入された新しい行がハイライト表示されています)。

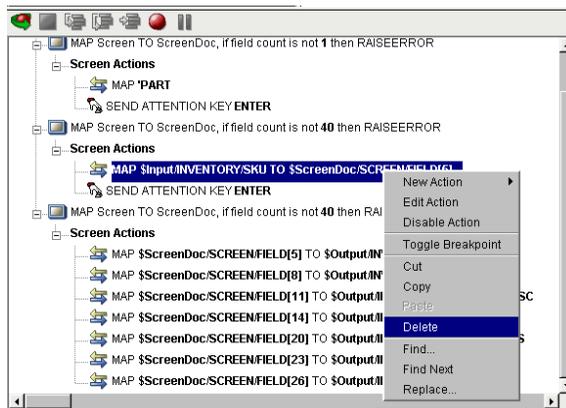


## アクションの削除

次の手順では、以前に記録したセッションでアクションを削除する方法を説明します。

### ➤ 以前に記録したアクションモデルでアクションを削除する

- 1 削除するアクションの行を選択します。
- 2 マウスの右ボタンをクリックし、メニューから [Delete] を選択します。行を選択して、キーボードの <Delete> キーを押すこともできます。



## 3270 Multi Row ウィザードについて

3270 Connect には、データを XML ドキュメントから 3270 へまたは 3270 画面から XML ドキュメントへ迅速で簡単にドラッグすることのできる、ドラッグアンドドロップ機能があります。ただし、一定でない行数や、複数の画面に渡るデータがある場合、ドラッグアンドドロップは有効な方法ではありません。この問題を解決するため、3270 Connect には、DOM と 3270 画面の間で複数対複数のデータ関係のマップを指定するための「Multi Row ウィザード」があります。Multi Row ウィザードは、3270 コンポーネントで [Action] > [New Action] の順に選択すると表示されるオプションです。これは、データを XML ドキュメントから 3270 画面の繰り返しの領域に入力したり、繰り返されるデータを 3270 画面から XML ドキュメントに出力したりする場合に使用します。基本的に Multi Row ウィザードによって、データの複数行をあるドキュメントまたは画面から別のドキュメントまたは画面に、完了するまで自動的にマップするアクションモデル内に、行数や画面数に関わらず、繰り返しループが作成されます。

## このガイドで使用する Multi Row サンプルについて

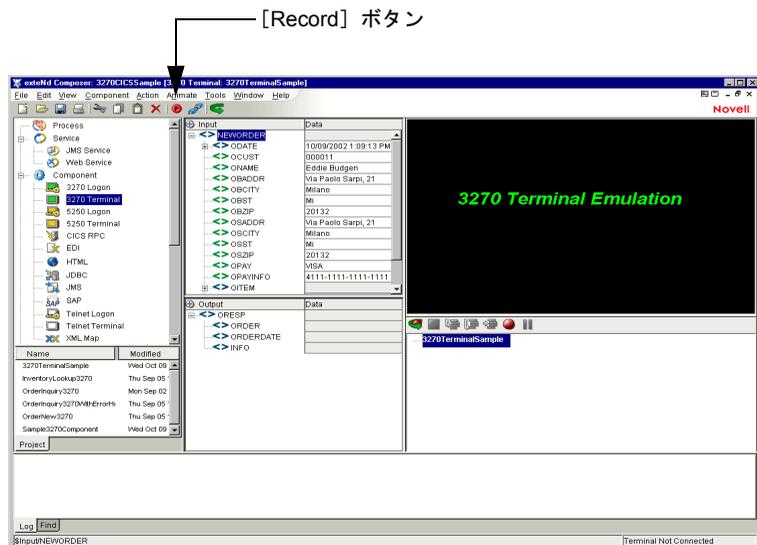
Multi Row ウィザードを使用して複数行のデータを XML ドキュメントおよび 3270 画面に入出力するための方法はたくさんありますが、このガイドではすべてのシナリオには言及していないことをご理解ください。ここでは、Multi Row ウィザードの一般的な使用方法を理解するための、基本となる 2 種類のサンプルコンポーネントを紹介します。

最初の手順では、複数のデータ要素を XML ドキュメントから 3270 画面に「入力」するための Multi Row ウィザードを使用するコンポーネントを示します。2 つ目の手順では、複数のデータ要素を 3270 画面から出力 DOM に「出力」するための Multi Row ウィザードを使用するコンポーネントを示します。

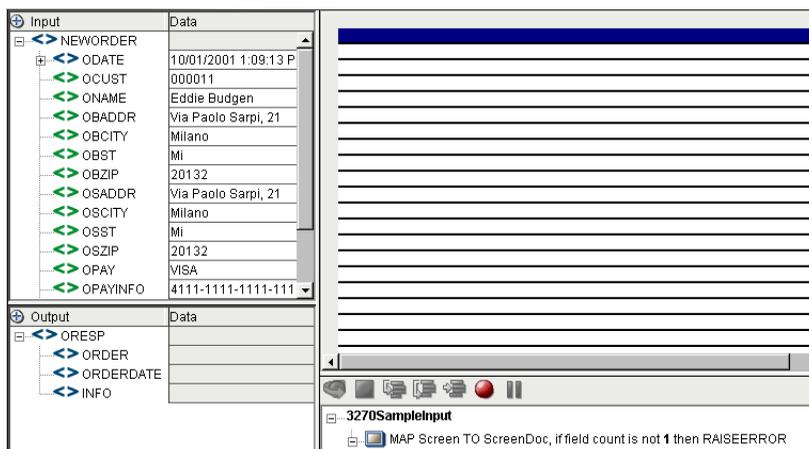
この節で扱う手順は、単に例として示すものです。Compoer のチュートリアルとは異なり、これらの手順は段階に沿って使用できるものではありません。

### ➤ Multi Row ウィザードを使用したデータの入力を準備する

- 1 33 ページの「3270 コンポーネントを作成する前に」の指示に従って、コンポーネントを作成します。この例では、コンポーネントを「3270SampleInput」と呼びます。次の図の 3270 コンポーネントエディタに、コンポーネントを示します。



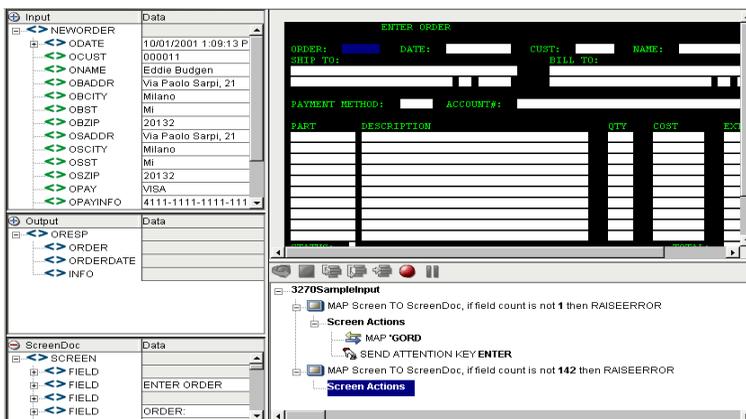
- 2 [Record] ボタンをクリックします。ネイティブ環境ペインに黒い画面が表示されます。



- 3 トランザクションの行に、トランザクションを入力することができます。この例では、トランザクションとして「GORD」を使用しています。
- 4 キーボードで、<Enter>を押します。

**注記：**また、ネイティブ環境ペイン内で、3270 のテンキーツールバーから、[Enter] を選択することもできます。このツールバーを表示するには、3270 コンポーネントエディタのメニューバーから [View]、[Keypad Toolbar] の順に選択します。

この例では、ネイティブ環境ペインに、「ENTER ORDER」という 3270 画面が表示されます。



- 5 次に、入力 DOM から、3270 の [ENTER ORDER] 画面内の対応するフィールドに、該当するヘッダデータをドラッグアンドドロップします。この例では、ドラッグアンドドロップされるデータは、次のとおりです。

表 4-2

マップ元: DOM フィールド	マップ先: 3270 の [ENTER ORDER] 画面のフィールド
ODATE	DATE:
OCUST	CUST:
ONAME	NAME:
OBADDR	BILL TO: (1 行目)
OBCITY	BILL TO: (2 行目)
OBST	BILL TO: (2 行目、都市名の右側にある 2 文字用のフィールド)
OBZIP	BILL TO: (2 行目、州名の右側にある 5 文字用のフィールド)
OSADDR	SHIP TO: (1 行目)
OSCITY	SHIP TO: (2 行目)
OSST	SHIP TO: (2 行目、都市名の右側にある 2 文字用のフィールド)
OSZIP	SHIP TO: (2 行目、州名の右側にある 5 文字用のフィールド)
OPAY	PAYMENT METHOD:
OPAYINFO	ACCOUNT #:

3270 の [ENTER ORDER] 画面が次のように表示されます。

The screenshot shows the 'ENTER ORDER' screen with the following data:

ORDER: [ ] DATE: 07-01-1999 CUST: 000001 NAME: Chris Keller  
SHIP TO: [ ] BILL TO: [ ]  
60 Crown View Drive 60 Crown View Drive  
Monroe CT 06468 Monroe CT 06468

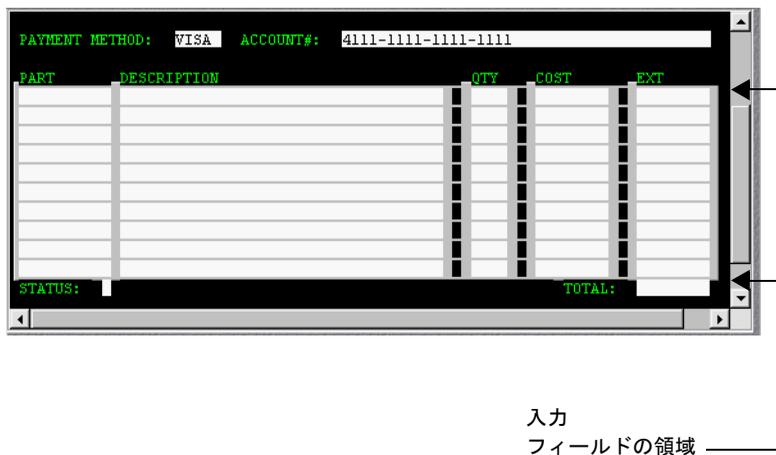
PAYMENT METHOD: VISA ACCOUNT#: 4111-1111-1111-1111

PART	DESCRIPTION	QTY	COST	EXT

- 6 Multi Row アクションで使用するための繰り返し行の範囲を指定します。
- 7 Multi Row アクションで使用するために、繰り返しデータを含む領域を手動で指定するか、その領域を選択する必要があります。この例では、3270 の [ENTER ORDER] 画面の品目の入力フィールドの領域で、左上隅から右下隅に向かってカーソルをドラッグしています。ドラッグマーカーがグレーの背景色でハイライトされます。

**注記：** カーソルのドラッグは、最初のフィールドの「外側」から開始するようにしてください。フィールド内でドラッグを開始すると、フィールド自体を移動しようとしているとみなされます。

3270 の入力フィールドの領域が次のように表示されます。



### ➤ Multi Row ウィザードを使用してデータを入力する

**注記：** データを出力する場合、後のページでの説明（このガイドの (72 ページの「Multi Row ウィザードを使用してデータを出力する」) を参照してください。

3270 コンポーネントエディタから、[Action]、[New Action]、[Multi Row] の順に選択します。Multi Row ウィザードが表示されます。ダイアログボックスには、ハイライト表示されている領域に関するデータが自動的に表示されます (63 ページの「Multi Row ウィザードを使用したデータの入力を準備する」の例を参照)。

フィールドを編集する、または領域をハイライト表示していない場合、次の手順に従います。

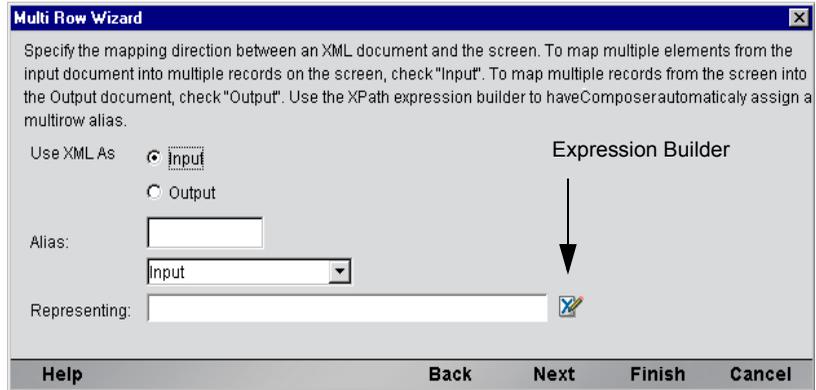
**注記：** 3270 画面は、行と列で構成されています。デフォルトは、24 行 X 80 列です。

- ◆ [Start Line] - ウィザードがカウントを開始する最初の行です。
  - ◆ [Start Column] - ウィザードを開始する最初の列です。Column 1 は一番左の列です。
  - ◆ [# Records Down] - ウィザードを使用してループに含めるレコードの数です。
  - ◆ [# Records Across] - レコードをページの一冊下までリストし、次に折り返して最上部に戻るのが、COBOL のプログラムの一般的な方法です。これにより、ページの下に向かって、いくつかのレコードが隣り合って表示されます。このフィールドを使用して、1 つの行内に並んで表示されるレコードの数を指定します。
  - ◆ [# Lines/Record] - レコードが 80 文字を超える場合、レコードは次の行に折り返されます。レコードが 160 文字を超える場合、レコードは 3 行目まで折り返されます。1 つのレコードに使用する行数を指定する必要があります。
  - ◆ [# Columns/Record] - このフィールドでは、レコードに含める列数を指定します。最大列数は 80 です。
- 8** 必要に応じてフィールドを編集します。パラメータが適切である場合、[Next] をクリックします。Multi Row ウィザードの 2 番目のパネルが表示されます。

#### ➤ Multi Row ウィザードに Repeat アクションを設定する

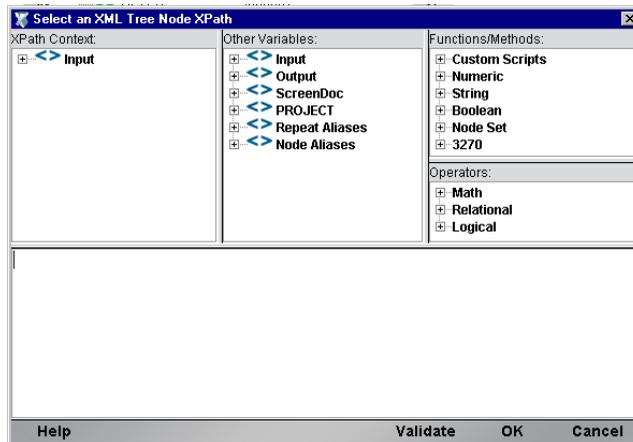
**注記：** データを出力する場合、72 ページの「Multi Row ウィザードを使用してデータを出力する」を参照してください。

Multi Row ウィザードの最初のパネルが完了すると、次のダイアログボックスが表示されます。



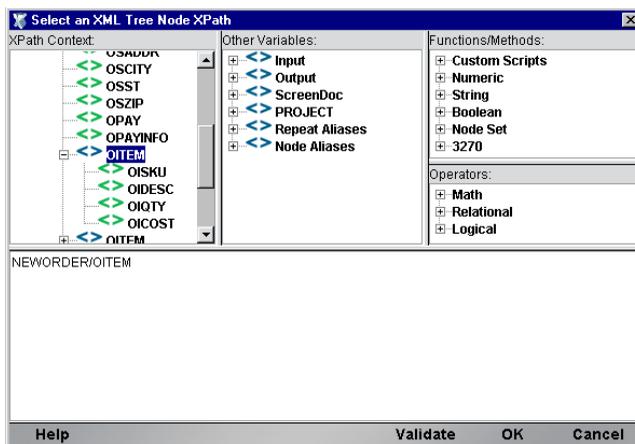
- 9 [Use XML As] で、[Input] ラジオボタンを選択します。このパネルは、複数の要素または画面の行を処理する Repeat アクションを作成するために使用します。これは、すべてのコンポーネントで使用できる基本の「Repeat for Element」アクションと類似したアクションです。

[Representing] フィールドで、[Expression Builder] ボタンをクリックします。[Expression Builder] ウィンドウが表示されます。



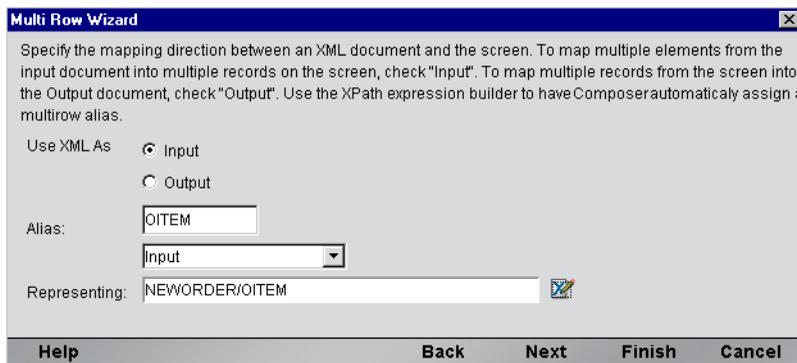
- 10 [XPath Content] フレームで、[Input] 要素を展開します。

[OITEM] 要素に移動し、ダブルクリックします。ウィンドウの下部にあるコメントペインに式が表示されます。この例では、[OITEM] がループされる要素です。



[OK] をクリックします。Multi Row ウィザードの 2 番目の画面に戻ります。ここでは、[Representing] フィールドに新しい式が表示されています。

**注記：** Expression Builder を使用すると、Composer により自動的に「別名」が作成されます。この例では、OITEM という別名が作成されています。別名の詳細については、『exteNd Composer ユーザガイド』を参照してください。

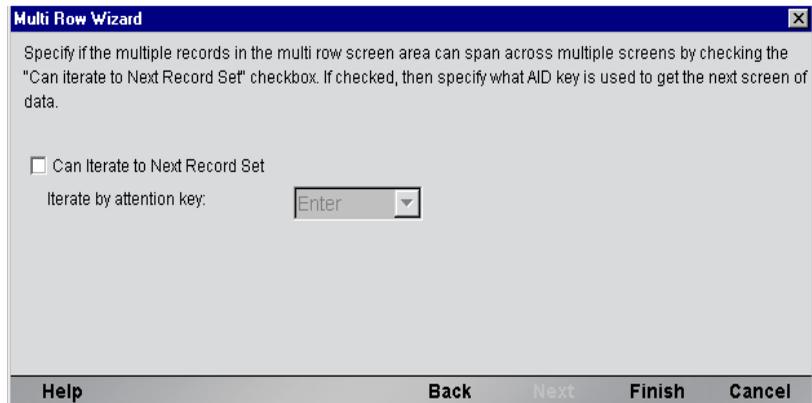


**11** [Next] をクリックします。Multi Row ウィザードの繰り返しに関する画面が表示されます。

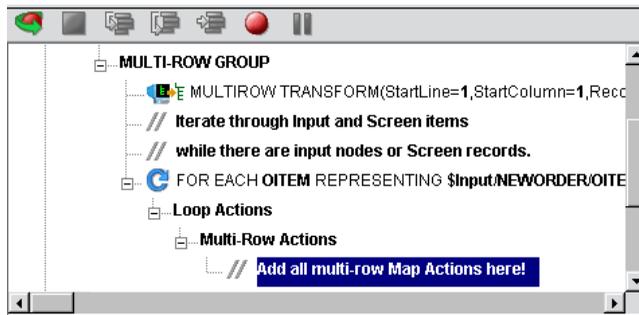
### ➤ 次のレコードを繰り返す

**注記：** データを出力する場合、72 ページの「Multi Row ウィザードを使用してデータを出力する」を参照してください。

この画面では、ページの最後に実行する操作を Multi Row ウィザードに指示します。この例では (63 ページの「このガイドで使用する Multi Row サンプルについて」を参照)、1 ページ分のデータのみを処理しているため、[Can Iterate to Next Record Set] チェックボックスはオンになっていません。



[Finish] をクリックします。Multi Row ウィザードで作成したアクションがアクションモデルペインに表示されます。ここでは、[Add all multi row map actions here!] というコメントがハイライトされています。



#### ➤ データの入力に使用する Multi Row アクションを追加する

- 1 アクションモデルで、[Add all multi row map actions here!] というコメントがハイライト表示されていない場合は、選択してハイライトします。
- 2 入力 DOM ペインで、OITEM の最初のインスタンスに移動します。

- 3 OITEM のチャイルド要素を、3270 画面の品目のフィールドにある、最初の行の該当するフィールドにドラッグアンドドロップします (次の図を参照)。

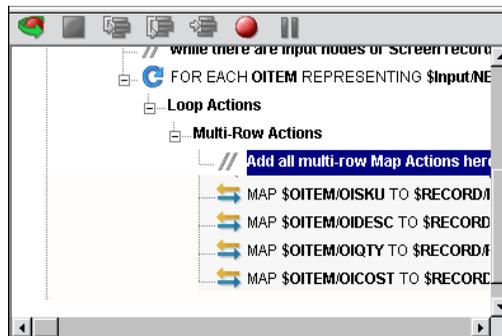
表 4-3

マップ元: 入力 DOM	マップ先: 3270 の [ENTER ORDER 3270] 画面
OISKU	PART
OIDESC	DESCRIPTION
OIQTY	QTY
OICOST	COST

- 4 入力 DOM と 3270 の [ENTER ORDER 3270] 画面が次のように表示されます。

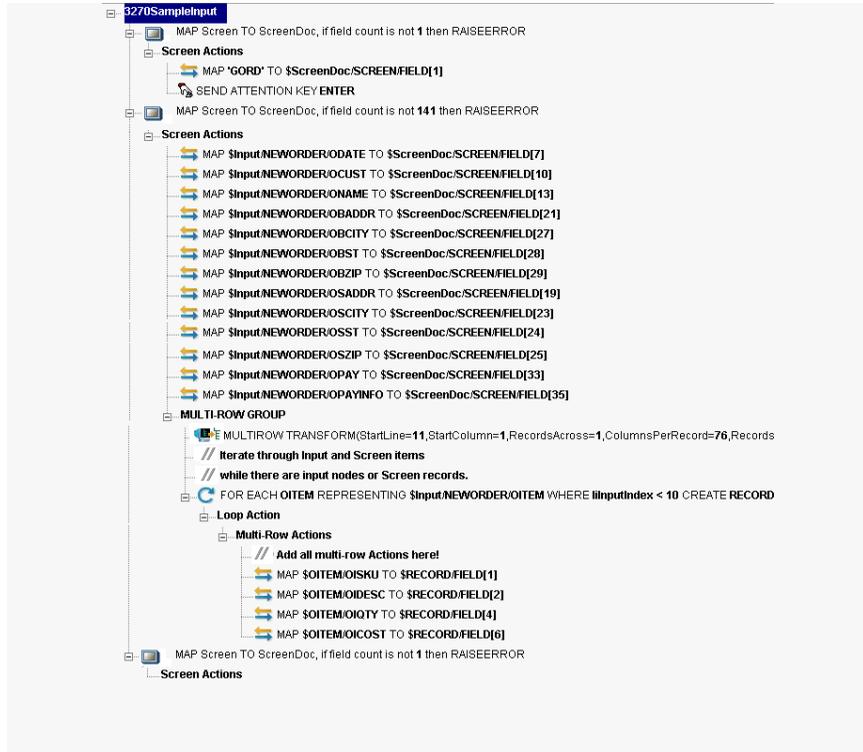


- 5 アクションモデルペインが次のように表示されます。



- 6 Multi Row アクションのブロック内にある Map アクションは、画面内の絶対的な位置ではなく、行内の相対的な位置で参照されることに注意してください。したがって、最初の Map アクションのターゲットは、\$RECORD/FIELD[1] です。Multi Row のコンテキスト内で、ドラッグアンドドロップによって Map アクションを作成すると、これらのフィールドインデックスが自動的に作成され、割り当てられます。

最終的なアクションモデルが次のように表示されます。

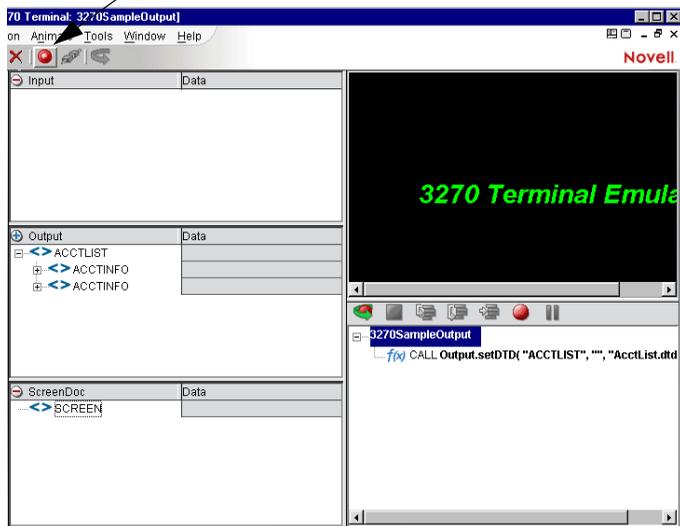


- 7 3270 コンポーネントエディタのメニューバーで、[File]、[Save] の順に選択するか、[Save] ボタンをクリックします。
- 8 83 ページの「アニメーションツールの使用」の指示に従って、コンポーネントをテストします。

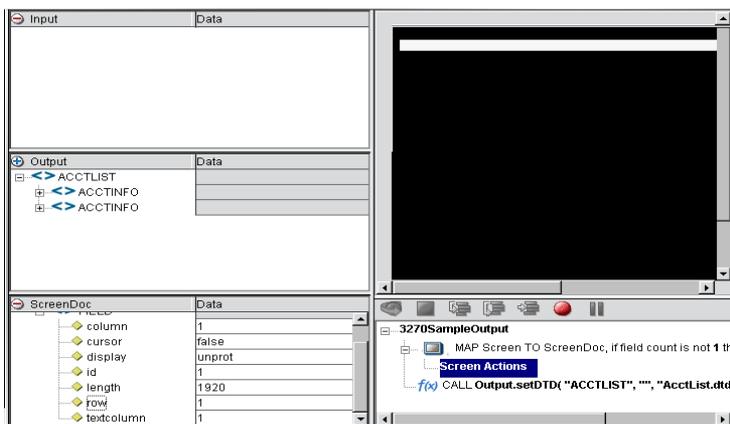
### ➤ Multi Row ウィザードを使用してデータを出力する

- 1 33 ページの「3270 コンポーネントを作成する前に」の指示に従って、コンポーネントを作成します。この例では、「3270SampleOutput」というコンポーネントが作成されます。次の図の 3270 コンポーネントエディタに、コンポーネントを示します。

[Record] ボタン



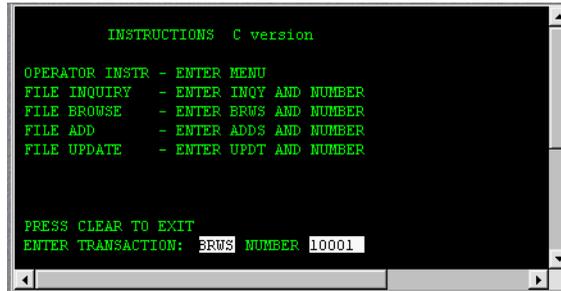
- 2 [Record] ボタンをクリックします。ネイティブ環境ペインに、1行が挿入された黒い画面が表示されます。



- 3 この例で使用する適切な画面に移動し、トランザクションの行にトランザクションを入力します。この例では、トランザクションとして「MENU」を使用しています。

キーボードで、<Enter>を押します。この例では、ネイティブ環境ペインに、「INSTRUCTIONS」という 3270 画面が表示されます。

**注記：** また、ネイティブ環境ペイン内で、3270 のツールバーから、[Enter] を選択することもできます。このツールバーを表示するには、3270 コンポーネントエディタのメニューバーから [View]、[Keypad Toolbar] の順に選択します。



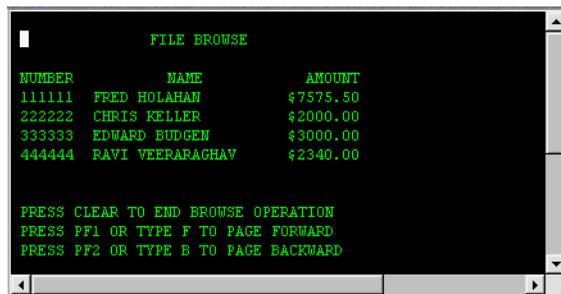
```
INSTRUCTIONS C version

OPERATOR INSTR - ENTER MENU
FILE INQUIRY   - ENTER INQY AMD NUMBER
FILE BROWSE   - ENTER BRWS AMD NUMBER
FILE ADD      - ENTER ADDS AMD NUMBER
FILE UPDATE   - ENTER UPDT AMD NUMBER

PRESS CLEAR TO EXIT
ENTER TRANSACTION: BRWS NUMBER 10001
```

- 4 この例では、[TRANSACTION] フィールドに「BRWS」が、[NUMBER] フィールドに「10001」が、それぞれ入力されています。

キーボードで、<Enter> を押します。「FILE BROWSE」という 3270 の画面が表示されます。



```
FILE BROWSE

NUMBER      NAME              AMOUNT
111111     FRED HOLAHAN       $7575.50
222222     CHRIS KELLER       $2000.00
333333     EDWARD BUDGEN     $3000.00
444444     RAVI VEERARAGHAV  $2340.00

PRESS CLEAR TO END BROWSE OPERATION
PRESS PF1 OR TYPE F TO PAGE FORWARD
PRESS PF2 OR TYPE B TO PAGE BACKWARD
```

- 5 Multi Row アクションで使用するために、繰り返しデータを含む領域を手動で指定するか、その領域を選択する必要があります。この例では、データ領域の右上隅から左下隅に向かってカーソルをドラッグしています。ドラッグマーカーがグレーの背景色でハイライトされます。

**注記：** カーソルのドラッグは、最初のフィールドの「外側」から開始するようにしてください。フィールド内でドラッグを開始すると、フィールド自体を移動しようとしているとみなされます。

- 6 [FILE BROWSE] 画面が次のように表示されます。

FILE BROWSE		
NUMBER	NAME	AMOUNT
111111	FRED HOLAHAN	\$7575.50
222222	CHRIS KELLER	\$2000.00
333333	EDWARD BUDGEN	\$3000.00
444444	RAVI VEERARAGHAV	\$2340.00

PRESS CLEAR TO END BROWSE OPERATION  
PRESS PF1 OR TYPE F TO PAGE FORWARD  
PRESS PF2 OR TYPE B TO PAGE BACKWARD

- 7 3270 コンポーネントエディタから、[Action]、[New Action]、[Multi Row]の順に選択します。Multi Row ウィザードが表示されます。ダイアログボックスには、前の手順でハイライト表示した領域に関するデータが自動的に表示されます。

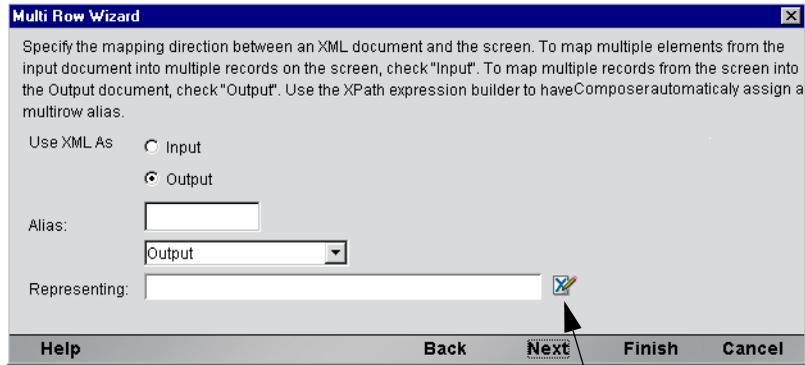
**Multi Row Wizard** ✕

Specify the dimensions and layout of the screen area containing multiple records. If the multiple records span across more than one screen, this multi row area must have the same specifications on each screen received from the host.

Start Line:	<input type="text" value="1"/>	Start Column:	<input type="text" value="1"/>
# Records Down:	<input type="text" value="1"/>	# Records Across:	<input type="text" value="1"/>
# Lines/Record:	<input type="text" value="1"/>	# Columns/Record:	<input type="text" value="60"/>

Help    Next    Finish    Cancel

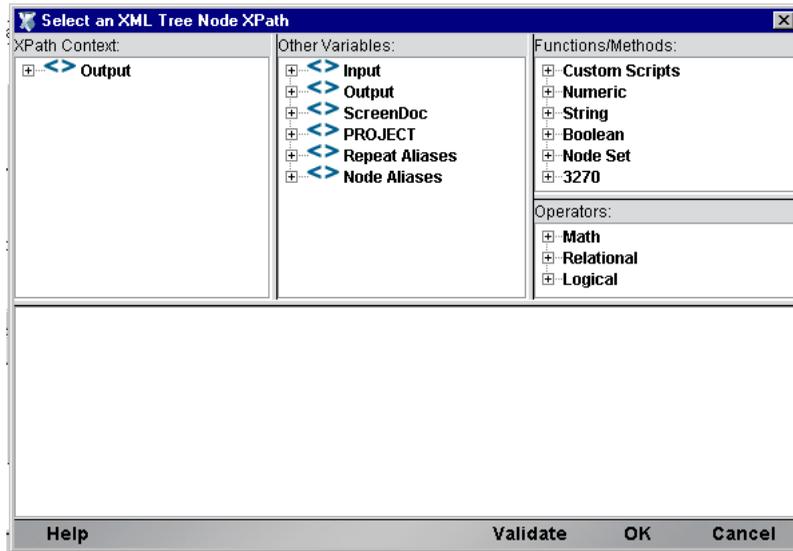
- 8 必要に応じてフィールドを編集します。パラメータが適切である場合、[Next]をクリックします。Multi Row ウィザードの2番目のパネルが表示されます。



Expression Builder

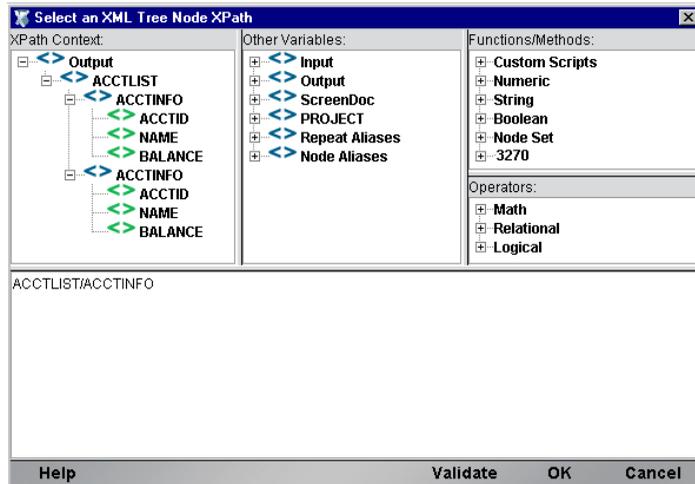
- 9 [Use XML As] で、[Output] ラジオボタンを選択します。このパネルは、複数の要素または画面の行を処理する Repeat アクションを作成するために使用します。これは、すべてのコンポーネントで使用できる基本の「Repeat for Element」アクションと類似したアクションです。

[Representing] フィールドで、[Expression Builder] ボタンをクリックします。[Expression Builder] ウィンドウが表示されます。



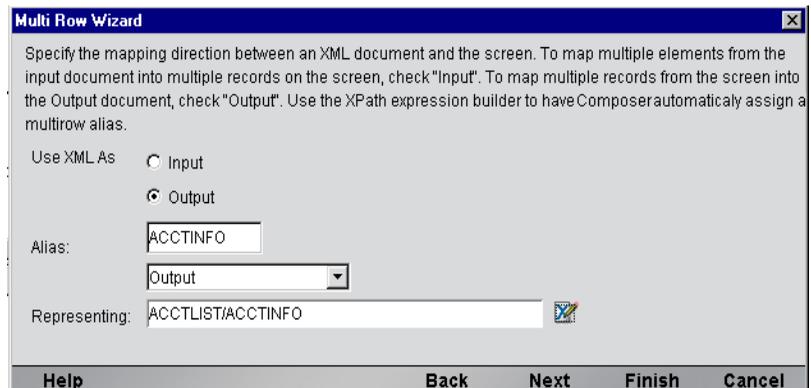
[XPath Content] フレームで、[Output] 要素を展開します。

- 10 [ACCINFO] 要素に移動し、ダブルクリックします。ウィンドウの下部にあるコメントペインに式が表示されます。この例では、[ACCINFO] がグループされる要素です。

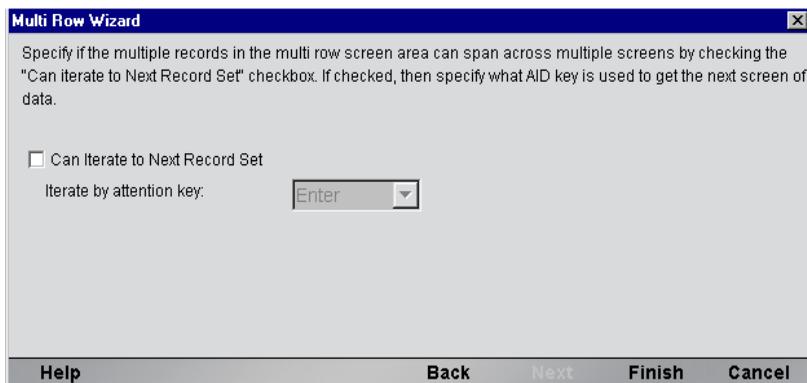


- 11 [OK] をクリックします。Multi Row ウィザードの 2 番目の画面に戻ります。ここでは、[Representing] フィールドに新しい式が表示されています。

**注記：** Expression Builder を使用すると、Composer により自動的に「別名」が作成されます。この例では、ACCINFO という別名が作成されています。別名の詳細については、『exteNd Composer ユーザガイド』を参照してください。



- 12 [Next] ボタンをクリックします。Multi Row ウィザードの繰り返しに関する画面が表示されます。この画面では、ページの最後に実行する操作を Multi Row ウィザードに指示します。



**13** [Can Iterate to Next Record Set] チェックボックスをオンにします。

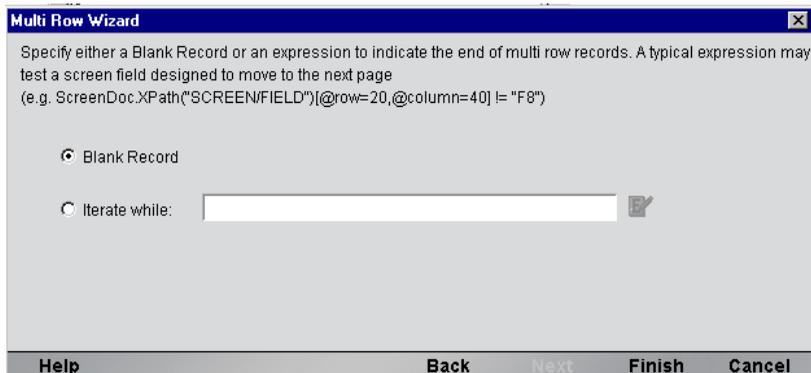
**14** [Iterate by attention key] プルダウンリストで、[F1] を選択します。

**注記：** 3270 画面には、繰り返しキーに関する説明が表示されます。この例では、[FILE BROWSE] 画面に、<F1> キーを使用して次のページに進むという指示が含まれています。

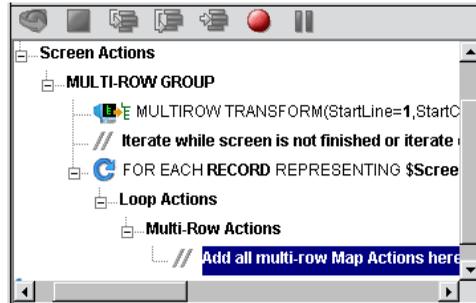
**15** [Next] をクリックします。

➤ **Multi Row ウィザードで、境界のパラメータに関するページを設定する**

**1** [Blank Record] ラジオボタンを選択します。これにより、空白のレコードは Loop アクションのエンドポイントであるとウィザードに指定します。Expression Builder を使用して、Loop アクションのエンドポイントに別のインジケータを設定することもできます。Expression Builder の使用の詳細については、『exteNd Composer ユーザガイド』を参照してください。



- 2 [Finish] をクリックします。Multi Row ウィザードで作成したアクションがアクションモデルペインに表示されます。ここでは、[Add all multi row map actions here!] というコメントがハイライトされています。



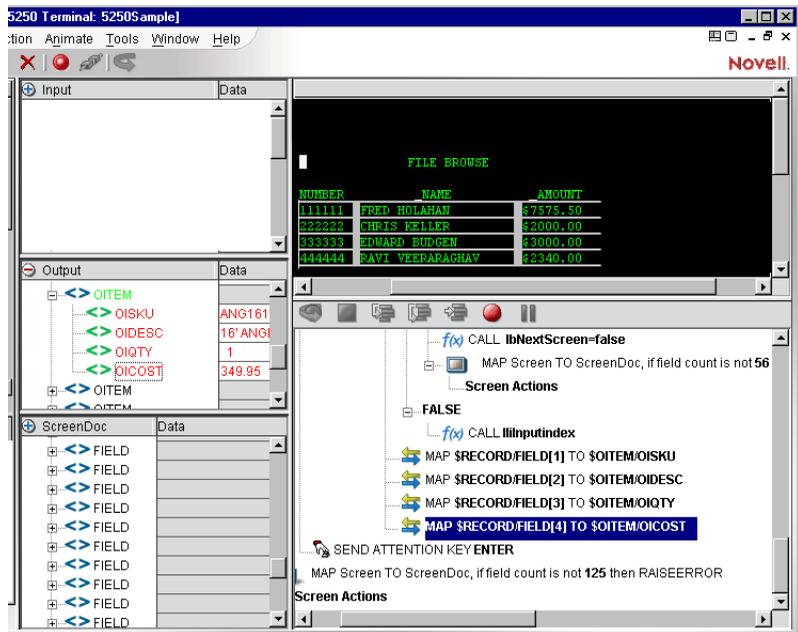
➤ データの出力に使用する Multi Row アクションを追加する

- 1 アクションモデルで、[Add all multi row map actions here!] というコメントがハイライト表示されていない場合は、選択してハイライトします。
- 2 出力 DOM ペインで、ACCINFO の最初のインスタンスに移動します。
- 3 3270 の [FILE BROWSE] 画面のデータを出力 DOM にドラッグアンドドロップします (次を参照)。

表 4-4

マップ元: FILE BROWSE	マップ先: 出力 DOM
NUMBER	ACCTID
NAME	NAME
AMOUNT	BALANCE

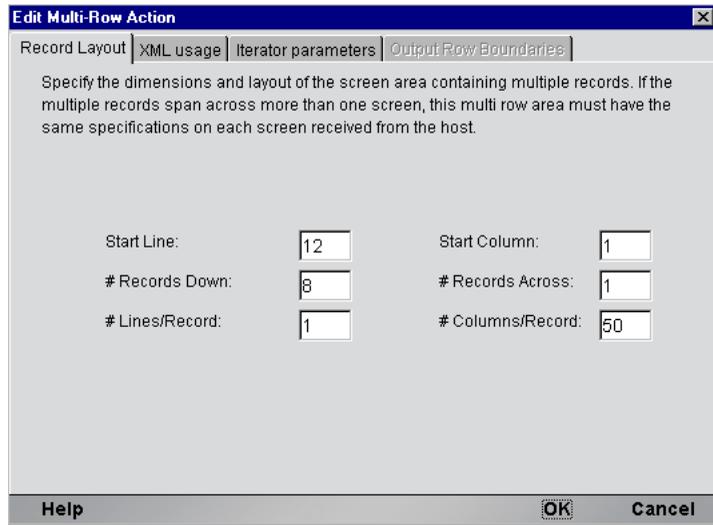
- 4 出力 DOM が次のように表示されます。



- 5 3270 コンポーネントエディタのメニューバーで、[File]、[Save] の順に選択するか、[Save] ボタンをクリックします。
- 6 83 ページの「アニメーションツールの使用」の指示に従って、コンポーネントをテストします。

➤ **Multi Row アクションを編集する**

- 1 アクションペインで、変更する MultiRow アクションをクリックします。ダイアログボックスが表示されます。



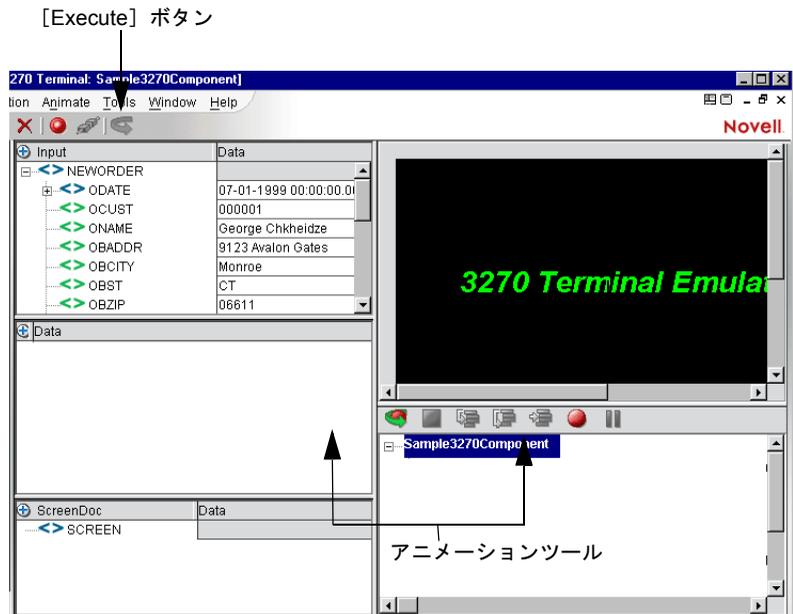
- 2 該当するタブをクリックし、フィールドを編集した後、[OK] ボタンをクリックします。MultiRow ウィザードを使用してデータの入出力する方法については、前の節を参照してください。

## 3270 コンポーネントの実行

Composer には、コンポーネントをテストできるアニメーションツールが含まれています。3270 コンポーネントエディタのツールバーには、[Execute] ボタンがあり、このボタンを使用するとアクションモデル全体を実行して、コンポーネントが意図したとおりに動作するか検証できます。

### ➤ 3270 コンポーネントを実行する

- 1 3270 コンポーネントを開きます。3270 コンポーネントエディタウィンドウが表示されます。



- 2 [Execute] ボタンを選択します。アクションモデルのアクションが実行され、アクションの完了時にメッセージが表示されます。



- 3 [OK] をクリックします。

- 4 [View] メニューから、[Expand XML Documents] を選択します。これにより、XML ドキュメントのペアレント、チャイルド、データ要素などがすべて展開され、実行されたコンポーネントの結果を確認できます。XML ドキュメントを展開しないと、指定したデータが、3270 環境から出力 DOM に移動しているかどうかを確認できません。

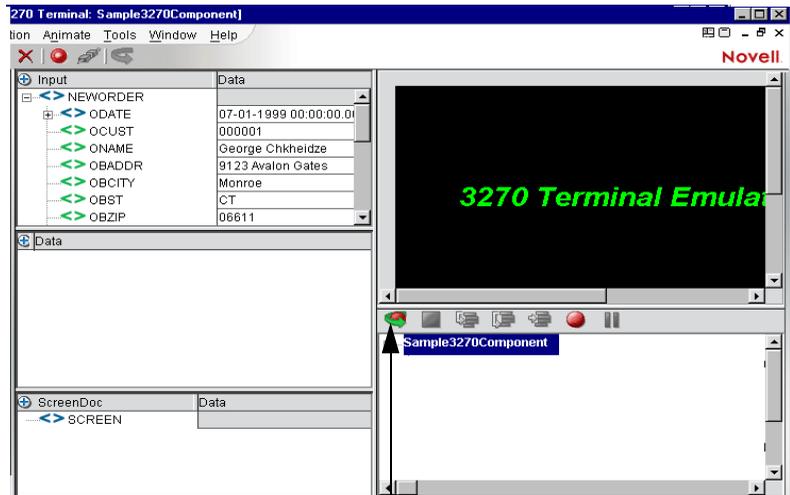
## アニメーションツールの使用

アクションモデルには、1 つまたは複数のブレイクポイントを設定して、アクションモデルの特定のセクションをテストできるアニメーションツールがあります。これらのツールを使用すると、適切に動作するアクションをすべて実行して、問題の生じたアクションで停止してから、問題のアクションを 1 つずつトラブルシューティングすることができます。

**注記：** アニメーションツール機能の簡単な例は、次のとおりです。すべてのアニメーションツールおよびその機能の詳細については、『exteNd Composer ユーザガイド』を参照してください。

### ➤ アニメーションを実行する

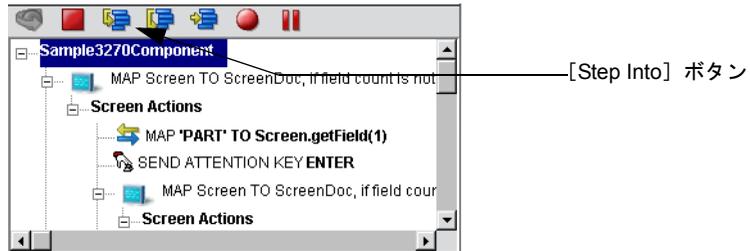
- 1 3270 コンポーネントを開きます。3270 コンポーネントエディタウィンドウにコンポーネントが表示されます。



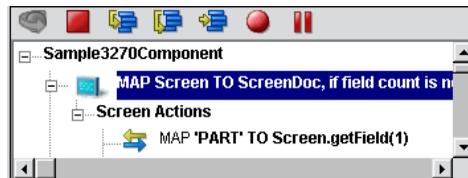
[Start Animation] ボタン

**注記：** アニメーションモードと記録モードは、コンポーネントでは互いに排他的なモードです。アニメーション中に記録を行うには、アニメーションを一時停止または停止してから、記録モードをオンにする必要があります。

- アクションモデルのツールバーで **[Start Animation]** ボタンをクリックするか、またはキーボードの **<F5>** キーを押します。ツールバーのすべてのツールが有効になります。



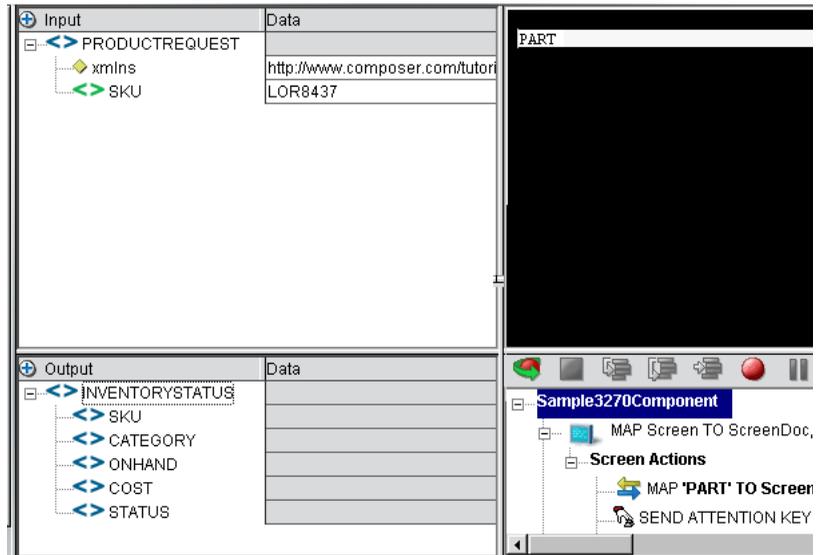
- [Step Into]** ボタンをクリックします。最初の Map アクションが選択されます。



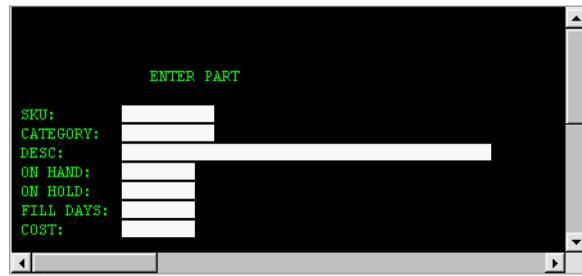
- [Step Into]** ボタンをもう一度クリックします。ネイティブ環境ペインの入力フィールドに「PART」というコマンドを入力するという指示がハイライト表示されます。



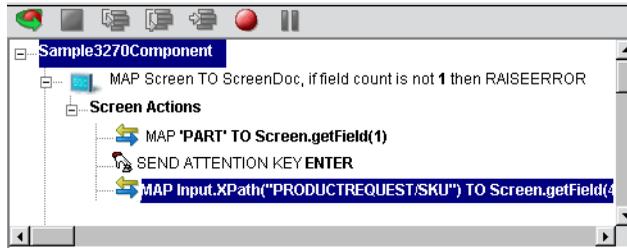
- [Step Into]** ボタンをもう一度クリックします。ネイティブ環境ペインの入力行に「PART」が表示されます。



- 6 [Step Into] ボタンをもう一度クリックします。ネイティブ環境ペインに [ENTER PART] 画面が表示されます。



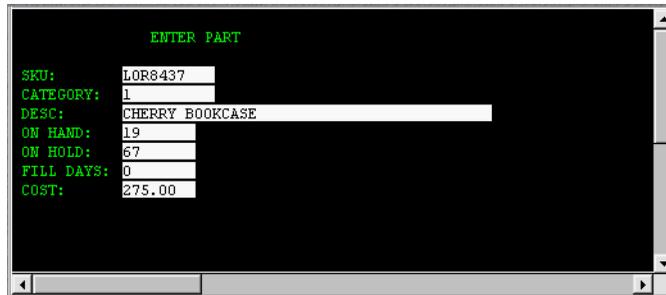
- 7 [Step Into] ボタンをもう一度クリックします。アクションモデルで、SKU を入力 DOM から [ENTER PART] 画面の [SKU] フィールドにドラッグアンドドロップするという指示がハイライト表示されます。



- 8 [Step Into] ボタンをもう一度クリックします。入力 DOM の SKU データが [ENTER PART] 画面の [SKU] フィールドに表示されます。



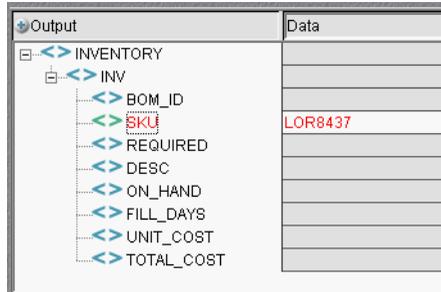
- 9 [Step Into] ボタンをもう一度クリックします。[ENTER PART] 画面に、SKU 番号に関連付けられたデータが表示されます。



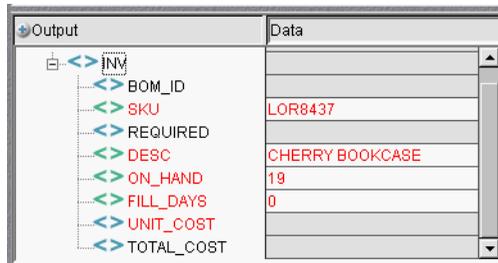
- 10 [Step Into] ボタンをもう一度クリックします。アクションモデルで、SKU データを [ENTER PART] 画面から出力 DOM にドラッグするという指示がハイライト表示されます。



- 11** [Step Into] ボタンをもう一度クリックします。[ENTER PART] 画面の SKU データが出力 DOM の [SKU] フィールドに表示されます。



- 12** [ENTER PART] 画面のフィールドにあるすべてのデータ要素が出力 DOM に表示されるようになるまで、[Step Into] ボタンをクリックします (次の図を参照)。



- 13** 完了すると、次のメッセージが表示されます。

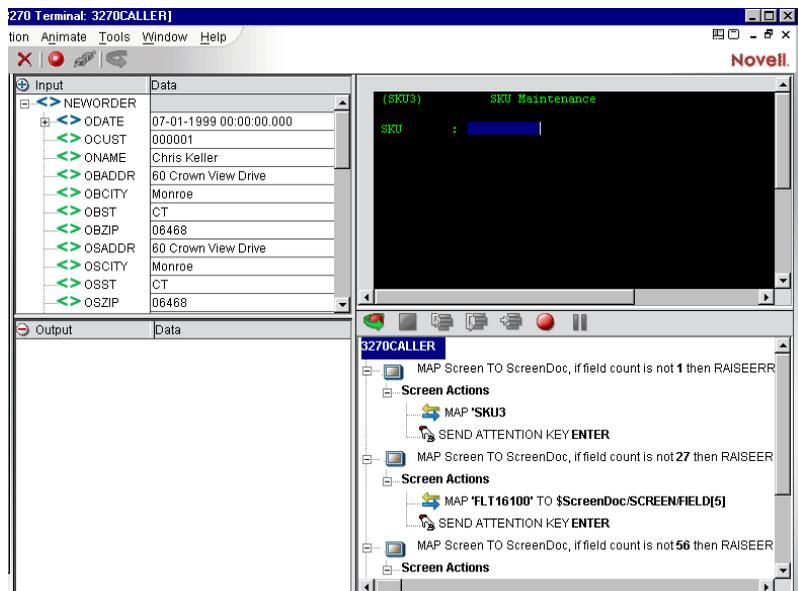


# Component with Connection アクション

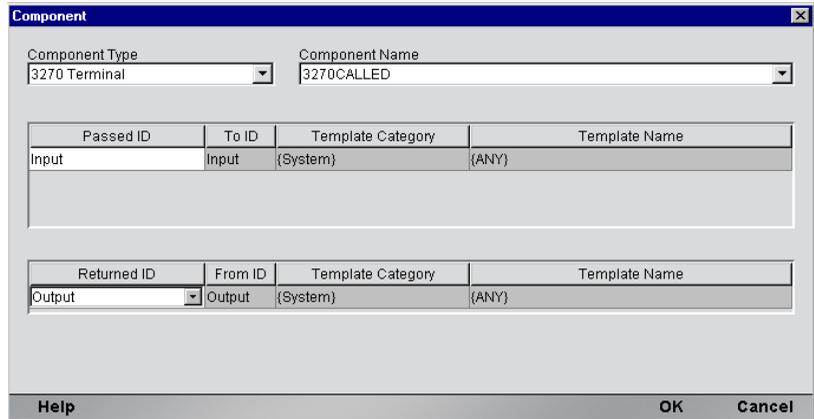
Component with Connection アクションは、3270 コンポーネントから別のコンポーネントを呼び出し、同じ接続を共有できるため、特殊なアクションであると言えます。このアクションを使用すると、大きなコンポーネントを 3270 のメインコンポーネントとサブコンポーネントに分けることができるため、アクションモデルを簡単に保守できます。メインコンポーネントがサブコンポーネントと接続を共有できると、ランタイム時における接続のオーバーヘッドやトランザクションの移動の量を大幅に減少することができます。作業を開始する前に、必要なサブコンポーネント数を特定し、記録開始時に使用する (アクションが記録されていない) シェルを作成し、保存します。

## ➤ Component with Connect アクションを使用する

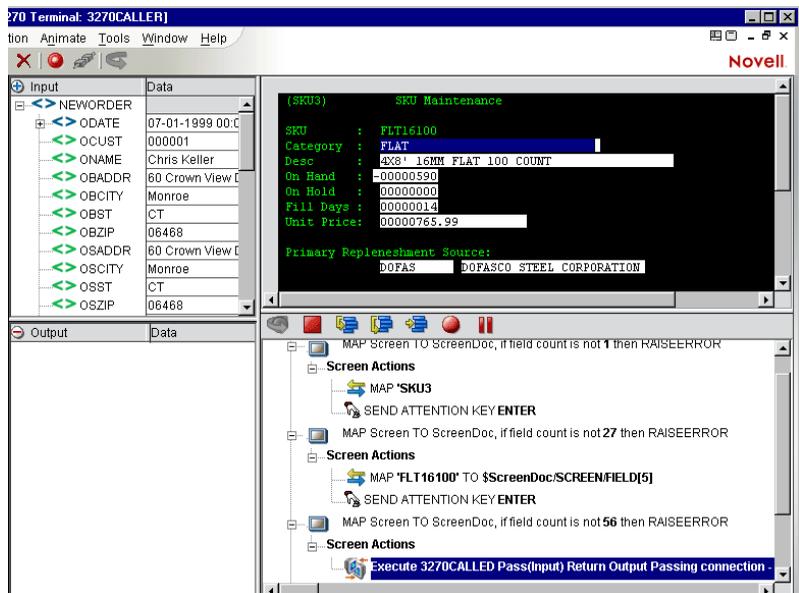
- 1 サブコンポーネントの呼び出しが可能な程度のメインコンポーネントの基本構造を作成および記録します。この例では、メインコンポーネントは「3270 Caller」です。



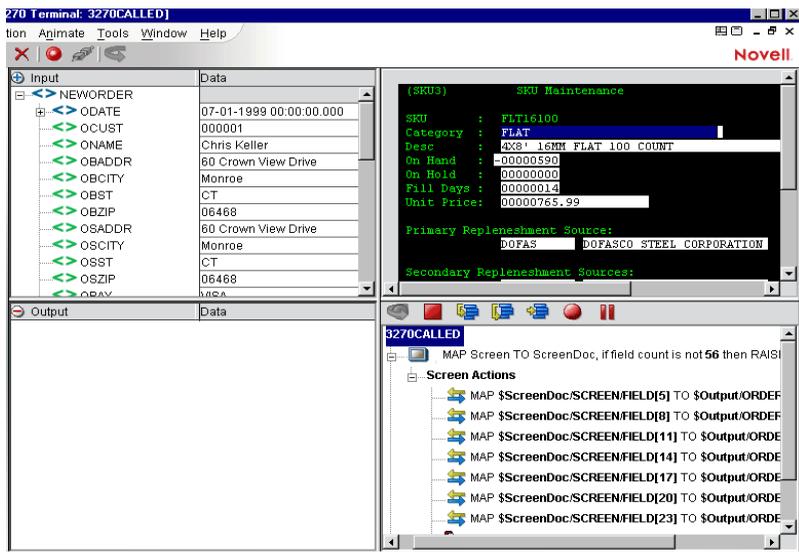
- 2 メインメニューから、またはマウスの右ボタンをクリックして、[New Action] > [Component/w connection] を選択します。次のダイアログボックスが表示されます。



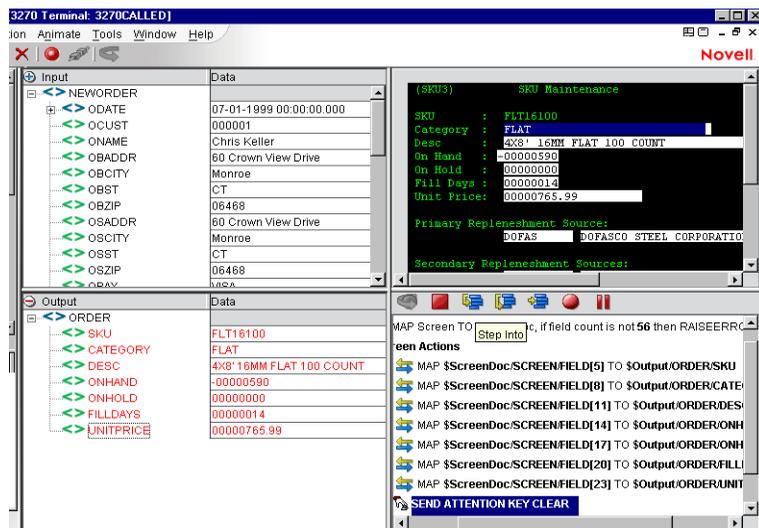
- 3 [Component Type] プルダウンリストから、コンポーネントタイプの名前を選択します。[Component Name] プルダウンリストから、コンポーネントの名前を選択します。
- 4 変更する必要がある場合、渡される ID をプルダウンリストから選択します。変更する必要がある場合、返される ID をプルダウンリストから選択します。[OK] をクリックします。
- 5 アクションがマップペインに表示されます。



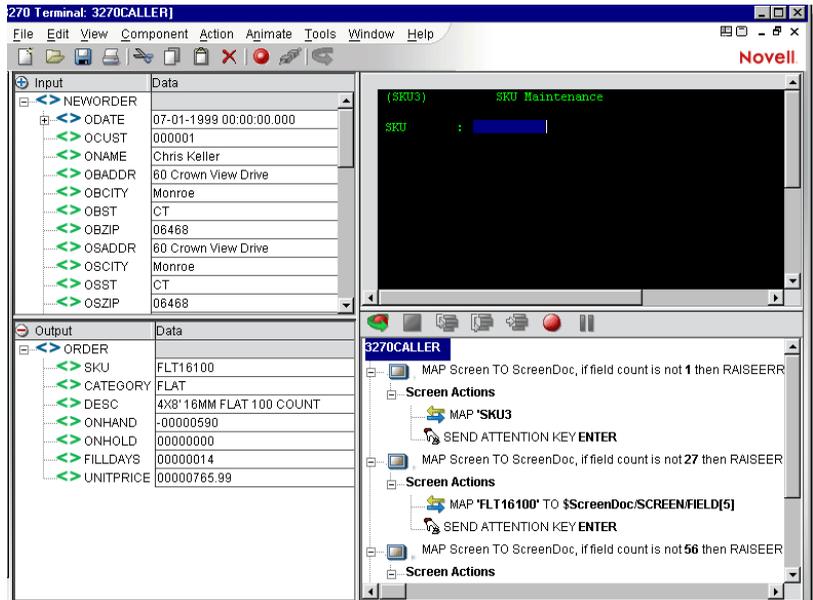
- Map コンポーネントをアニメーション表示し、Component with Connection アクションをステップインすると、サブコンポーネントが開きます。画面の表示が「3270Called」というコンポーネントに変更されることを確認します。



- アニメーションツールバーで [Pause] ボタンをクリックし、[Record] ボタンを有効にします。
- [Record] ボタンをクリックし、サブコンポーネントのアクションを記録します。



- 9 記録処理を停止する前に、コンポーネントを保存します。
- 10 3270 Called のウィンドウが 3270 Caller のウィンドウに戻ります。

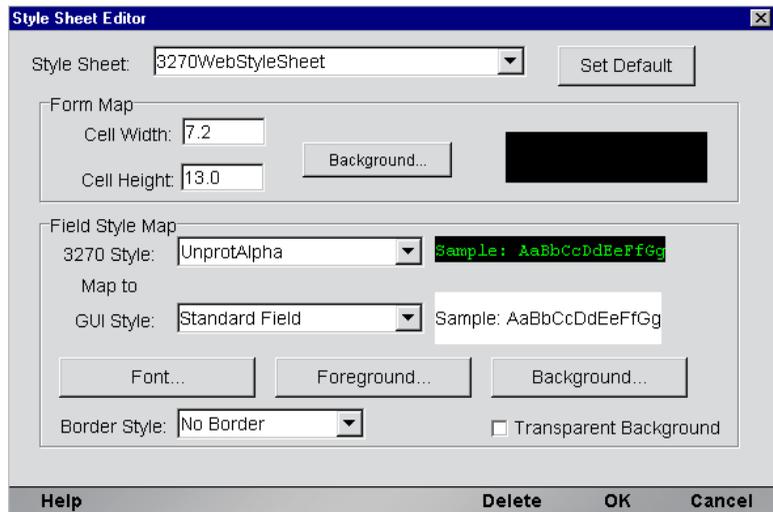


## ネイティブ環境ペインでのスタイルシートの使用

3270 コンポーネントエディタのスタイルシートの機能では、ネイティブ環境ペインの表示方法に関するオプションを選択できます。

### ➤ ネイティブ環境ペインにスタイルシートを適用する

- 1 3270 コンポーネントエディタウィンドウの **[Component]** メニューから、**[Style Sheets]** を選択します。**[Style Sheet Editor]** ウィンドウが表示されます。



- 2 **[Style Sheet]** ドロップダウンリストから **[Style Sheet]** を選択します。Style Sheet Editor の使用の詳細については、28 ページの「スタイルシートリソースの作成」を参照してください。
- 3 **[OK]** をクリックします。

## 3270 コンポーネントエディタでの他のアクションの使用

3270 コンポーネントエディタでは、Map Screen アクションおよび Multi Row アクションに加え、その他すべてのアクションを使用できます。[Action] メニューには、基本的なアクションおよび高度なアクションの両方のリストが表示されます(次の表を参照)。

表 4-5

基本的なアクション	説明
Comment	アクションモデルを記録します。特に、アクションモデルに Decision または Repeat、あるいはその両方が使用されている場合、コメントを使用して処理を明確にすることができます。
Component	別のコンポーネントを実行し、呼び出されたコンポーネントで受け渡しするランタイム DOM を指定します。
Decision	指定した条件に基づいて、アクションの 2 つのセットから 1 つを実行できます。コンポーネントの実行で指定した条件がどのように解決されるかによって、True または False へのパスの分岐を処理します。
Function	ECMAScript スクリプト関数または以前に作成したカスタムスクリプトのいずれかを実行します。カスタムスクリプトは、Composer のカスタムスクリプトリソースエディタを使用して作成できます
Log	コンポーネントに指定されているさまざまなログファイルに情報を書き込みます。ログのタイプには、システム出力、システムログ、およびユーザログの 3 種類があります。
Map	要素のデータのある XML DOM から別の XML DOM へ転送し、オプションで変換します。
Send Mail	コンポーネントの実行中、指定した電子メールアドレスに自動的に電子メールを送信します。
Switch	入力値とケースの値との一致に基づいて、プログラムの制御をアクションの特定のブロックに分岐させることができます。これは、長く、読み取りが困難な if/else (Decision アクション) のチェーンを排除するときに使用できる、基本的に便利なアクションです。

表 4-6、4-7、および 4-8 の各アクションは、コンポーネントエディタの [Action] メニューで、[Advanced]、[Data Exchange and Repeat] の順にサブメニューを選択すると利用できます。

表 4-6

高度なアクション	説明
Apply Namespaces	NameSpace プリフィックスを上書きしたり、新しい NameSpace プリフィックスを宣言したり、または NameSpace 全体を無視したりすることができます。
Raise Error	条件を評価し、true となる場合は、ERROR と呼ばれるグローバル変数に式のコンテンツを記述します。単独で使用された場合は、例外をスローしてコンポーネントを停止し、サービスに制御を返します。Try On Error アクションの Execute 分岐内で使用された場合は、評価され、On Error 分岐でアクションに制御が渡されます。
Simultaneous Components	2 つまたはそれ以上のコンポーネントを同時に (つまり、マルチスレッド方式で) 実行できるようにします。
Transaction	非コンテナ管理サービスの一部として配備されるコンポーネントで User Transaction コマンド (開始、コミット、およびロールバックなど) を呼び出したり、コンテナ管理 EJB 配備の一部となるコンポーネントで setRollbackOnly を呼び出したりできます。
Try On Error	一連のアクションを実行することで、エラーを生成するアクションに反応します。Try On Error アクションは、本質的にエラートラップおよび解決を行うアクションです。
XSLT Transform	XSL ファイルの指示に従って XML ファイルを変換します。出力は、一般的に Web ブラウザに XML ファイルを表示するために使用されます。

表 4-7

Data Exchange アクション	説明
UR_/File Read	XML でないファイル形式を Composer に読み込むことができます。
UR_/File Write	ファイルを XML 以外の別の形式で書き込むことができます。
WS Interchange	WSDL リソースで定義されたメッセージおよび操作を使用して Web サービスを実行します。

Data Exchange アクション	説明
XML Interchange	外部 XML ドキュメントをコンポーネントの DOM に読み込んだり、外部 XML ドキュメントにコンポーネントの DOM を書き込んだりします。読み込み / 書き込みメソッドには、ファイル、FTP、HTTP、および HTTPS プロトコルを使用した Get、Put、Post、および Post with Response が含まれます。

表 4-8

Repeat アクション	説明
Break	Repeat for Element、Repeat for Group、または Repeat While ループの実行を停止し、ループ外で次のアクションの実行を続行します。
Continue	Repeat for Element、Repeat for Group、または Repeat While ループで現在のループ反復の実行を停止し、次の反復で同じループの一番上から続行します。
Declare Group	複数回発生する要素に基づいてグループを作成し、グループに名前を付けることができます。グループは、Repeat for Group アクションで使用されます。
Repeat for Element	DOM ツリーに指定した要素が発生するごとに1つまたは複数のアクションを繰り返します。Repeat for Element アクションでは、複数回発生する要素に基づき、ループを作成できます。
Repeat for Group	グループの各メンバーに対して1つまたは複数のアクションを繰り返します。Repeat For Group アクションでは、データを再作成して、データを集約計算できます。
Repeat While	ループを作成することで、1つまたは複数のアクションを繰り返します。Repeat While アクションでは、処理ループを任意の有効な ECMAScript 式に基づかせることができます。

## エラーおよびメッセージの処理

この節では、アニメーションツールの実行時に発生する可能性がある一般的なエラーについて説明します。

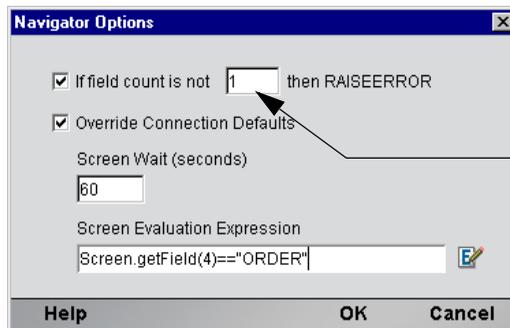
## 画面フィールド数の変更

このエラーは、特定のトランザクションのアニメーション表示または実行で発生します。このエラーを招く原因の1つに、トランザクションが1つまたは複数の画面を、ユーザからの応答（つまり、Aid キーを押す）を「必要としない」端末に送信した後に、応答を「必要とする」画面を送信する場合があります。たとえば、トランザクションには、メッセージ画面（例：“Please wait...”）を表示した後に、ユーザが実際に使用するトランザクション画面を表示するものがあります。ユーザはメッセージ画面に応答することができず、画面表示はトランザクションに制御されます。トランザクションがこのように動作する問題は、アニメーション表示中に発生します。アクションからアクションへ移行する際、Composer の Map Screen アクションにより、各画面のフィールド数がカウントされ、コンポーネントに記録されている元のフィールド数と比較されます。トランザクションは、対応する Map Screen アクションに移行する前に 2 番目の画面を送信できるため、フィールド数の同期が取れなくなります。

このエラーを修正するには、フィールド数が変更された理由を特定し、次の修正アクションのうちの1つを実行します。

- ◆ アクションモデルで、失敗した Map Screen アクションをダブルクリックし、フィールド数の変数を正しいフィールド数に変更します。

Map Screen アクションをダブルクリックし、フィールド数のチェックを無効にしたら、Map Screen アクション全体を Try On Error アクション内で折り返します。Try On Error アクション内では、例外を返すのではなく、フィールド数のエラーを条件に従って処理できます。

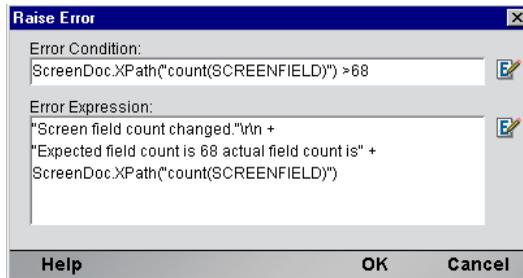


Map Screen フィールドの数をチェックするボックス

[Navigator Options] ダイアログボックスで指定できる内容は、次のとおりです。

- ◆ エラーとなる「フィールドカウント」（フィールド数）を入力します。
- ◆ 配備する前に、チェックボックスを再度オンにすることを忘れないでください。

- ◆ [override connection defaults] をオンにすると、ナビゲーションアクションの [Screen Wait] フィールドに入力した秒数に従って上書きできます。
- ◆ パケットが受信され、処理されるたびにチェックされる式を設定します。
- ◆ 画面の評価式が true の場合、次の手順 (画面フィールドのチェックを含む場合がある) にもどります。
- ◆ Map Screen フィールドの数をチェックするボックスを無効にし、フィールド数をチェックする独自のアクションを追加します。これには、アプリケーションに必要なフィールド数をチェックする Raise Error アクション (例: ScreenDoc.XPath("count(SCREEN/FIELD)")>68) を作成する方法もあります。例は次のとおりです。



フィールド数の同期が取れなくなる場合、次のような原因も考えられます。

- ◆ プリントジョブから予期しないスプーラメッセージを受信した場合。これを修正するには、アクションモデルで、不適切な Map Screen アクションを削除します。
- ◆ アプリケーションが同じ画面を異なるフィールド数で送信した場合。

## 接続に関するエラー

接続プールを使用し、不正なユーザ ID またはパスワードを使用してログオンしようとした場合、接続インスタンスは使用できなくなり、プールのメンバーは次の接続要求でスキップされます。「Logon connection in pool <Pool name> was discarded for User ID <User ID>」というエラーメッセージがサーバログに送信されます。運用前のテスト中またはパフォーマンスの問題が生じた場合、あるいはその両方で、この種のメッセージを確認する必要があります。

不正な ID またはパスワードを解決するには、いくつかの異なる手順を使用できます。

- ◆ ID とパスワードが機能しないことをシステム管理者に伝えます。システム管理者が確認した結果、ID とパスワードに問題がない場合、Connection Manager コンソールでサーバをリセットします。
- ◆ ID とパスワードに問題がある場合、接続プールから削除します。



# 5

## ログオンコンポーネント、接続、および接続プール

### 3270 端末セッションパフォーマンスについて

通常の 3270 端末コンポーネントは、exteNd Composer 内のテストワークステーションで適切に動作しますが、運用アプリケーションサーバ環境に配備すると、このコンポーネントをカプセル化するサービスの動作が負荷により遅くなる場合があります。これは、珍しいことではなく、複数のユーザをサポートするデータベースシステムで過去によく見られた問題に類似しています。この問題の原因は、一般的な端末セッショントランザクションで必要となるさまざまな手順に要した時間に通常は由来しています。トランザクション自体の実際の実行を除くと、この手順は次のようになります。

- 1 ホストへの安全な接続
- 2 ユーザを認証する
- 3 メニューシステムを移動して、トランザクションを起動できる場所を指す
- 4 トランザクション終了時に、ユーザをサインオフし、接続を切断する

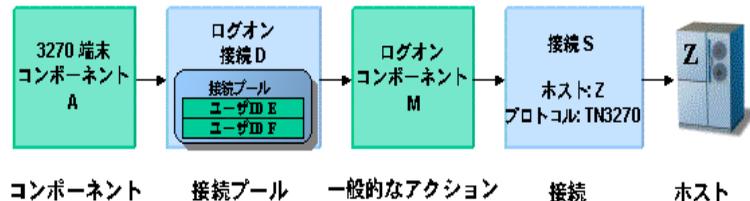
個々のトランザクションに対する負荷は小さい場合でも、多数の Web サイトやアプリケーションサーバ環境で一般的に見られるように、トランザクションの負荷が重くなると、3270 端末コンポーネントとセッションのオーバーヘッドの 1 対 1 の関係に問題が生じる場合があります。exteNd Composer では、2 つの特別なオブジェクトを用意することで、繰り返しセッションのオーバーヘッドを最小限に抑えています。これらのオブジェクトは、3270 ログオン接続と呼ばれる特別な接続リソースタイプと、3270 ログオンコンポーネントです。

## 接続プールアーキテクチャ

3270 端末 Connect をインストールすると、TN3270 接続、EPI 3270 接続、および 3270 ログオン接続 (これ以降、ログオン接続と呼びます) という 3 種類の接続リソースが接続の作成ウィザードに追加されます。TN3270 と EPI 接続とは、実際の接続で、3270 端末コンポーネントでの使用時にホストシステムとのセッションを確立できます。



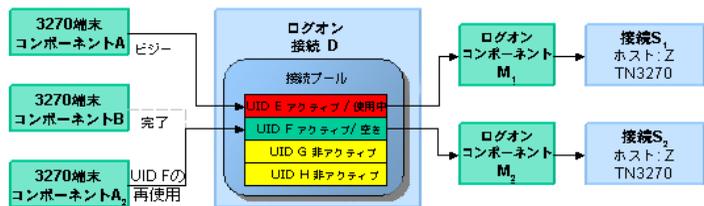
逆に、ログオン接続は異なり、使用可能なユーザ ID のプールを定義し、3270 ログオンコンポーネント (これ以降、ログオンコンポーネントと呼びます) を使用し、個々のユーザ ID に対して接続とナビゲーションに関連するアクションを実行します。実際には、ログオンコンポーネントにより、TN3270 接続または EPI 接続を使用して接続が確立されます。ログオンコンポーネントについては、後に説明しますが、接続プールを確立するには、ログオン接続とログオンコンポーネントを同時に使用する必要があることに注意してください。



通常、3270 端末コンポーネントにより、単一のユーザ ID とパスワードを使用して定義した接続がアクティブになると、その接続のユーザ ID は、同じ接続定義を使用するコンポーネントの別のインスタンス、または別のコンポーネントでは使用できなくなります。



ログオン接続では、追加のユーザ ID を作成して新しい接続を確立することで、他のコンポーネントが終了するまでのシリアル待機時間を減らし、さらに可能な場合は接続を再使用してセッションのオーバーヘッドを回避することで、パフォーマンス上の利点が提供されます。

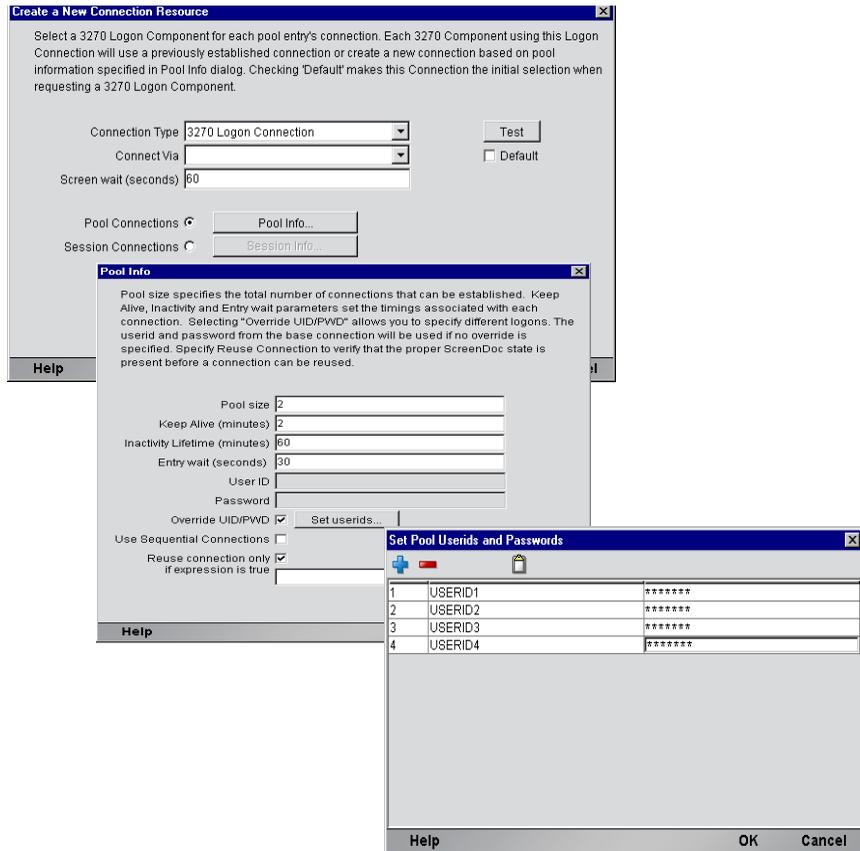


前の図では、アクティブな 3270 端末コンポーネントには、それぞれ独自のユーザ ID、ログオンコンポーネントの独自のインスタンス、および接続リソースの独自のインスタンスがあります。また、同じ接続リソースを使用し、シリアルログオンのオーバーヘッドを繰り返し引き起こす、複数の 3270 端末コンポーネントを実行すると、単一のログオン接続により提供されたユーザ ID / ログオンコンポーネント / 接続インスタンスを代わりに再使用できます。さらに、設計時には、ユーザは 1 つのログオン接続オブジェクト、1 つのログオンコンポーネントオブジェクト、および 1 つの接続オブジェクトのみを作成しています。ログオン接続では、ランタイム時に各ユーザ ID に対して個々のインスタンスを作成します。

ログオン接続、ログオンコンポーネント、および接続の組み合わせは、接続プール要素を構成するものです。追加の接続プールを定義して配備する必要があるかどうかを決定する際の重要な要素として、1 つまたは複数の 3270 端末コンポーネントでログオンコンポーネントの異なる起動画面を使用する必要が生じた場合が挙げられます。接続プールを使用して効率性とパフォーマンスを向上させるために重要なのは、3270 端末コンポーネント、ログオン接続、およびログオンコンポーネントで起動画面が適切に管理されていることを確認することです。

## 3270 ログオン接続について

ログオン接続は、TN3270 接続リソースのような実際の接続オブジェクトではなく、ユーザ ID に関連付けられたさまざまな接続管理パラメータを持つユーザ ID のプールです。重要なパラメータの 1 つは、初期ログオンタスクと起動画面へのメニューナビゲーションを行うユーザ ID すべてに対して同じログオンコンポーネントの異なるインスタンスを使用することです。



ログオン接続では、ログオンコンポーネントの指定に加えて、次のユーザ ID プール機能が提供されます。

- 1 ユーザ ID が必要となった場合に、クライアントが安全に接続できるよう事前に複数のユーザ ID の仕様を許可する。
- 2 ユーザ ID/接続が確立されたら、ユーザ ID/接続の再使用を許可してユーザ認証と接続の切断が繰り返し行われないようにする。

- 3 ホストシステムによりサポートされている場合、単一のユーザ ID で複数の接続の使用を許可する。
- 4 接続がアクティブでない間にホストがタイムアウトにならないよう、接続をアクティブ状態に保つ。
- 5 アクティブなプールから接続を削除する時間を指定する。
- 6 完全にアクティブなプールによって空き接続が提供されるまで待機するタイムアウト時間を設定する。
- 7 ログオン接続で使用するログオンコンポーネントの状態に依存するエラーの処理を指定する。

3270 端末コンポーネントからの複数のインスタンス、または異なる 3270 端末コンポーネントで、同じログオン接続を使用するには、次の条件を満たす必要があります。

- 1 すべての 3270 端末コンポーネントでは、同じ接続リソースを使用する(その結果、TN3270 ホスト、ポート、データエンコードパラメータ、または EPI 3270 接続ゲートウェイ / サーバパラメータを共有する) 必要があります。
- 2 すべての 3270 端末コンポーネントには、ホストシステム内にコンポーネントの実行開始場所となる共通の起動画面が必要です(詳細については、「3270 ログオンコンポーネントについて」を参照してください)。

## シングルサインオンを使用した接続プール

ホストシステムのセキュリティで、単一のユーザ ID からの複数のログインをサポートしている場合、この単一のユーザ ID をプールするような状況が生じる可能性があります。これを実現するには、次の手順に従います。

- ◆ ログオンコンポーネントで使用する接続リソースでユーザ ID/ パスワードを指定します。
- ◆ ログオン接続の [Pool Info] ダイアログボックスで、[Pool Size] に 1 より大きい値を指定します。
- ◆ ログオン接続の [Pool Info] ダイアログボックスで、[Override the UID/PWD] 設定をオフのままにします。

これらの手順を実行すると、各プールスロットで、接続オブジェクトに含まれるユーザ ID とパスワードが使用され、プールからのユーザ ID は使用されません。

## 3270 ログオンコンポーネントについて

ログオンコンポーネントは、複数の 3270 端末コンポーネントで使用する接続を管理できるようにアクションモデルが設計されている特別なコンポーネントです。ログオンコンポーネントは、2つの主な違いを除き、3270 端末コンポーネントとほぼ同じです。

- 1 ログオンコンポーネントのアクションモデルは、Logon アクション、KeepAlive アクション、および Logoff アクションという接続タスクにより編成、実行されます。
- 2 ログオンコンポーネントは、別のコンポーネントやサービスによっては実行されず、ログオン接続によって実行されます。
- 3 ログオンコンポーネントは、ログオン接続と組み合わせて使用する必要があり、また組み合わせてのみ使用できます。



ログオンコンポーネントの接続タスクをログオン接続と組み合わせて使用すると、パフォーマンスにおいてさらに3つの利点があります。

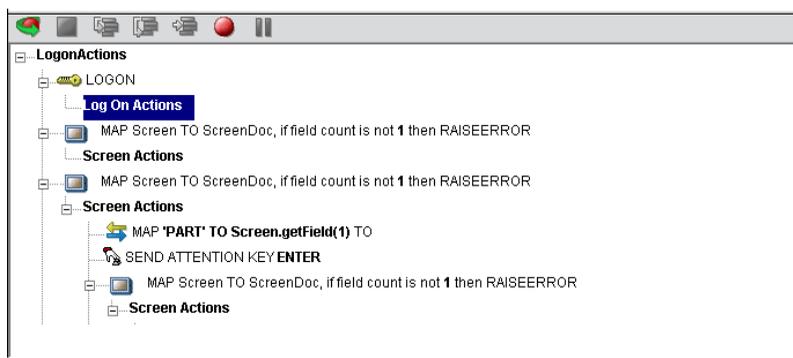
- ◆ LOGON アクションは、ホスト環境内を移動し、ホストシステムの希望の「**起動画面**」で停止します。接続は、プールからの特定のユーザ ID を使用してアクティブにされます。その後、接続を再使用する 3270 端末コンポーネントでは、コンポーネントが起動画面にすでに存在し、新しいセッションを使用した場合と同様に起動画面に移動する際のオーバーヘッドが発生しないため、パフォーマンス上の利点が得られます。
- ◆ KEEPALIVE アクションは、ホストが標準のタイムアウト時間内に使用されない場合に接続を切断しないようにし、Logon アクションと同じ起動画面で接続された状態にします。
- ◆ LOGOFF アクションは、接続の終了時に、プールからのユーザ ID によって確立された接続すべてに対して、指定した方法でホスト環境を終了します。

**注記：** LOGON、KEEPALIVE、または LOGOFF アクションの最後のアクションは、アニメーション中には実行されなくても、ログオンコンポーネントがログオン接続コンポーネントとして使用される場合には実行される空の「有効な」ナビゲーションアクションである必要があります。この最後のアクションをユーザが無効にした場合、アニメーションは、実行される 2 つの連続した空のナビゲーションアクションのために正しく機能しません。たとえば、LOGON のアクションと KEEPALIVE の最初のアクションが無効な場合は、エラーが発生します。

## LOGON アクション

LOGON グループに配置するアクションは、主にホストのセキュリティ画面にサインインしてから、ホストのメニューシステム内を通して起動画面に移動することに関連しています。この起動画面では、各 3270 端末コンポーネントのアクションモデルが開始します。ログオンコンポーネントを使用する 3270 端末コンポーネントでは、共通の画面で実行を開始できなければなりません。それ以外の場合は、移動のオーバーヘッドを回避することでパフォーマンスは向上されず、さらに重要な点として、不適切な 3270 端末コンポーネントが動作しなくなります。

Logon アクションは、ログオン接続を使用しない 3270 端末コンポーネントと同様の方法で作成されます。記録機能を使用し必要なアクションを作成して、ユーザ ID やパスワードなどのサインオン情報と、起動画面に表示する初期メニューの選択項目を入力します。その他の留意点として、ログオン接続プールからユーザ ID とパスワードを使用することが重要です。そのためには、USERID と PASSWORD と呼ばれる 2 つの特別なシステム変数を、画面上の適切なフィールドにマップする必要があります。この 2 つの変数を使用して、exteNd Composer では次のアクティブな空きプールスロットから値を自動的にマップします。



起動画面は、ログオン接続で提供されたユーザ ID プールを使用した 3270 端末コンポーネントすべてに対する共通の実行ポイントとなる必要があります。起動画面に達するには、通常の 3270 端末コンポーネントでアクションを作成する場合と同じ方法でアクションを作成します。ログオンコンポーネントでは、LOGON アクションは、新しい接続が確立された際に一度だけ実行されます。

## ログオンコンポーネントを使用したパフォーマンスの最大化

Logon アクションは、適切な構造でなければならず、前の画面に示すように常に Map Screen アクションで開始および終了する必要があります。最後の Map Screen アクションでは、画面が接続に達する前に 3270 コンポーネントに制御が移らないよう保証されます。それ以外の場合は、3270 コンポーネントが無効な画面で開始して例外がスローされ、おそらく操作が無効になります。Map Screen では、アクションを含める必要はありませんが、3270 コンポーネントから制御が途中で渡されるのを防ぐことは重要です。また、最初の記録セッション中にキャプチャしたものと同一画面であるかどうかを確認するために、画面が到着するとフィールドカウントチェックを実行します。

**注記：**最後の Map Screen をスキップするログオンコンポーネントをアニメーション表示している場合、これは通常の動作です。運用環境におけるログオンコンポーネントのアクションは、3270 端末コンポーネントでは常にインタリーブ方法で実行されます。最初から最後までログオンコンポーネントをアニメーション表示すると、イベントの異常なシーケンスが実際には作成されます。この結果、2 つの Map Screen が連続して処理されますが、このことは許可されていません。

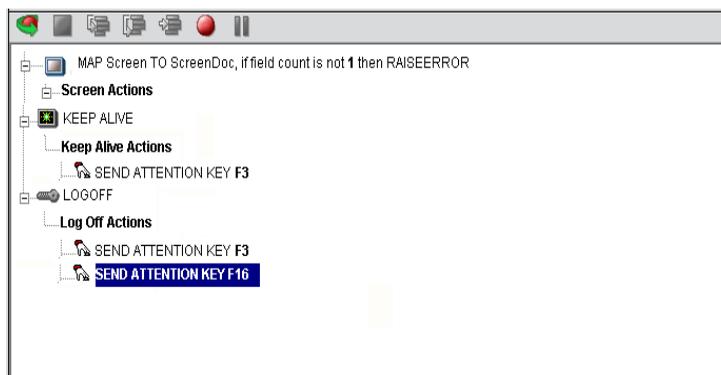


3つのエントリのユーザ ID プールが完全に使用され、コンポーネントの実行時に 15 回再使用された場合、目的のトランザクションを実行するメニュー項目に移動する際のオーバーヘッドは、3 回だけ発生することになります。同様に、新しい接続がアクティブになった場合（再使用された場合ではなく）には、LOGON アクションが 1 回だけ実行されるため、ホストへのログオンは 3 回だけになります。

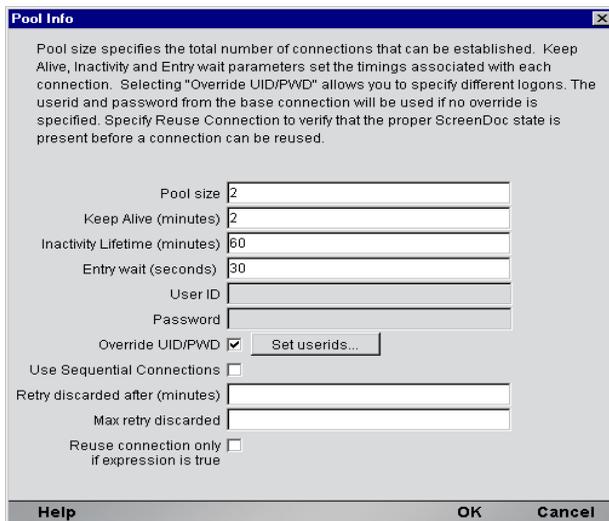
**注記：**可能な場合は、Try/On Error アクションを使用して、回復可能であると思われる潜在的なログオンエラーをトラップします。それ以外の場合は、失敗したログオンを確立しようとするユーザ ID がプールから破棄されるため、3270 の exteNd Composer Enterprise Server Console で破棄された接続を手動でリセットするまで、プールサイズは小さくなる可能性があります。詳細については、この章の「プールの管理」を参照してください。

## KEEPALIVE アクション

KEEPALIVE 見出しは、アクティビティを作成し、ログオンコンポーネントで使用する接続で発生し続けるホストと通信するアクションを配置する場所です。KEEPALIVE アクションでは、<ENTER> キーなどの AID キーのホストへの送信が通常は行われます。ただし、AID キーの送信後に画面が起動画面とは異なる画面に変わった場合、KEEPALIVE セクションでログオンコンポーネントを起動画面に戻す必要があります。起動画面に戻さなかった場合は、次のコンポーネントが不正な画面で表示され、エラーが発生します。



ログオン接続の [Pool Info] ダイアログボックスでは、KEEPALIVE アクションを実行する頻度を制御します。ログオン接続プールで、空き接続を 2 分間アクティブに維持するが、アクティビティから 1 分後にホストにより接続が切断されるように指定した場合、キーボードアクションを指定して (例: <ENTER> キーを送信する)、接続がアクティブであることをホストに通知できます。

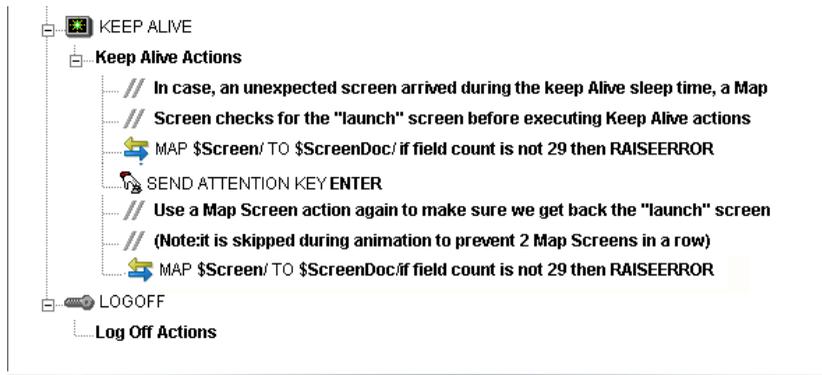


KEEPALIVE アクションは、ログオン接続の [Pool Info] ダイアログボックスで定義した KeepAlive の期間後に、複数回実行できます。

**注記：** KeepAlive アクションを実行しても、ログオン接続で非活動ライフタイムクロックはリセットされません。非活動ライフタイムクロックがリセットされるのは、3270 端末コンポーネントを実行した場合のみです。

## KeepAlive アクションを使用したパフォーマンスの最大化

Map Screen アクションは、Keep Alive セクションの開始時と終了時にも処理されなければなりません。Keep Alive セクションでは、接続が切断されないようにするだけでなく、実行完了時に起動画面が存在するようにする必要があります。最初の Map Screen では、接続が使用可能でも使用されていない間に、ホストから予期しない画面が届いていないことが確認されます。そして再び最後の Map Screen では、KeepAlive アクションの実行後、途中で次の 3270 コンポーネントに接続が解放されないようにします (次の画面を参照)。



## LOGOFF アクション

基本的に、Logoff アクションは、ユーザ ID を適切にホストシステム外に移動させます。Logoff アクションは、接続がタイムアウトになった場合（つまり、非活動ライフタイムの期限が切れた場合）、または接続が 3270 サーバコンソールを介して切断された場合に、1 つの接続に対して一度だけ実行されます。

### LOGOFF アクションのパフォーマンスの最大化

Logoff アクションは、安定していなければなりません。Logoff アクションの実行中に例外が発生した場合、exteNd Composer ではホストとの接続が切断され、ユーザ ID がプールで解放されます。ただし、ユーザ ID はホストでアクティブのままになる可能性があります。停止状態が続いたためにホストでユーザ ID が停止されるまで、プールではそのユーザ ID に今後ログオンしようとしても、ログオンをコード化してこの状況に対処しない限り、失敗する可能性があります。ログオンに失敗すると、プールからユーザ ID が破棄され、プールサイズと全体的なパフォーマンスが低減する可能性があります。Logon アクションと KeepAlive アクションに関しては、ログオフの終了時に適切な画面となるよう保証する方法は、Map Screen で終了することです。

## ログオンコンポーネントの実行

ユーザ ID がログオン接続プールからアクティブにされるたびに、ログオンコンポーネントのインスタンスが作成され、そのユーザ ID に関連付けられます。その後、目的の起動画面に達するまで、Logon アクションが実行されます。この時点で、3270 端末コンポーネントの実行が開始します。実行が終了すると、同じログオン接続を使用する別の 3270 端末コンポーネントの実行が同じ起動画面から開始します。

別のコンポーネントの実行が開始しない場合、接続は、ログオン接続の [Pool Info] ダイアログボックスの [Inactivity Lifetime] と [KeepAlive] の設定で定義したアクティブでも空き状態になります。KeepAlive の期間 (例: 2 分) が非活動ライフタイム (例: 120 分) より短い場合は、ホストがタイムアウトして接続が切断されないように、KeepAlive アクションが KeepAlive 期間の終了時に実行され、KeepAlive 期間が最初から開始します。非活動期間と KeepAlive 期間は、ログオン接続の [Pool Info] ダイアログボックスで定義されます。

ログオンコンポーネントの実行ライフタイムは、ログオンコンポーネントを使用するログオン接続のアクティビティに応じて異なります。ログオン接続プールで 1 つのエントリがアクティブの場合は、ログオンコンポーネントの 1 つのインスタンスが、ライブな状態でメモリ内に存在します。非アクティブな状態が続いたために、残っている最後のプールエントリの期限が切れた場合、ログオンコンポーネントの実行は中止されます。ログオンコンポーネントの実行を停止する他の唯一の方法は、サーバの 3270 コンソールを使用することです。

## 接続プールの作成

### 概要

3270 端末コンポーネントを作成する場合は、最初に必要な接続オブジェクトを作成しなければなりません。同様に、接続プールを構成するオブジェクトを作成する場合は、最初に必要なオブジェクトを作成しなければなりません。これは、ホストで開始し、ホストにアクセスする 3270 端末コンポーネントに戻ることを意味します。接続プールを作成する標準的な手順は、次のとおりです。

- ◆ ホスト接続を作成する。
- ◆ 接続を使用するログオンコンポーネントを作成する。
- ◆ ログオンコンポーネントを使用するログオン接続を作成する。
- ◆ ログオン接続を使用する 1 つまたは複数の 3270 端末コンポーネントを作成する。

## 接続の作成

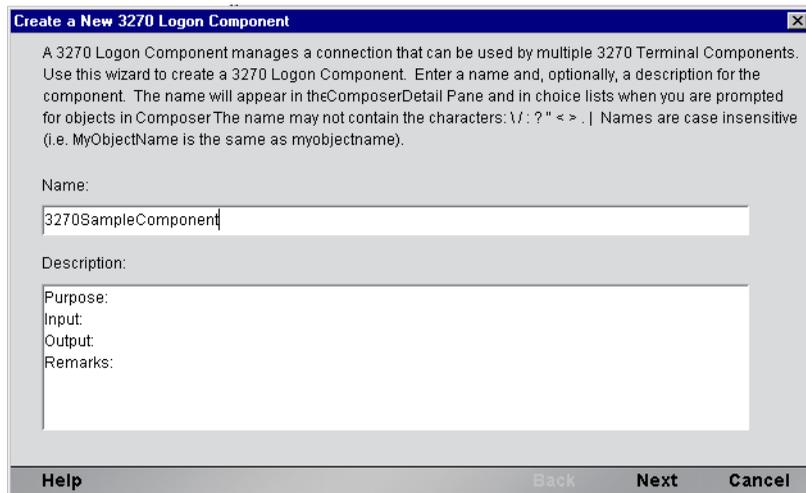
この手順は簡単です。このガイドの第 2 章での説明に従って新しい接続リソースを作成します。ログオン接続で後に定義されたユーザ ID とパスワードを使用する場合でも、接続で同様にユーザ ID とパスワードを定義する必要があります。この操作は、次の手順でログオンコンポーネントを定義する場合に必要となります。他の方法としては、単に既存の接続リソースを使用することもできます。

# ログオンコンポーネントの作成

## ➤ 3270 ログオンコンポーネントを作成する

- 1 Composer の [File] メニューから、[New xObject]、[Component]、[3270 Logon] の順に選択します。

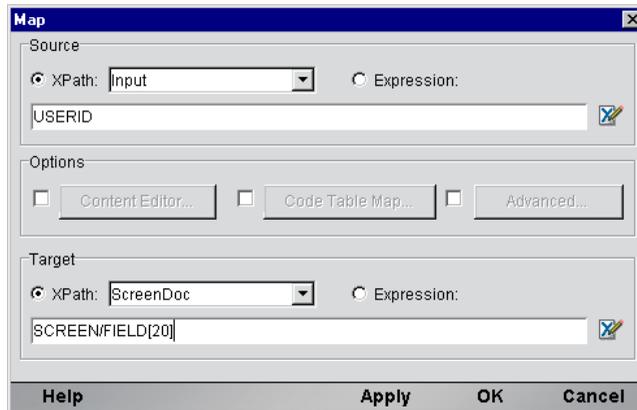
New xObject Wizard のヘッダ情報パネルが表示されます。



- 2 接続オブジェクトの「名前」を入力します。
- 3 オプションとして、「説明」のテキストを入力します。
- 4 [Next] をクリックすると、「接続情報」パネルが表示されます。
- 5 ドロップダウンリストで接続を選択します。
- 6 [Finish] をクリックすると、ログオンコンポーネントエディタが表示されます。

**注記：** アクションを記録するには、次の手順に従います。「LOGON」上にカーソルを合わせてから、記録をオンにします。完了したら、記録をオフにします。「KEEPALIVE」にカーソルを合わせてから、記録をオンにします。完了したら、記録をオフにします。「LOGOFF」にカーソルを合わせてから、記録をオンにします。完了したら、記録をオフにします。

- 7 このガイドの第 4 章で説明されている記録方法と同じ方法でホストにログインして、起動画面に移動するために、LOGON アクションを記録します。
- 8 このガイドの第 4 章の「3270 専用の Expression Builder 拡張」という節で説明されている特別な USERID 変数と PASSWORD 変数を代わりに使用するよう、ユーザ ID とパスワードを入力する LOGON Map アクションを編集します。



- 9 アクションモデルの KEEPALIVE セクションで、必要な SEND Key アクションを作成します ( 簡単な方法としては、既存の SEND key アクションをコピーして、貼り付けてから、送信されたキーコードを修正します )。
- 10 ホストを適切に終了するために、LOGOFF アクションを記録します。
- 11 ログオンコンポーネントを保存して、閉じます。

# プール接続を使用したログオン接続の作成

## ➤ 3270 ログオン接続を作成する

- 1 Composer の **[File]** メニューから、**[New xObject]**、**[Resource]**、**[Connection]** の順に選択するか、またはアイコンをクリックします。New xObject Wizard のヘッダ情報パネルが表示されます。

**Create a New Connection Resource**

A Connection resource is used to establish communications with an Connector data source or with a server using HTTP authentication. You need to create connections for each type of data source or each HTTP server you wish to communicate with. Enter a name and, optionally, a description for this Connection. The name will appear in the Composer Detail Pane and in choice lists when you are prompted for objects in Composer. The name may not contain the characters: \ : ? " < > . | Names are case insensitive.

Name:  
Untitled

Description:  
Purpose:  
Input:  
Output:  
Remarks:

Help Back Next Cancel

- 2 接続オブジェクトの「名前」を入力します。
- 3 オプションとして、「説明」のテキストを入力します。
- 4 **[Next]** をクリックすると、「接続情報」パネルが表示されます。

**Create a New Connection Resource**

Select a 3270 Logon Component for each pool entry's connection. Each 3270 Component using this Logon Connection will use a previously established connection or create a new connection based on pool information specified in Pool Info dialog. Checking 'Default' makes this Connection the initial selection when requesting a 3270 Logon Component.

Connection Type: 3270 Logon Connection Test

Connect Via: [Dropdown]  Default

Screen wait (seconds): 60

Pool Connections  Pool Info...

Session Connections  Session Info...

Help Back Finish Cancel

- 5 [Connection Type] に対して、ドロップダウンリストから [3270 Logon Connection] を選択します。
- 6 [Connect Via] コントロールで、作成したログオンコンポーネントを選択します。
- 7 [Pool Info] ボタンをクリックすると、[Pool Info] ダイアログボックスが表示されます。

Pool size specifies the total number of connections that can be established. Keep Alive, Inactivity and Entry wait parameters set the timings associated with each connection. Selecting "Override UID/PWD" allows you to specify different logons. The userid and password from the base connection will be used if no override is specified. Specify Reuse Connection to verify that the proper ScreenDoc state is present before a connection can be reused.

Pool size: 2

Keep Alive (minutes): 5

Inactivity Lifetime (minutes): 60

Entry wait (seconds): 30

User ID: TESTER

Password: \*\*\*\*\*

Override UID/PWD:  [Set userids...](#)

Use Sequential Connections:

Retry discarded after (minutes): 1 [E](#)

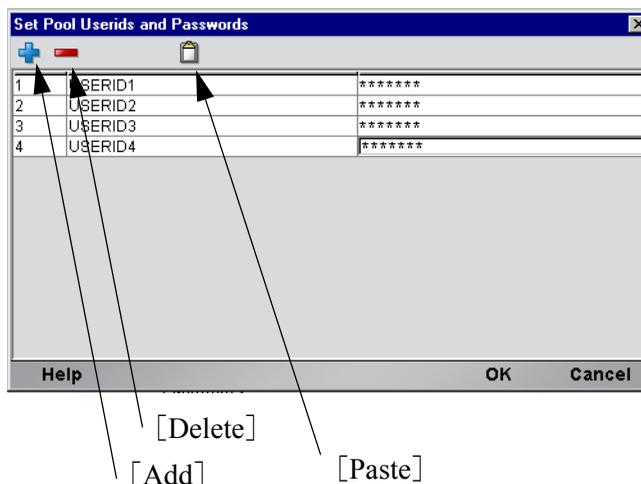
Max retry discarded: 3 [E](#)

Reuse connection only if expression is true:  `oc.XPath("SCREENFIELD[7]") != "10051"` [E](#)

Buttons: Help, OK, Cancel

- 8 [Pool Size] に数値を入力します。これは、このプールで使用できるようにする接続の総数を表します。各接続に対して、後にユーザ ID とパスワードの組み合わせを指定する必要があります。
- 9 [KeepAlive] に期間を入力します。この数値 (分単位) は、接続がアクティブであっても空き状態の場合に (つまり、3270 端末コンポーネントで使用されていない)、関連付けられているログオンコンポーネントで KEEPALIVE アクションを実行する頻度を表します。ここで入力する数値は、アクティブでない接続に対してホストで定義されたタイムアウト期間の値よりも小さくする必要があります。

- 10** [Inactivity Lifetime] に値を入力します。この数値は、接続を切断してから接続プールの非アクティブな部分に戻すまでに、アクティブな空き接続を使用可能な状態で維持する期間を分単位で表します。接続がプールで非アクティブな状態に戻されてから再びアクティブにされると、ログインしてホスト画面に移動する際にオーバーヘッドが発生することに注意してください。
- 11** [Entry Wait] に時間を秒単位で入力します。この時間は、すべてのプールエントリがアクティブで使用されている場合に、3270 端末コンポーネントが空き接続に対して待機する時間を表します。この時間に達すると、アプリケーションサーバに例外がスローされます。
- 12** [Override UID/PWD] をオンにすると、接続プールで使用するユーザ ID/パスワードの組み合わせを指定できます。このチェックボックスがオンの場合、[Set USERID] ボタンがアクティブになります。このボタンをクリックすると、[Set USERIDs and PASSWORDS] ダイアログボックスが表示されます。



ツールバーには、空白の行を追加する [Add]、選択した行を削除する [Delete]、およびスプレッドシートの情報をコピーして表に貼り付ける [Paste] の 3 つのアイコンがあります。詳細については、次の注記を参照してください。

**注記：** データをより迅速に入力する別の方法は、スプレッドシートからデータをコピーして、表に貼り付けることです。その場合、2 列が選択されていることを確認してください。最初の列にはユーザ ID が含まれており、2 番目の列にはパスワードが含まれている必要があります。スプレッドシートを開き、この 2 列と必要な数の行をコピーします。表を開いたら、ツールバーにある [Paste] アイコンをただちに押します。同じ方法で、Microsoft Word® ドキュメントの表からデータをコピーすることもできます。

- 13** 指定したプールサイズに達するまで、必要な数の「**ユーザ ID/パスワード**」の組み合わせを入力し、[OK] をクリックします ( 指定したサイズを超えた場合、プールサイズは自動的に新しいサイズに調整されます)。
- 14** 連続的な接続を使用する場合は、[**Use Sequential Connections**] チェックボックスをオンにします。接続は、1、2、3 のように、番号順で作成されます。
- 15** 破棄された接続の使用を試行する ( プールに追加し直す ) 分数を、[**Retry discarded after**] フィールドに数値を入力することによって指定します。
- 16** 破棄された接続の使用を試行する ( プールに追加し直す ) 最大回数を、[**Max retry discarded**] フィールドに数値を入力することによって指定します。
- 17** オプションとして、[**Reuse Connection Only if expression is true**] コントロールをオンにできます。このコントロールでは、新しい 3270 コンポーネントでアクティブな空き接続を再使用するたびに、起動画面が存在することを確認する式を入力できます。Composer サービスに関連していない状況では、起動画面がホストによって別の画面で置き換えられる可能性があります。たとえば、システム ABEND がホストに存在する場合、ログオンコンポーネントの起動画面はシステムメッセージ画面によって置き換えられることがあります。この式の作成方法の詳細については、このガイドの第 2 章の「システムメッセージの処理」という節を参照してください。この章の「3270 ログオン接続のパフォーマンスの最大化」も参照してください。

**注記：** 特定の画面が存在するかどうかを確認する場合に使用するサンプルカスタムスクリプトは、次のとおりです。画面が存在しない場合、スクリプトにより、不正な画面のためログオン接続が解放されることを示すメッセージがコンソールに記述されます。この関数は、[Pool Info] ダイアログボックスの [Reuse connect only if expression is true] コントロールから呼び出されます。

```
function checkValidLaunchScreen(ScreenDoc)
{
    var screenText = ScreenDoc.XPath("SCREEN").item(0).text
    if((screenText.indexOf("MENU") != -1 || screenText.indexOf("APLS") != -1) &&
        (screenText.indexOf("COMMAND UNRECOGNIZED") == -1 ||
         screenText.indexOf("UNSUPPORTED FUNCTION") == -1))
    {
        return true;
    }
    else
    {
        java.lang.System.out.println("Warning - Releasing logon connection at bad screen");
        java.lang.System.err.println("Warning - Releasing logon connection at bad screen");
        return false;
    }
}
```

- 18** [OK] をクリックして、接続情報パネルに戻ります。
- 19** [Finish] をクリックすると、ログオン接続が保存されます。

## 3270 ログオン接続のパフォーマンスの最大化

3270 コンポーネントが前の 3270 コンポーネントによって無効な画面に残された可能性のある接続で実行を開始しないようにするために、ログオン接続リソースでは、接続自体で起動画面が存在することを確認できます。これを実現するには、ログオン接続の [Pool Info] ダイアログボックスの [Reuse connection only if expression is true] オプションを使用します。ここで指定した画面テストは、3270 コンポーネントの実行が完了するたび行われます。テストに失敗した場合、exteNd Composer はただちにホストから切断し、その時点まで使用していたユーザ ID はホストに残される可能性があります。前に説明したように、ホストではこのユーザが最終的には停止されますが、ユーザが停止される前にもう一度ユーザ ID にアクセスした場合は、ユーザ ID がプールから破棄される可能性があります。したがって、プールサイズが小さくなり、その結果全体的なパフォーマンスも下がります。

[Reuse connection only if true] オプションを使用する別の理由は、このオプションでは画面に対して詳細なテストを実行して、正しい起動画面であるかどうかを確認できるためです。Map Screen アクションでは、画面の確認を実行しますが、端末データストリーム内のフィールド数のみが参照されます。大抵の場合は、これで十分ですが、異なる 2 つの画面にあるフィールドの数が同じ場合は、画面のコンテンツを検査する式ベースのテストを使用すると、さらに厳密な結果が得られます。そのため、この機能を常に使用することが推奨されます。

### 動的に作成したドキュメント / 要素と静的に作成したドキュメント / 要素の違い

一部の Composer アプリケーションでは、ユーザが各種のコントロール、監査、またはメタデータ、あるいはこれらすべてを XML ドキュメントに配置しなければならない場合があります。このドキュメントは、処理中の (つまり、情報ソースから作成された) 実際の要素 / ドキュメントの追加となる場合もあれば、そうではない場合もあります。このドキュメントの構造およびデータが複数 (100 以上) の Map アクションにより動的に作成された場合、コンポーネントのパフォーマンスおよびサービス全体に障害が発生する可能性があります。パフォーマンスを向上するには、事前に動的なコンテンツのないドキュメント構造の一部を作成します。その後、そのドキュメント構造を XML Interchange アクションを使用してランタイム時にサービスにロードし、動的な内容に対して Map アクションを保持します。この結果、場合によってはパフォーマンスが 30% ほども向上することがあります。

# セッション接続を使用したログオン接続の作成

## ➤ 3270 ログオン接続を作成する

- 1 Composer の **[File]** メニューから、**[New xObject]**、**[Resource]**、**[Connection]** の順に選択するか、またはアイコンをクリックします。New xObject Wizard のヘッダ情報パネルが表示されます。

**Create a New Connection Resource**

A Connection resource is used to establish communications with an Connector data source or with a server using HTTP authentication. You need to create connections for each type of data source or each HTTP server you wish to communicate with. Enter a name and, optionally, a description for this Connection. The name will appear in the Composer Detail Pane and in choice lists when you are prompted for objects in Composer. The name may not contain the characters: \ : ? " < > . | Names are case insensitive.

Name:  
3270Sample

Description:  
Purpose:  
Input:  
Output:  
Remarks:

Help Back Next Cancel

- 2 接続オブジェクトの「名前」を入力します。
- 3 オプションとして、「説明」のテキストを入力します。
- 4 **[Next]** をクリックすると、「**接続情報**」パネルが表示されます。

**Create a New Connection Resource**

Select a 3270 Logon Component for each pool entry's connection. Each 3270 Component using this Logon Connection will use a previously established connection or create a new connection based on pool information specified in Pool Info dialog. Checking 'Default' makes this Connection the initial selection when requesting a 3270 Logon Component.

Connection Type: 3270 Logon Connection

Connect Via:

Screen wait (seconds): 60

Test

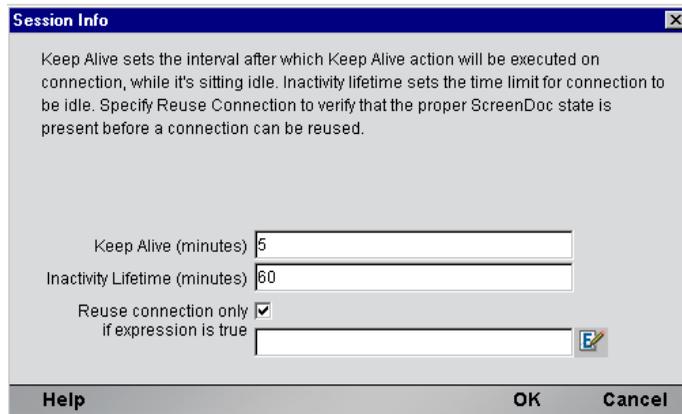
Default

Pool Connections:  Pool Info...

Session Connections:  Session Info...

Help Back Finish Cancel

- 5 [Connection Type] に対して、ドロップダウンリストから [3270 Logon Connection] を選択します。
- 6 [Connect Via] コントロールで、作成したログオンコンポーネントを選択します。
- 7 [Screen wait (seconds)] フィールドには、Map アクションペインに次の画面が到着するまで 3270 端末コンポーネントで待機する時間が秒単位で表示されます。
- 8 [Session Connections] ラジオボタン、[Session Info] ボタンの順にクリックします。



- 9 [Keep Alive (minutes)] の数値(分単位)は、接続がアクティブであっても空き状態の場合に (つまり、3270 端末コンポーネントで使用されていない)、関連付けられているログオンコンポーネントでKEEPALIVEアクションを実行する頻度を表します。ここで入力する数値は、アクティブでない接続に対してホストで定義されたタイムアウト期間の値よりも小さくする必要があります。
- 10 [Inactivity Lifetime (minutes)] の数値は、接続を切断してから接続プールの非アクティブな部分に戻すまでに、アクティブな空き接続を使用可能な状態で維持する期間を分単位で表します。接続がプールで非アクティブな状態に戻されてから再びアクティブにされると、ログインしてホスト画面に移動する際にオーバーヘッドが発生することに注意してください。
- 11 式が true のときにだけ接続を再使用する場合は、[Reuse connection only if expression is true] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、[Expression] フィールドが自動的に表示され、式アイコンをクリックして「if the expression is true」のダイアログボックスを開くことができます。

## 3270 端末コンポーネントの作成

これで、接続プールを使用できる 3270 ログオンコンポーネントを作成する準備ができました。ほとんどの場合、通常の 3270 端末コンポーネントの場合と同じようにコンポーネントを作成でき、唯一の違いは、New xObject Wizard で指定する接続となります。

### ➤ 3270 端末コンポーネントを作成する

- 1 Composer の [File] メニューから、[New xObject]、[Component]、[3270 Terminal] の順に選択します。New xObject Wizard のヘッダ情報パネルが表示されます。

Create a New 3270 Terminal Component

A 3270 Terminal Component connects to an application, processes the data using elements from a DOM, and maps the results to an output DOM. Use this wizard to create a 3270 Terminal Component. Enter a name and description for the component. The name will appear in the ComposerDetail Pane and in choice lists when you are prompted for objects in Composer. The name may not contain the characters: \/:? "< > . | Names are case insensitive (i.e. MyObject is the same as myobject).

Name:  
3270Sample

Description:  
Purpose:  
Input:  
Output:  
Remarks:

Help Back Next Cancel

- 2 コンポーネントの「名前」を入力します。
- 3 オプションとして、「説明」のテキストを入力します。
- 4 [Next] をクリックすると、XML プロパティ情報パネルが表示されます。
- 5 必要な入力テンプレートと出力テンプレートを選択して [Next] をクリックすると、接続情報パネルが表示されます。
- 6 作成したログオン接続を選択して [Next] をクリックすると、コンポーネントエディタが表示されます。
- 7 このガイドの第 3 章の手順に従って、コンポーネントを作成します。

## 3270 端末コンポーネントのパフォーマンスの最大化

ログオンコンポーネントの Logon アクションによって起動画面に達すると、この起動画面は接続を使用する 3270 端末コンポーネントに渡されます。その後、( 実行終了時に ) 3270 端末コンポーネントによって、画面ハンドラは起動画面に残されたままの状態になります。3270 コンポーネントが起動画面に達することなく終了した場合 ( つまり、不正な画面でプールに接続が解放された場合 )、その接続を使用する後続の 3270 コンポーネントすべてによって例外がスローされ、接続が使用できなくなる可能性があります。また、全体的なパフォーマンスが低下したり、コンポーネントの処理内でデータの整合性に問題が生じる可能性もあります。

このためにも、起動画面が存在し、3270 コンポーネントで実行する最後のアクションが起動画面を確認する Map Screen になるようにします。コンポーネントの実行を独立して終了する可能性のある決定パスがコンポーネントに多数ある場合は注意が必要です。このような場合は、パスがそれぞれ Map Screen アクションで終了するようにします。

## プールの管理

接続プールは、3270 コンソール画面を使用して管理できます。

### ➤ コンソールへのアクセス方法

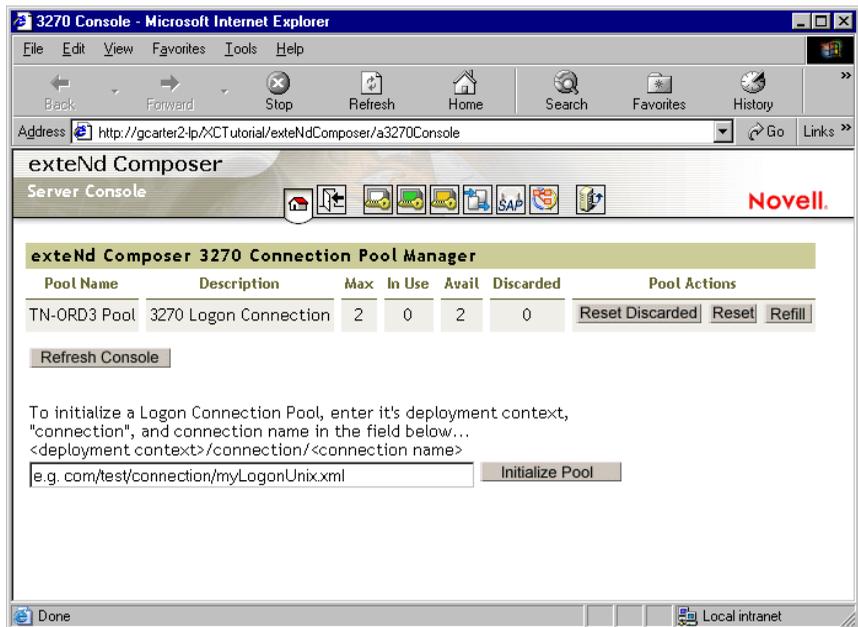
- 1 Web ブラウザから <http://localhost/SilverMaster35> にアクセスし、サーバにログオンします。この例では、Novell exteNd Composer Server が使用されています。



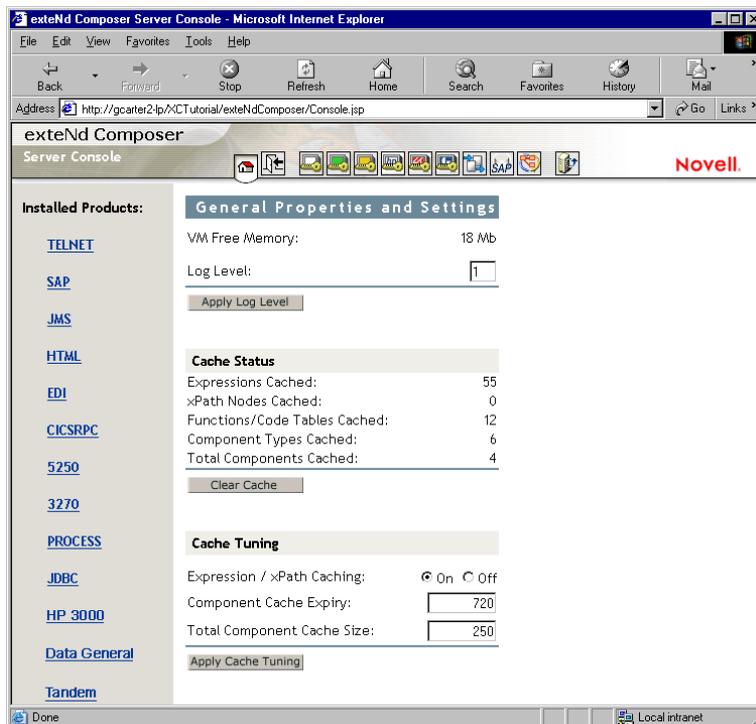
- 2 [exteNd Composer] をクリックすると、インストール済みのコネクタのリストが表示されます。



- 3 [3270] をクリックすると、コンソール画面が表示されます。フィールドにパスと名前を入力して、[SUBMIT] ボタンをクリックします。3270 コネクタに対して接続がすでに存在している場合は、接続プール管理画面に表が表示されます。詳細については、該当するサーバガイドを参照してください。



exteNd Composer コンソールの左側の [Installed Products] リストで [3270] を選択して、exteNd Composer 3270 Connection Pool Manager を表示することもできます。



## 接続プール管理および配備済みのサービス

接続プール管理画面には、3270 Connect を使用した接続の現在の状態が表示されます。画面には、プール名、接続の説明、プールでの最大接続数、最大使用接続数、使用可能な接続数、および破棄された接続数をリストした表が含まれています。また、接続をリセットできるようにするボタンがある3つの列も含まれています。

[Reset Discarded] ボタンは、破棄された接続をリセットし、表に反映します。[Reset Pool] ボタンは、使用可能な接続と破棄された接続をリセットし、表に反映します。[Refill Pool] ボタンは、プールを最大接続数まで再読み込みします。

表の下には [Refresh] ボタンがあり、このボタンをクリックすると、接続プールの現在の状態が表示されます。この下のフィールドでは、配備済みの lib ディレクトリへの相対パスを入力することによって、ログオン接続プールを初期化できます。この操作は、配備済みの jar を解凍しないと動作しません。終了したら [SUBMIT] ボタンをクリックします。

## 接続破棄の動作

接続プールにおけるパフォーマンス上の利点は、一度に複数のユーザが特定のリソースやリソースセットにアクセスできることです。ログオンコンポーネントでの接続の確立は、テーブルからユーザ ID とパスワードを選択することから開始します。接続に失敗すると、このユーザ ID とパスワードに対して接続が破棄され、接続が確立されるまで別の接続の確立が試行されます。接続に失敗しても、正常な接続の確立が妨げられるわけではありません。

Telnet 用 Connect では、不正なユーザ ID、タイムアウトしたパスワードなど理由を問わず、確立できなかった接続をすべて破棄し、他の接続を再使用することによって、確立できなかった接続以外に同じ問題が発生しないようにします。接続が使用不可能と判断された場合、3270 用 Connect では、「Logon connection in pool <Pool name> was discarded for User ID <User ID>」というメッセージをシステムログに書き込みます。

## 画面の同期

画面を同期すると、プールのユーザに特別な影響が生じます。たとえば、あるユーザが画面を元の状態に戻さずに接続から離れた場合、次のユーザは、予期しない状態の画面でセッションを開始することになるため、エラーが発生します。これを防ぐために、ユーザが接続プールで指定できる画面式が用意されています。3270 コンポーネントの最後のアクションは、正しいログオン画面がアクティブな状態でセッションを終了させるようにする正しい Send Attention Key アクションであることが重要です。

ユーザセッションの終了時に不正な画面があるかどうかをラインタイム時に確認する場合は、関数を実行するコンポーネントのアクションモデルの最後に Function アクションを含めます (次を参照)。

```
function checkValidReleaseScreen (ScreenDoc)
{
    var screenText = ScreenDoc.XPath("SCREEN").item(0).text
    if((screenText.indexOf("MENU") != -1 ||
screenText.indexOf("APLS") != -1) &&
(screenText.indexOf("COMMAND UNRECOGNIZED") == -1 ||
screenText.indexOf("UNSUPPORTED FUNCTION") == -1))
    {
        return true;
    }
    else // Write error messages to
        // System.out and System.err:
    {
        java.lang.System.out.println("Warning - Releasing logon
connection at bad screen");
        java.lang.System.err.println("Warning - Releasing logon
connection at bad screen");
    }
}
```

```
        return false;
    }
}
```

この関数では、画面テキストを確認し、最後の画面が正しくない場合に「false」を返します。画面に「MENU」や「APLS」が含まれており、「COMMAND UNRECOGNIZED」や「UNSUPPORTED FUNCTION」は含まれていない場合は、「true」が返されます。



# A

## テスト

### アニメーションテストと配備テストの環境的相違

Composer でのアニメーションテストと配備テストでは、かなり環境的な違いがあります。両方のタイプのテストは、作成したコンポーネントやサービスを適切に検証するために必要です。違いについては、次の表に詳しく説明します。

表 A-1

	Composer でのテスト	配備テスト
OS	Win98、WinNT、または Win 2000	WinNT または Sun Solaris
プラットフォーム	JRE (Java Runtime Environment)	フェイルオーバ、セキュリティ、接続 MGT などに対する JRE サポートを完全に備えたアプリケーションサーバ
コンポーネントまたはサーバの起動	Composer から直接的	サービストリガによるのみ (つまり、配備サーブレットまたは EJB)
xObject アクセス	ディスクファイルから	アプリケーションサーバ内の JAR ファイルから
ランタイムコンテキスト	個々のコンポーネント、またはサービス内で実行されているコンポーネントをテスト	常にサービス内から

	Composer でのテスト	配備テスト
サービス入力およびコンポーネント入力	入力ドキュメントは、ローカルマシンのサンプル XML ドキュメントだけでなく、他のサービスやコンポーネントからの DOM に由来することが多い	入力ドキュメントは、サービストリガ、または他のサービスやコンポーネントからの DOM を介して、サービスとコンポーネント内に渡される
次に対するプロジェクト変数： * ログファイルのパス * DTD URI * XSL URI * メール送信サーバ * XML 交換 URI の変更	通常はローカルマシン上の場所を指す (ただし、サーバや Web 上の場所でも可)	プロダクションサーバおよび Web 上の場所を指す
テストツール	Log アクション以外に、ダイアログボックス (ECMAScript alert() 関数) を使用してランタイム値を表示することも可能	ダイアログボックスの使用は不可
JDBC 接続	サーバ接続プールを使用しない - テストデータベースを使用している可能性がある	サーバ指定の接続プールを使用する - 製品データベースを使用している
HTTP 接続	ローカルマシンまたはテストサーバを指している可能性がある	テストサーバまたはプロダクションサーバを指している
3270 接続	通常、システムのテスト、およびユーザ ID とパスワードのテストを指している	製品システム、および製品ユーザ ID とパスワードを指している
5250 接続	通常、システムのテスト、およびユーザ ID とパスワードのテストを指している	製品システム、および製品ユーザ ID とパスワードを指している
CICS (ECI) - RPC 接続	通常、システムのテスト、およびユーザ ID とパスワードのテストを指している	製品システム、および製品ユーザ ID とパスワードを指している

# B

## Java コードページ

### 文字エンコーディングについて

exteNd Composer の文字エンコーディング変換機能は、使用されている Java VM と密接な関係があります。サポートされる文字エンコーディングは、Java 2 プラットフォームの実装によって異なります。Sun の Java 2 Software Development Kit, Standard Edition, v. 1.2.2 for Windows or Solaris および Java 2 Runtime Environment, Standard Edition, v. 1.2.2 for Solaris では文字エンコーディングがサポートされます。文字エンコーディングは、次の Sun の Web ページで参照できます。

**<http://java.sun.com/products/jdk/1.2/docs/guide/internat/encoding.doc.html>**

Sun の Java 2 Runtime Environment, Standard Edition, v. 1.2.2 for Windows には、米国版と国際版の 2 種類があります。国際版 (libi18n.jar ファイルを含む) では、両方の表にあるすべての文字エンコーディングがサポートされます。



# C

## 3270 用語集

### AID キー

3270 がサポートしているキーは次のとおりです。

表 C-1

3270 キー	PC キー
Enter	Enter
Clear	ESC
PF1 ~ PF12	F1 ~ F12
PF13 ~ PF24	Shift + F1 ~ Shift + F12
PA1 ~ PA3	Ctrl + F1 ~ Ctrl + F3

### Map Screen アクション

アクションモデル内の端末データストリーム (TDS) 画面が受信する場所を示す特別な編集不可アクション。この画面を操作するアクションは、アクションモデル内で Map アクションの Screen アクションラインの下層に置かれます。

### Multi Row 変換

DOM と 3270 画面の間で、3270 画面内のデータの行を表すマッピングに対する特別なアクション。また、アクションは ScreenDom を変換して、画面の階層ビューを作成します。このアクションは、Multi Row Group アクション、Decision アクション、および他のアクションと一緒に、Multi Row Wizard によって作成されます。これらのアクションの編集時には特別な注意が必要です。

### ScreenDoc

現在の 3270 の画面表示を XML ドキュメントとして表す、3270 ( および 5250) コンポーネントエディタウィンドウにある特別な DOM。

## Send Attention Key

AID キーを押すとアクションモデルに表示されるアクション。

## TDS

端末データストリーム

## ネイティブ環境ペイン

実際の 3270 端末セッションのエミュレーションを表示する、3270 コンポーネントエディタ内のペイン。

## フィールド

TDS に含まれるデータユニット。フィールドは、画面、データ項目、または表示されない特別なブランクフィールドである可能性があります。各フィールドには、どのように表示するか、そして領域を変更可能にするかどうかを決定する独自の属性があります。

# D

## 予約語

次の用語は、exteNd Composer 3270 Connect の予約語であるため、ユーザ作成ラベルまたはユーザ作成スクリプトでは使用しないでください。

- USERID
- PASSWORD
- PART
- MENU
- AID キー
- SEND ATTENTION KEY
- MULTIROW



# 索引

## 数字

- 3270 Connect 13
- 3270 固有
  - [Component] メニュー 41
  - [View] メニュー 41
  - コンテキストメニュー 42
  - メニューバー項目 41
- 3270 コンポーネント
  - 概要 14
  - 作成で使用される一般的な手順 17
  - 作成の前に 33
  - 新規作成 33
- 3270 コンポーネントエディタ
  - アプリケーションの作成 16
  - ウィンドウについて 36
  - はじめに 17
- 3270 セッションの記録 48
- 3270 専用
  - Expression Builder 拡張 48
  - Map Screen 46
  - Multi Row 47
  - Send Attention Key 47
  - アクション 46
- 3270 端末コンポーネントの作成 120
- 3270 端末コンポーネントのパフォーマンスの最大化 120
- 3270 端末セッションパフォーマンス 99
- 3270 ネイティブ環境ペイン 38
- 3270 の XML テンプレート 31
- 3270 ログオンコンポーネント 104
- 3270 ログオン接続のパフォーマンスの最大化 117

## A

- [Action] メニュー 93
- AID キー、定義 131
- Alias アクションの追加について 60

## C

- Component with Connection アクション 88

## D

- Data Exchange アクション 94

## E

- ECMAScript 20, 22, 93, 128
- EPI 3270 接続 20
- exteNd コネクタ 12

## G

- [Gateway URI] 20

## K

- KEEPALIVE 107
- KeepAlive アクション 104
- KeepAlive アクションを使用したパフォーマンスの最大化 108

## L

- Logoff アクション 104
- LOGOFF アクションのパフォーマンスの最大化 109
- Logon アクション 104

## M

- Map Screen アクション、定義 131
- Multi Row
  - 3270 専用 47
  - ウィザードについて 62
  - ウィザードを使用したデータの出力 72
  - ウィザードを使用したデータの入力 63, 66
  - サンプルについて 63
  - データの出力に使用するアクションの追加 79, 80
  - データの入力に使用するアクションの追加 70
- Multi Row 変換、定義 131

## O

- [Override the UID/PWD] 103

## R

Repeat アクション 95

## S

ScreenDoc DOM

機能 39

動作 39

ScreenDoc、定義 131

Send Attention Key

概要 47

定義 132

## T

TDS、定義 132

TN3270 接続 20

## あ

アクション

概要 45

基本および高度の使用 93

アクションの削除 62

アクションモデル

以前の記録の編集 53

新しいアクションの追加 57

アテンションキー、編集 56

アニメーション

実行 83

ツールの使用 83

アニメーションテストと配備テストの環境的  
相違 127

アプリケーションの作成 16

## う

ウィザード

Multi Row 62

データの出力に使用 72

データの入力に使用 63, 66

## え

エラーメッセージ 95

## か

カスタムスクリプト、作成 31

画面の同期 124

画面フィールド数の変更 96

## き

キーボードサポート 38

起動画面 104

基本的なアクション 93

記録、3270セッション 48

## こ

高度なアクション 93, 94

コードテーブルマップ、作成 31

コードページ

サポート 24

文字エンコーディング 129

コンポーネントエディタウィンドウ 36

## さ

サンプルトランザクション 17

## し

システムメッセージの処理 25

シングルサインオン 103

## す

スタイルシート

適用 92

ネイティブ環境ペインでの使用 92

スタイルシートリソース

作成 28

## せ

- セッション接続を使用したログオン接続の作成 118
- 接続破棄の動作 124
- 接続プールアーキテクチャ 100
- 接続プール管理および配備済みのサービス 123
- 接続プールの作成 110
- 接続リソース
  - 3270 での作成 18
  - 概要 18

## て

- 定数駆動型および式駆動型の接続 18

## と

- 動的に作成したドキュメント / 要素と静的に作成したドキュメント / 要素の違い 117
- トランザクション、サンプル 17

## に

- 認証 99

## ね

- ネイティブ環境ペイン 38
  - スタイルシートの使用 92
- ネイティブ環境ペイン、定義 132

## は

- パスワード 20

## ふ

- フィールド、定義 132
- プール接続を使用したログオン接続の作成 113
- プールの管理 121
- 負荷が原因による遅いパフォーマンス 99

## へ

- ヘルプ 16

## ゆ

- ユーザ ID 20

## ろ

- ログオンコンポーネントを使用したパフォーマンスの最大化 106
- ログオン接続の作成 113

